

五木村人口ビジョン

2020年3月
(令和2年)
熊本県五木村

はじめに

日本の人口は、2008 年をピークに減少局面に突入しており、地方では地域社会の担い手の減少が進む一方で東京圏への一極集中が進んでいます。

平成 26 年 12 月 27 日に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」においては、人口減少を「静かなる危機」と表現し、将来的には経済規模の縮小や生活水準の低下を招き、国としての持続性すら危うくなる問題としています。

熊本県では、全国よりも約 10 年早く人口減少の局面に入り、2003 年には出生数が死亡数を下回る自然減の状態に転じています。

国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の推計によれば、2045 年には熊本県の人口は 144.2 万人となり、2015 年の 178.6 万人と比べ約 20%減少し、年少人口及び生産年齢人口の減少と高齢人口の増加により、約 37%が 65 歳以上の高齢者になると予測されています。

五木村においては、エネルギー需要の変化や川辺川ダム問題により 1961 年から急激な人口減少の局面に入り、出生数が死亡数を下回る自然減、転入数が転出数を下回る社会減が継続しています。

社人研の推計によれば、2045 年には本村の人口は 384 人となり、2015 年の 1055 人と比べ約 64%減少し、年少人口及び生産年齢人口の減少と高齢人口の増加により、約 58%が 65 歳以上の高齢者になると予測されています。

今回、データを更新する「五木村人口ビジョン」は、まち・ひと・しごと創生法第 10 条に基づく「五木村まち・ひと・しごと創生総合戦略」を改定するに当たって、本村における人口の現状を分析し、人口減少に関する認識を村民の皆様と共有するとともに、2065 年の人口の見通しなど、今後めざすべき将来の方向を示すものです。

この人口減少問題は、「雇用」「結婚」「出産・子育て」「医療・福祉」等原因は多岐にわたり、また、行政だけで克服できるものではありません。村民の皆様とともに課題等の認識を共有し、安心して住み続けることができる村として持続していくために幅広く議論を深めていきます。

目 次

I. 人口の現状分析

1. 人口動向等の分析

(1) 総人口および年齢3区分の推移と将来推計	3
(2) 出生数、死亡数、転入数、転出数の推移	4
(3) 自然増減と社会増減の推移	4
(4) 年齢階級別の人口移動の状況	6
(5) 地域間の人口移動の状況	7
(6) 転入・転出者数	9
(7) 年齢階級別の純移動数	10
(8) 転入・転出先及び転入先・転出先数	11
(9) 男女産業別人口	12
(10) 年齢階級別産業割合	13
(11) 林業の位置づけ	15
(12) 開業率・廃業率	16

2. 将来人口推計

(1) 人口減少段階の分析	17
(2) 人口減少スピード	21
(3) パターン別の将来人口シミュレーション	22
(4) 集落別の将来人口シミュレーション	23

3. 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察

(1) 経済面に与える影響	32
(2) 公共施設の維持管理等に与える影響	35
(3) 商業施設等に与える影響	37

II. 人口の将来展望

1. 村民アンケート調査結果

(1) アンケート調査概要	43
(2) 移住・定住について	44
(3) 結婚について	51
(4) 出産について	55
(5) 育児について	61
(6) 進学希望について	64
(7) 地元就職について	66
(8) 自由意見等について	68

(9) U I ターンについて	70
-----------------	----

2. アンケート調査結果に基づく人口の将来推計

(1) 人口変動要素の将来の方向に基づく人口推計	77
(2) アンケート調査結果に基づく人口変動要素の検討	79

Ⅲ. 「基本目標」策定に向けて

1. 産業の特徴

(1) 産業別特化係数	87
(2) 人口規模との比較	87

2. 課題の整理

(1) GDPに与える影響	88
(2) 集落への影響	89
(3) S W O T分析例	90

I . 人口の現状分析

I. 人口の現状分析

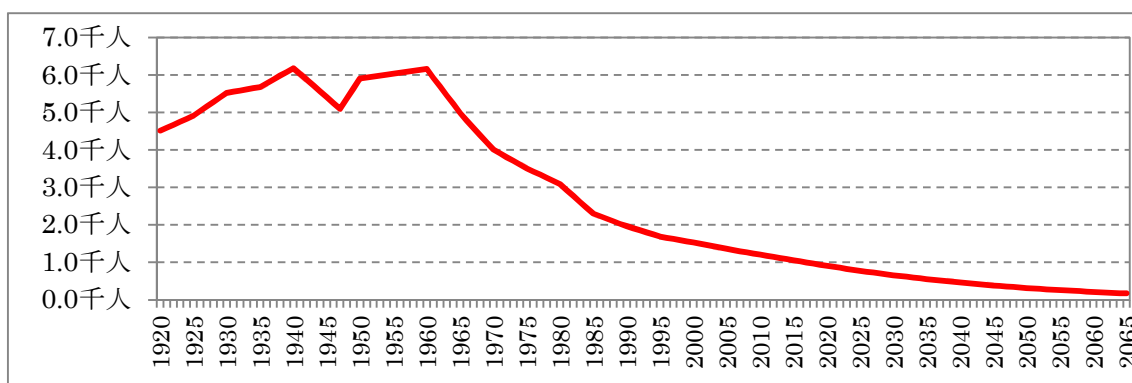
1. 人口動向等の分析

(1) 総人口および年齢3区分の推移と将来推計

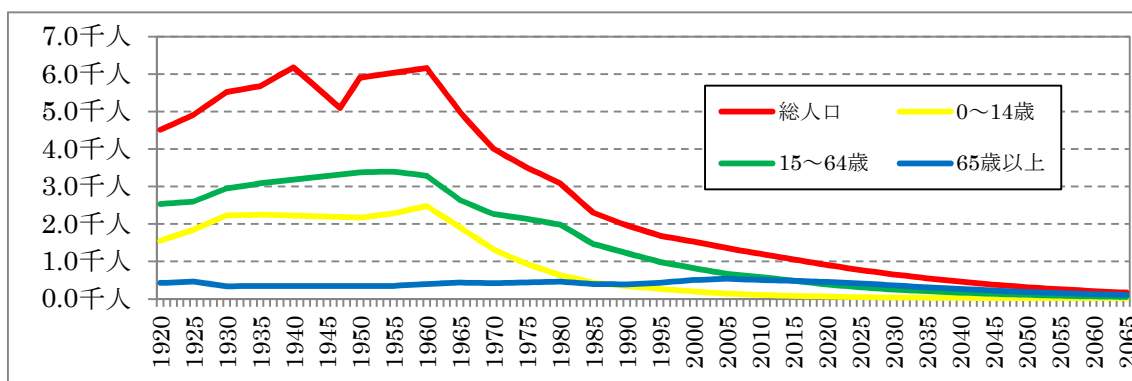
○五木村の総人口は、1940年に6,179人とピークを迎え、1965年に5,000人を割り込んだ以降は減少傾向が続いている。2015年には1,055人となり、ピーク時の2割弱となっている。2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）の推計値によると、2065年は173人にまで減少する見込みである。

○年齢3区分を各人口で見ると、年少人口（0～14歳）は戦後から1960年にかけて一定の水準を維持し、1960年時点では2,478人で比率は40.2%であった。その後、減少傾向をたどり2015年時点では81人（7.6%）となり、2065年は10人（5.8%）まで減少すると推計されている。生産年齢人口（15～64歳）は1955年に3,398人（56.3%）であったが、2015年時点では489人（46.3%）となり、2065年は55人（31.8%）に減少する。その一方で、老年人口（65歳以上）は高齢化の進展に伴い2015年時点では485人（46.0%）となり、2065年は108人（62.4%）に減少する。

図表 1-1 総人口の推移と将来推計



図表 1-2 年齢3区分別人口と将来推計

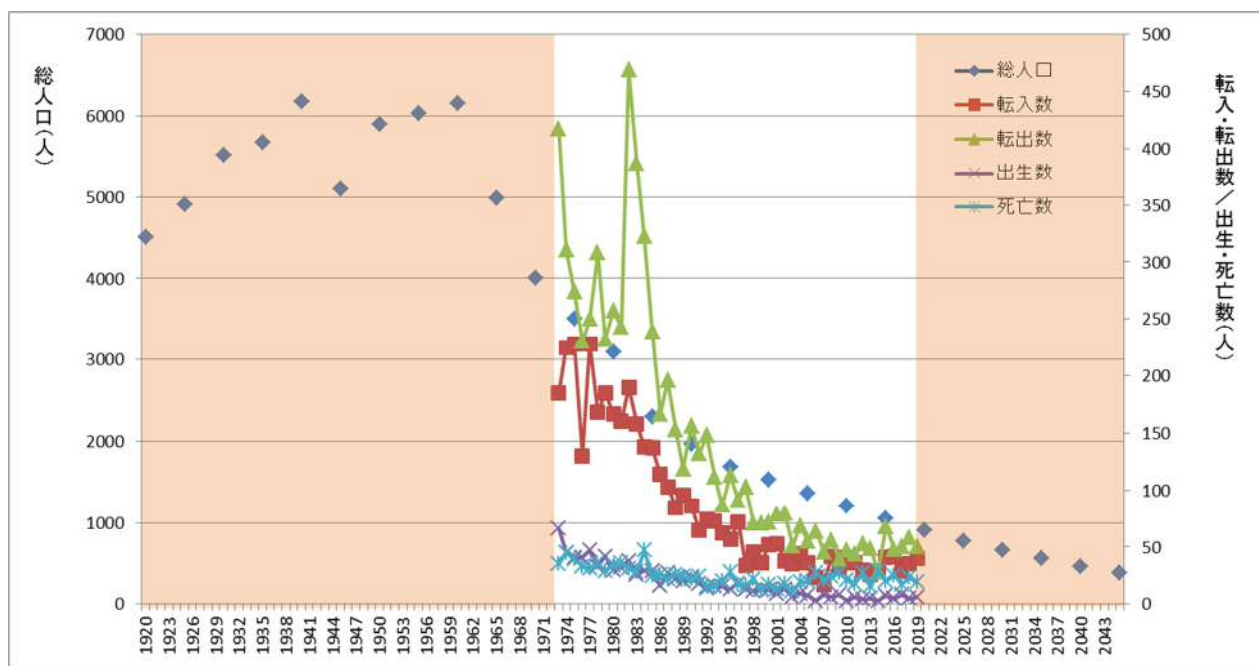


資料：図表 1-1、1-2 2015 年まで国勢調査、2015 年以降は国立社会保障・人口問題研究所推計

（２）出生数、死亡数、転入数、転出数の推移

- 五木村の出生数は、データのある 1973 年以降をみると同年の 66 人をピークに減少し、少子化による人口減少が続いている。2003 年以降は一ケタ台の出生数が続いている。一方、死亡数は 1973 年以降二ケタ台で推移している。
- 転入数は、1974 年、1975 年、1977 年に 200 人を超えた。転出数は、1973 年以降転入数を上回っている。

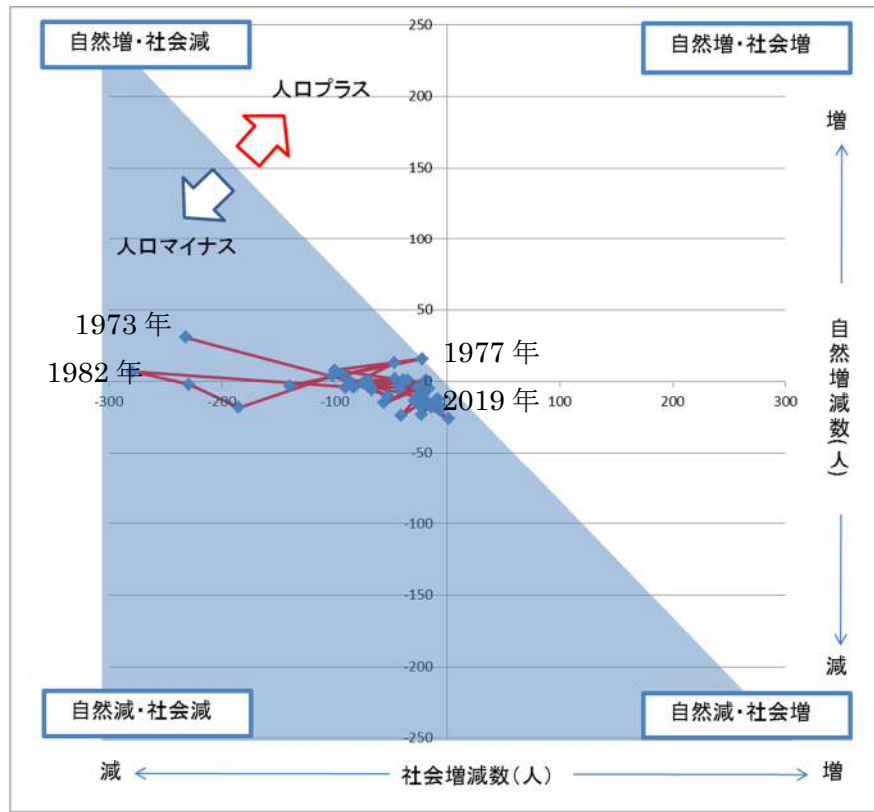
図表 1-3 出生数・死亡数、転入数・転出数の推移



（３）自然増減と社会増減の推移

- 1973年以降の五木村の人口増減の要因をみると、自然増減は1973～77年、1979年、1982年、1985年、1987年、1990年、1993年、1996年、1999年を除き死亡数が出生数を上回る。2000年以降は徐々にその差（自然減）は拡大し、2004年以降は2ケタで推移している。
- 社会増減については、年による変動はあるものの、ほぼ一貫して転出数が転入数を上回って推移している。
- 1973年以降、一貫して自然増が社会減を補いきれていないために、人口マイナス領域で推移している。2000年からは自然減と社会減が重なるダブル減局面が継続している。
- 特に出生は、母親世代人口の減少などの影響を受け、一貫して減少傾向にあり、出生数は2003年以降は1ケタ台が続き、厚労省の公表値では、合計特殊出生率は1.62～1.63にとどまる。（2013～2018年の間を村実績値の平均値で算定すると1.49）

図表 1-4 出生数・死亡数、転入数・転出数の推移



図表 1-5 出生数と合計特殊出生率の推移



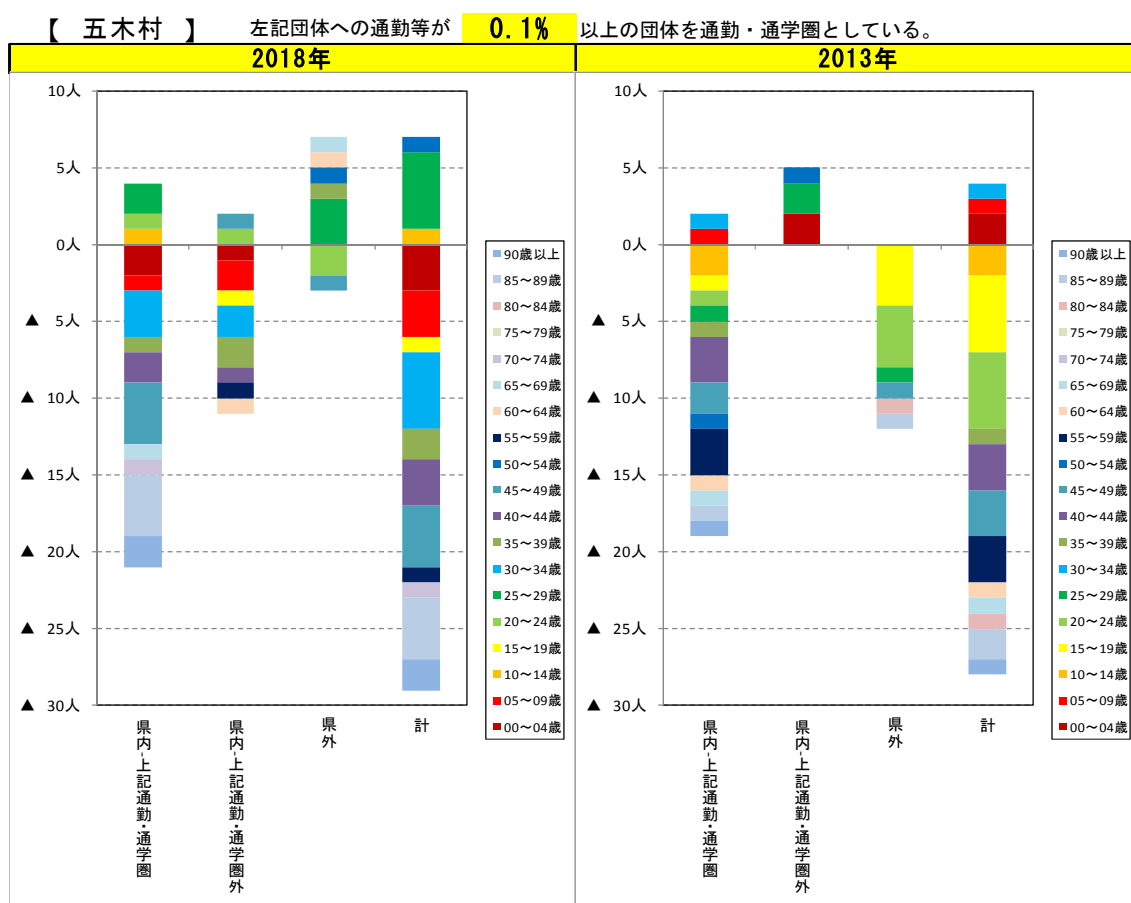
(4) 年齢階級別の人口移動の状況

○五木村では、長期的に転出者数が転入者数を上回る社会減の傾向が続いており、年齢階級別では、30～34歳（2018年△5人、2013年+1人）、45～49歳（△4人、△3人）、40～44歳（△3人、△3人）、0～4歳（△3人、+1人）、5～9歳（△3人、+1人）の転出超過が目立つ。

○30～49歳の子育て世代の転出超過が、0～9歳の年齢階級の転出超過に影響していると考えられる。

○その他の年齢階級では、3人以下の増減がみられる。

図表 1-6 年齢階級別純移動数（2018年、2013年）

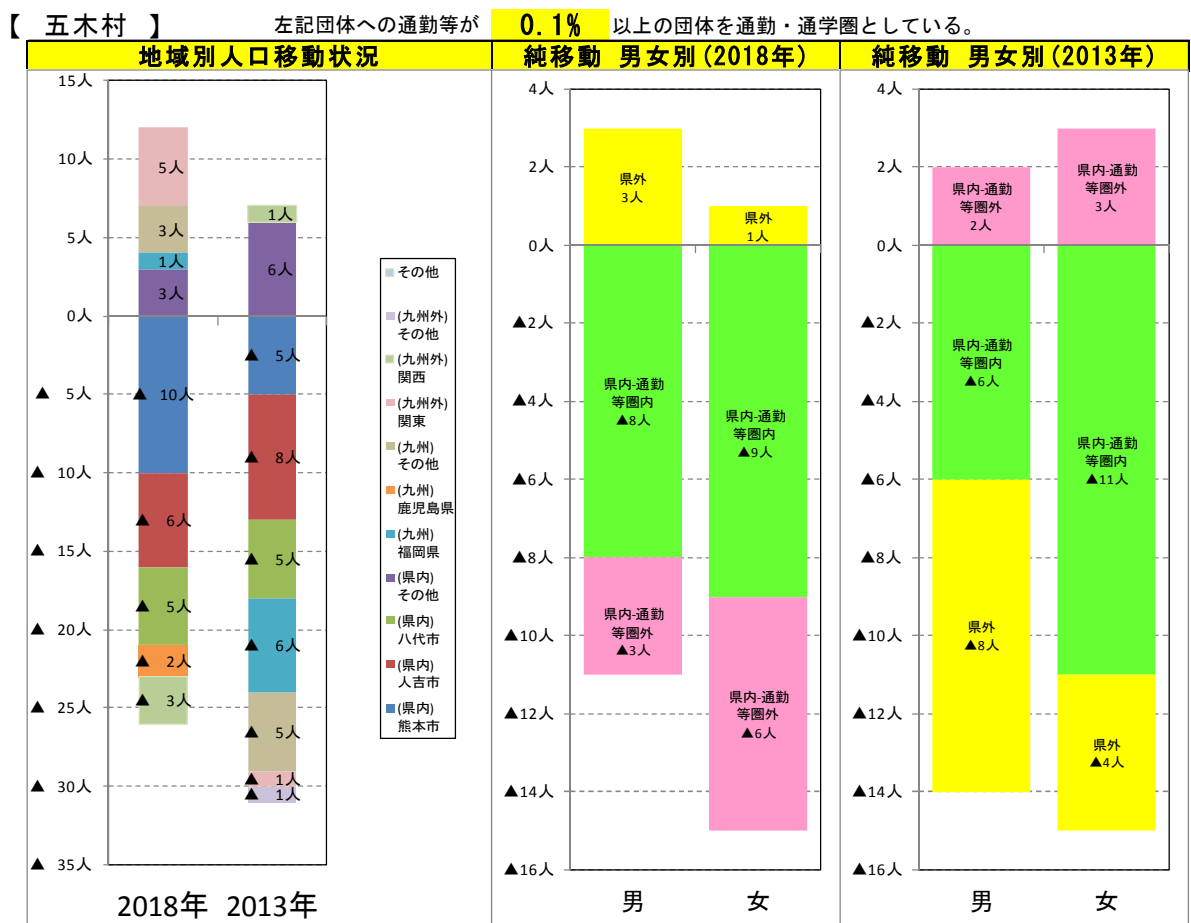


(5) 地域間の人口移動の状況

○五木村の地域ブロック別の人口移動をみると、県内への移動による転出超過は熊本市（2018年△10人、2013年△5人）が最も多く、山江村（△8人、±0人）人吉市（△6人、△8人）、八代市（△5人、△5人）と続く。

○県外への移動による転出では、鹿児島県（△2人、±0人）、関西地方（△3人、+1人）が最も多く、鹿児島県と関西地方を除くその他地域では、（+9人、△7人）などとなっている。

図表 1-7 地域間の人口移動の状況（2018年、2013年）



○五木村の1日の流出入状況を国勢調査（2015年）でみると、五木村の昼間人口は1,169人となり、以下のような特徴がみられる。

- 五木村は昼間人口が夜間人口を114人上回り、流入超過となっている。
- 流入人口のうち、43.9%は人吉市から、次いで相良村（16.7%）、あさぎり町（15.0%）となり、人吉球磨地域からの流入が93.1%を占める。
- 流出人口のうち、30.0%は人吉市へ、次いであさぎり町（12.1%）となっており、人吉・球磨地域への流出が81.5%を占める。

図表 1-8 五木村の1日の流出入状況（平成27年 国勢調査）

五木村の人口	1,055
--------	-------

流出人口（五木村から他の市町村へ通勤・通学している人）

	単位: 人	%
人吉市	18	30.0%
相良村	10	16.7%
あさぎり町	9	15.0%
多良木町	5	8.3%
熊本市	4	6.7%
八代市	4	6.7%
錦町	3	5.0%
湯前町	2	3.3%
球磨村	2	3.3%
菊池市	1	1.7%
宇城市	1	1.7%
氷川町	1	1.7%
合計	60	100.0%

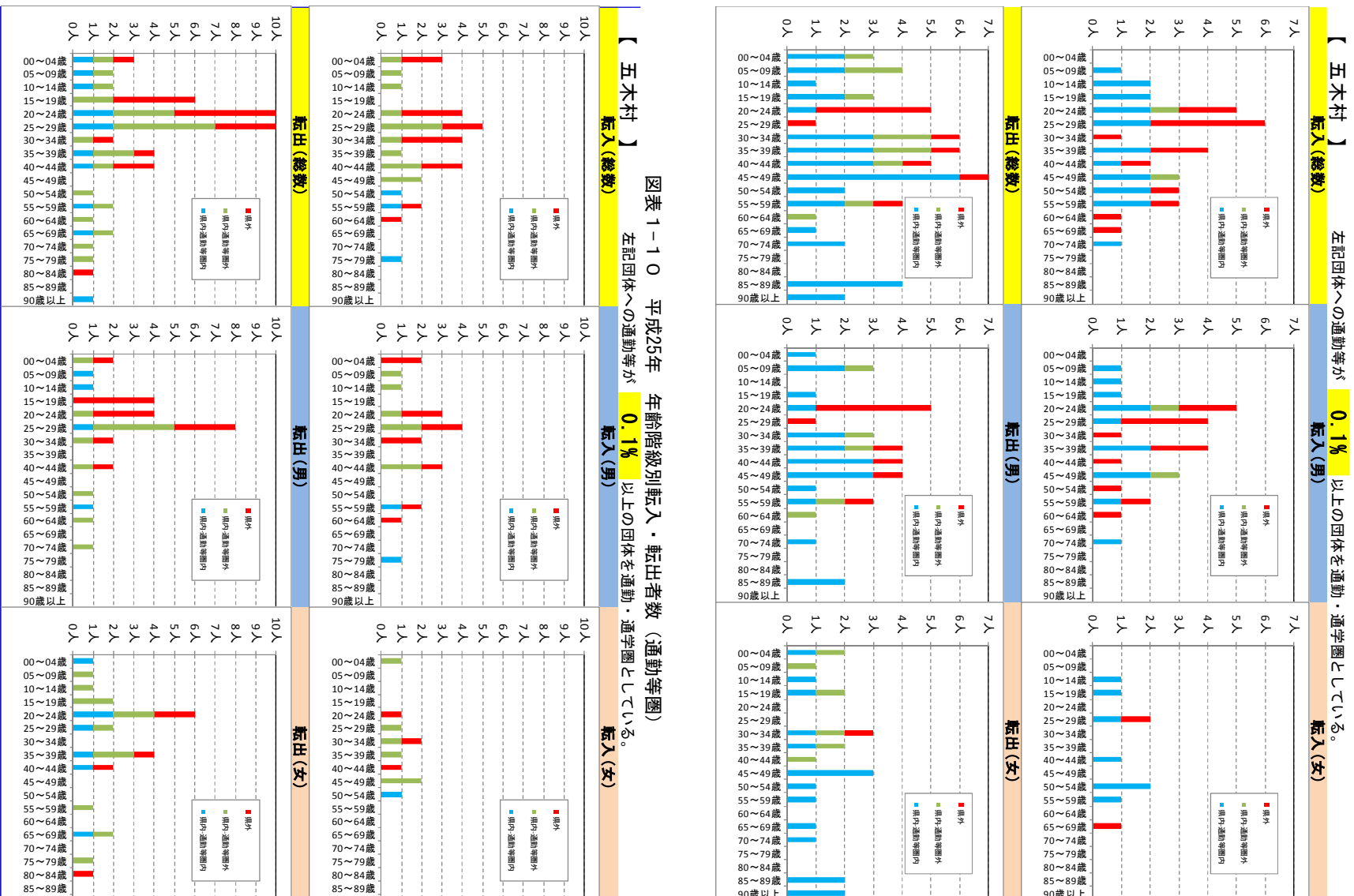
流入人口（他の市町村から五木村へ通勤・通学している人）

	単位: 人	%
人吉市	76	43.9%
あさぎり町	21	12.1%
相良村	20	11.6%
錦町	19	11.0%
多良木町	11	6.4%
山江村	6	3.5%
八代市	4	2.3%
熊本市	3	1.7%
湯前町	3	1.7%
水上村	3	1.7%
球磨村	2	1.2%
宇城市	1	0.6%
県外	4	2.3%
合計	173	100.0%

(6) 転入・転出者数

○五木村では、20～24歳、25～29歳において転入者数、転入者数が多く、県内や県外の通勤等圏外への転入、転出が多い傾向となっている。

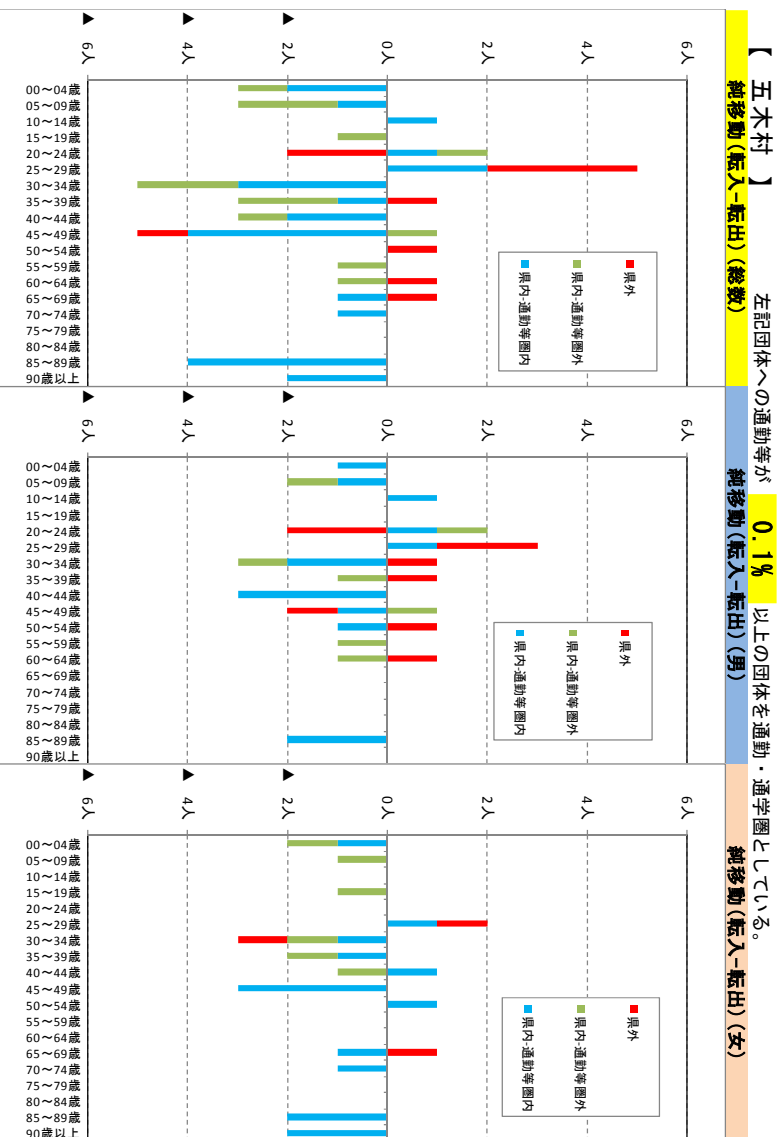
図表 1-9 平成30年 年齢階級別転入・転出者数 (通勤等圏)



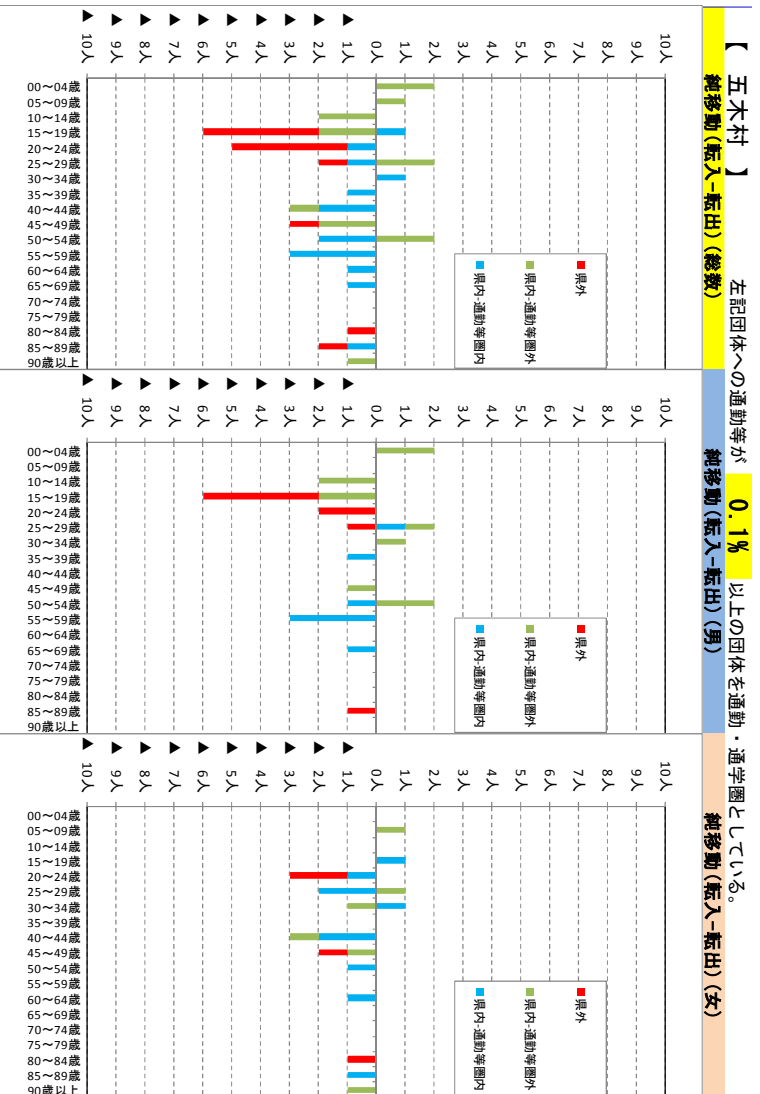
(7) 年齢階級別の純移動数

○五木村の年齢階級別の純移動（転入－転出）の推移は、転出超過となっている階級が多い。特に15～19歳、20～24歳、25～30歳において県内や県外の通勤等圏外への移動が多い傾向となっている。

図表 1-1 1 平成30年 年齢階級別純移動数（通勤等圏）



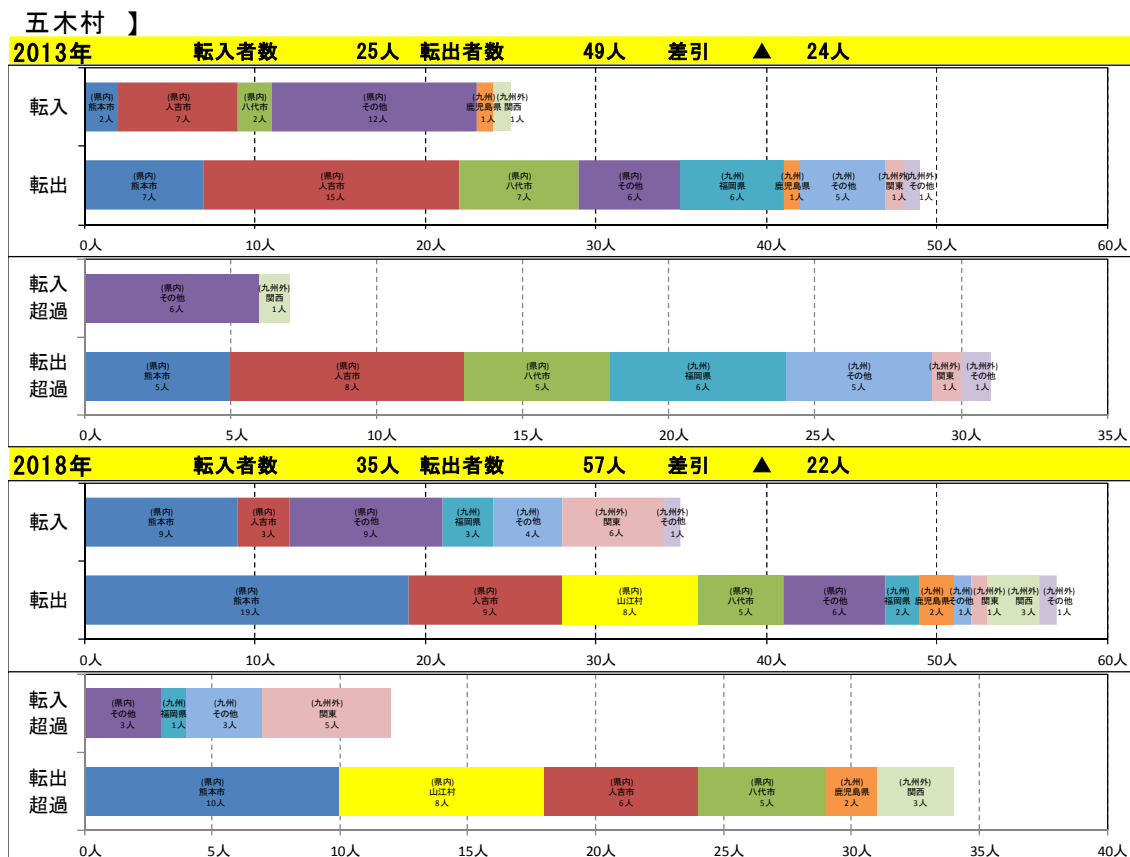
図表 1-1 2 平成25年 年齢階級別純移動数（通勤等圏）



(8) 転入・転出先及び転入先・転出先数

○五木村は、転出者数が転入者数を上回っており、転出先は人吉市をはじめ県内が多く、2018年の場合、熊本市、人吉市、山江村、八代市で約7割を占める。

図表 1-13 転入・転出数及び転入先・転出先 (2013年・2018年)

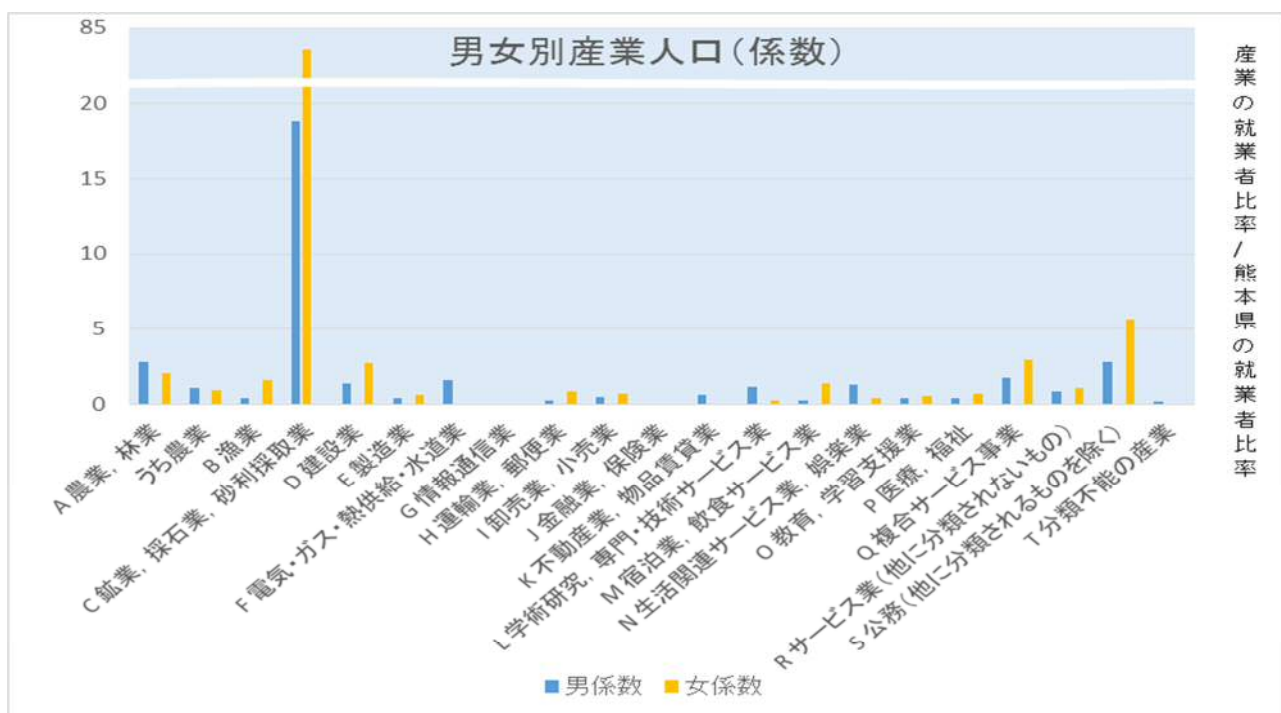
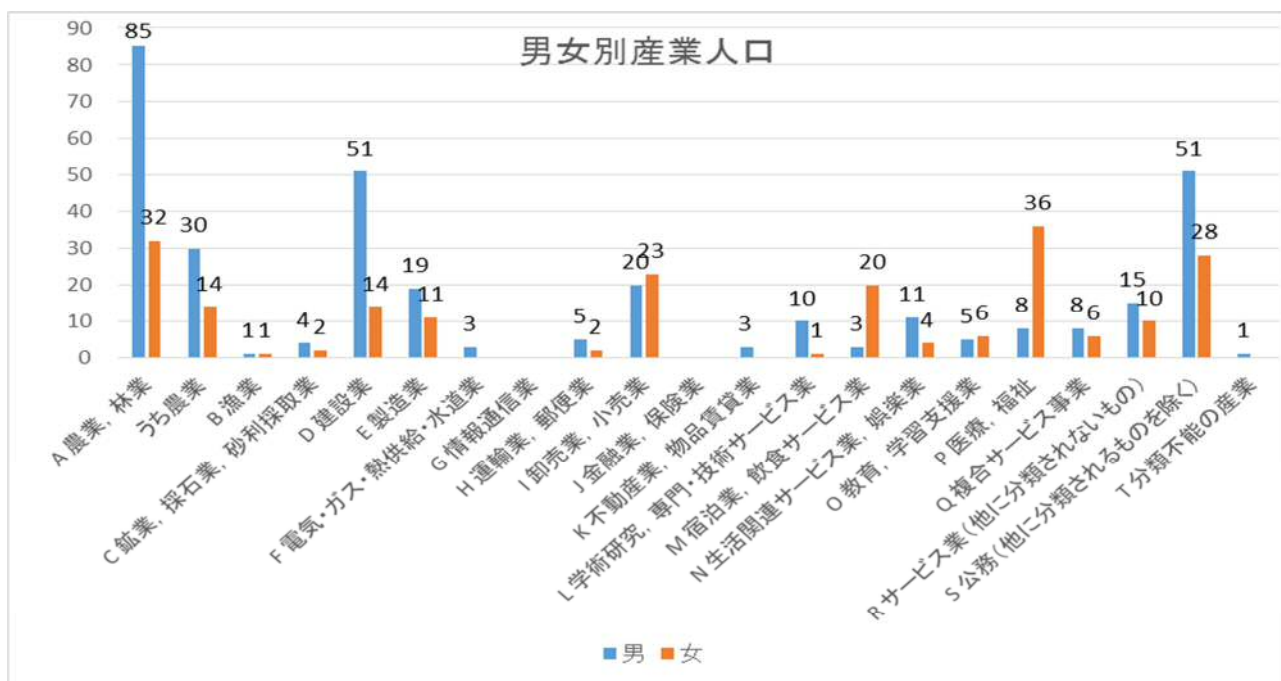


(9) 男女産業別人口

○男性は、林業の就業者が最も多く、以下、建設業、公務、卸売業・小売業、製造業、サービス業の順で多い。

○女性は、医療、福祉の就業者が最も多く、以下、公務、卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業、林業、製造業の順で多い。

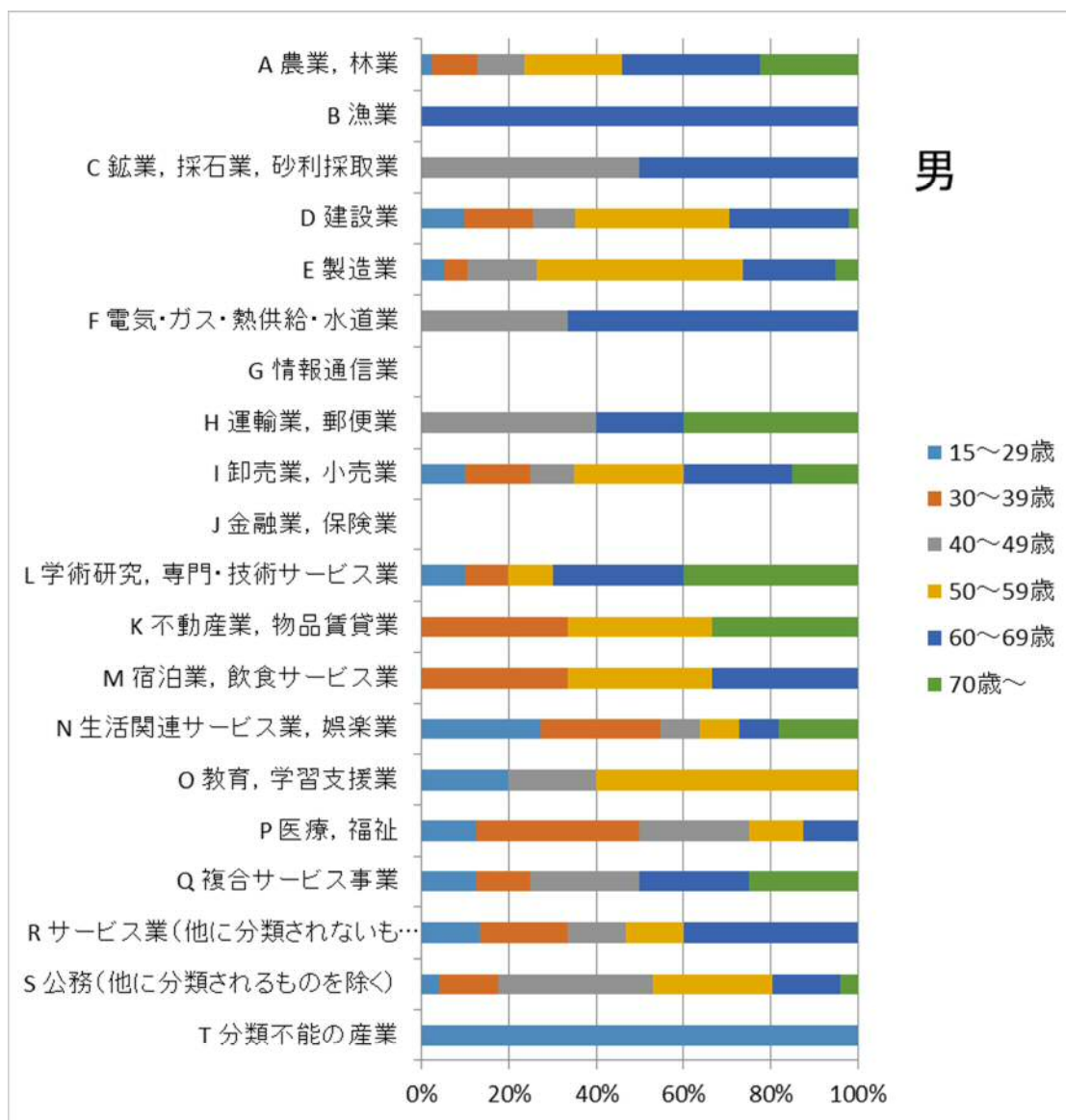
図表 1-14 男女別産業人口



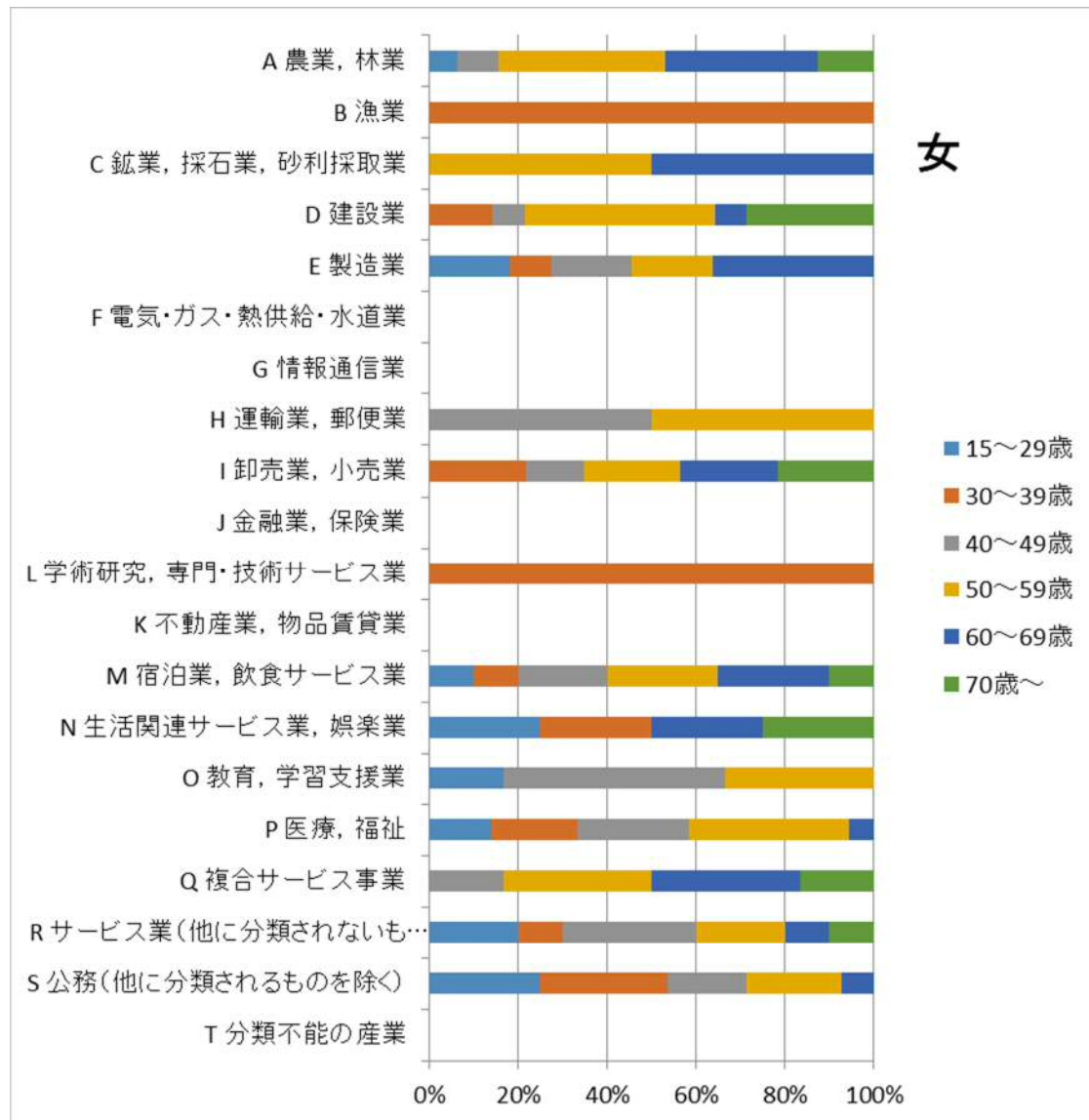
(10) 年齢階級別産業割合

○男性では殆どの業種において50歳以上が半数を超える業種となっている。

図表 1-15 年齢階級別産業割合



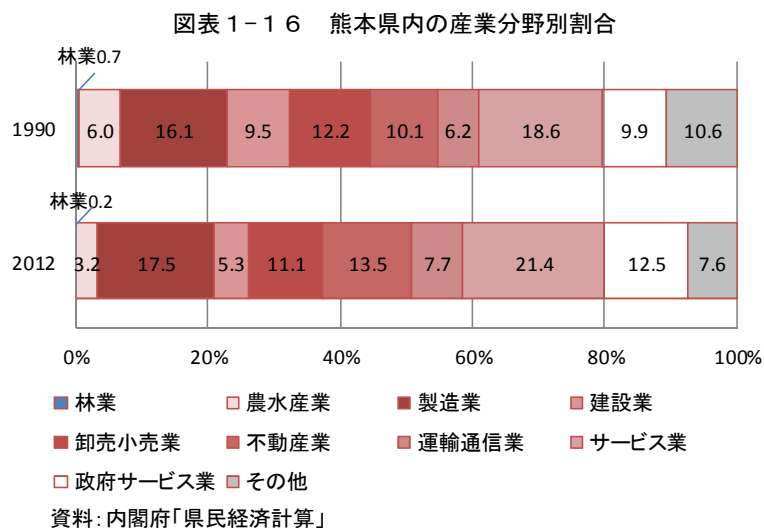
○女性では、農業・林業、建設業、製造業、小売、飲食・宿泊業などで50歳以上が半数を超える業種となっている。



総務省「国勢調査」

(11) 林業の位置づけ

○熊本県内における林業の位置づけを内閣府の県民経済計算でみると、県内総生産額（2012年度）に占める林業のシェアは0.2%にすぎない。また、1990年度と比較すると0.7%から0.5ポイント低下している



○熊本県の市町村内総生産額で林業のシェアが高い順にみると、五木村（7.4%）が最も高く、水上村（5.5%）、球磨村（4.5%）と続き、人吉球磨地域と阿蘇地域が上位を占めている。次に林業就業者が占める割合の高い順にみると、五木村（18.1%）が突出しており、以下水上村（9.9%）、球磨村（7.1%）と続いている。このように、五木村における林業は重要な産業に位置づけられる。

図表 1-17 熊本県内の市町村内総生産額と就業者に占める林業の構成比
(単位: %)

	総生産額		就業者	
1	五木村	7.4	五木村	18.1
2	水上村	5.5	水上村	9.9
3	球磨村	4.5	球磨村	7.1
4	山江村	2.5	山江村	4.2
5	山都町	2.0	湯前町	3.5
6	産山村	1.9	相良村	2.8
7	高森町	1.5	多良木町	2.5
8	南小国町	1.4	小国町	2.4
9	小国町	1.3	産山村	2.4
10	相良村	1.3	高森町	2.0
-	(平均)	0.2	(平均)	0.3

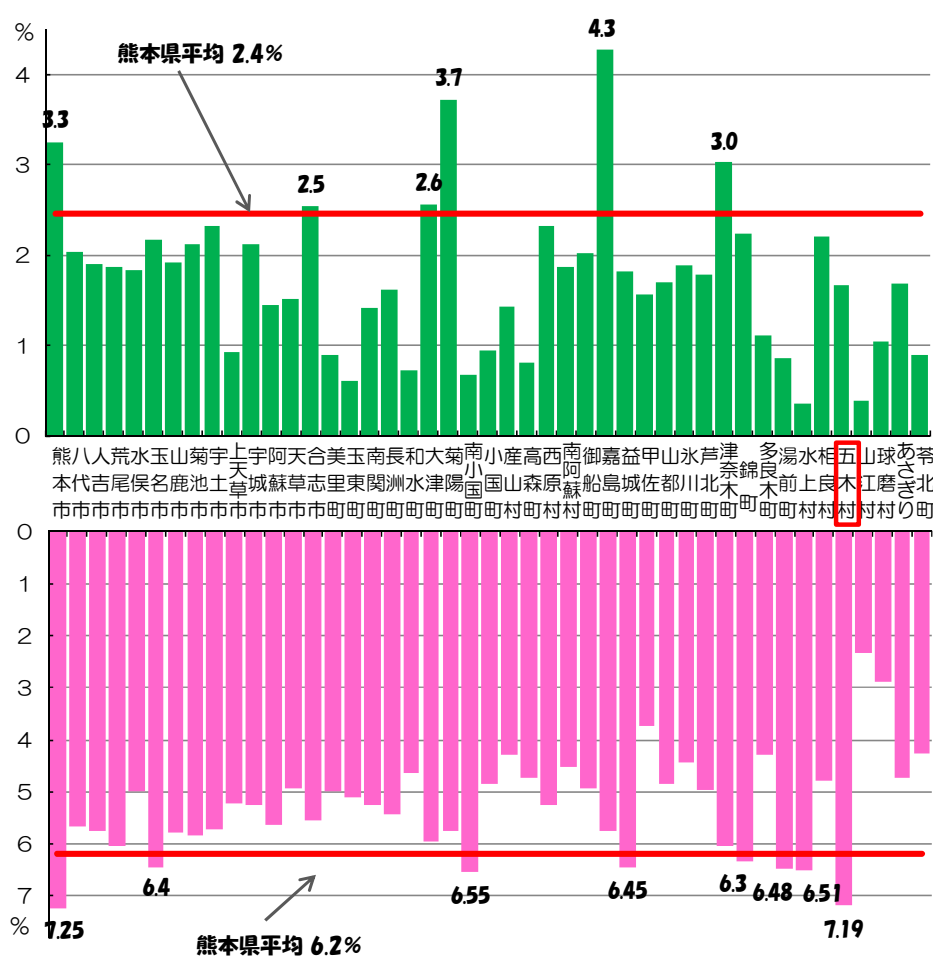
資料：熊本県「市町村民所得推計報告書」、総務省「国勢調査」

(12) 開業率・廃業率

○総務省の経済センサス活動調査によれば、五木村の開業率は1.7%で熊本県平均2.4%を下回る。

○廃業率は熊本県平均の6.2%を上回り、7.19%となっている。

図表 1-18 熊本県内の市町村の開業率と廃業率（事業内容不詳の事業所を含む）



資料：総務省「2012年経済センサス」

2. 将来人口推計

(1) 人口減少段階の分析

○五木村を含む人吉・球磨地域の人口の今後の推移を1995年から2025年までの20年間、2015年から2045年までの30年間の人口増減率でみてみると、ほとんどの地域で減少幅が拡大する中、人吉・球磨地域は2015年から2025年は△17.9%、2045年は△41.9%となる。なお、2045年までの30年間で3割以上落ち込む地域は、人吉・球磨地域のほか、荒尾・玉名地域、山鹿地域、阿蘇地域、水俣・芦北地域、天草地域となり、特に県内多くの地域で人口減少が進むとみられる。

○市町村別にみた2015年から2045年までの30年間の増減率では、増加するのは菊陽町(+20.3%、大津町(+16.1%)、合志市(+13.3%)の3市町のみとなる。一方、五木村(△63.6%)は、同じく人吉・球磨地域の球磨村(△61.4%)とともに6割超減少する見込みである。

図表 1-19 地域別の人口推移

(単位:人、%)

地域名	1995年 (平成7年)	2015年 (平成27年)	1995年比	2025年 (令和7年)	2015年比	2045年 (令和27年)	2015年比
熊本市	708,097	740,822	▲ 4.6	739,810	▲ 0.1	690,173	▲ 6.8
宇城地域	112,612	107,115	▲ 4.9	97,879	▲ 8.6	77,671	▲ 27.5
荒尾・玉名地域	179,138	161,320	▲ 9.9	144,050	▲ 10.7	108,229	▲ 32.9
山鹿地域	60,991	52,264	▲ 14.3	45,972	▲ 12.0	33,609	▲ 35.7
菊池地域	152,119	180,973	▲ 19.0	189,263	▲ 4.6	188,532	▲ 4.2
阿蘇地域	73,191	64,393	▲ 12.0	56,996	▲ 11.5	42,715	▲ 33.7
上益城地域	90,967	85,768	▲ 5.7	77,427	▲ 9.7	62,554	▲ 27.1
八代地域	157,999	139,466	▲ 11.7	126,205	▲ 9.5	98,963	▲ 29.0
水俣・芦北地域	56,621	47,745	▲ 15.7	40,300	▲ 15.6	26,541	▲ 44.4
人吉・球磨地域	108,197	88,820	▲ 17.9	75,798	▲ 14.7	51,636	▲ 41.9
天草地域	154,103	117,484	▲ 23.8	97,608	▲ 16.9	61,826	▲ 47.4
合計	1,854,035	1,786,170	▲ 3.7	1,691,308	▲ 5.3	1,442,449	▲ 19.2

図表 1-20 2045年の市町村別の人口の増減(上位、下位 10位 2015年比)

順位	市町村名	人口 (人)	2015年比 (%)
1	菊陽町	49,310	20.3
2	大津町	38,822	16.1
3	合志市	66,137	13.3
4	熊本市	690,173	△ 6.8
5	嘉島町	8,432	△ 6.9
6	西原村	5,914	△ 13.1
7	益城町	27,801	△ 17.3
8	宇土市	29,629	△ 20.0
9	八代市	91,976	△ 27.8
10	宇城市	43,112	△ 27.9

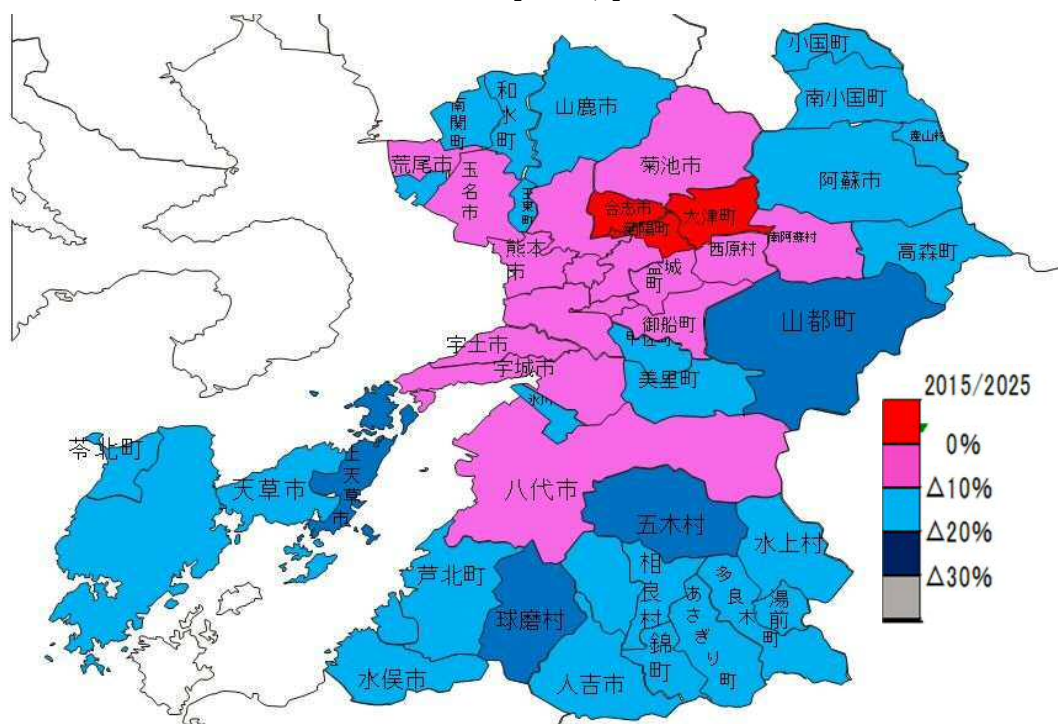
順位	市町村名	人口 (人)	2015年比 (%)
36	小国町	3,645	△ 49.3
37	苓北町	3,849	△ 50.3
38	芦北町	8,519	△ 51.8
39	美里町	4,930	△ 52.3
40	湯前町	1,878	△ 52.9
41	相良村	2,052	△ 54.1
42	上天草市	12,061	△ 55.3
43	山都町	6,441	△ 57.5
44	球磨村	1,427	△ 61.4
45	五木村	384	△ 63.6

資料: 1995年、2015年総務省「国勢調査」

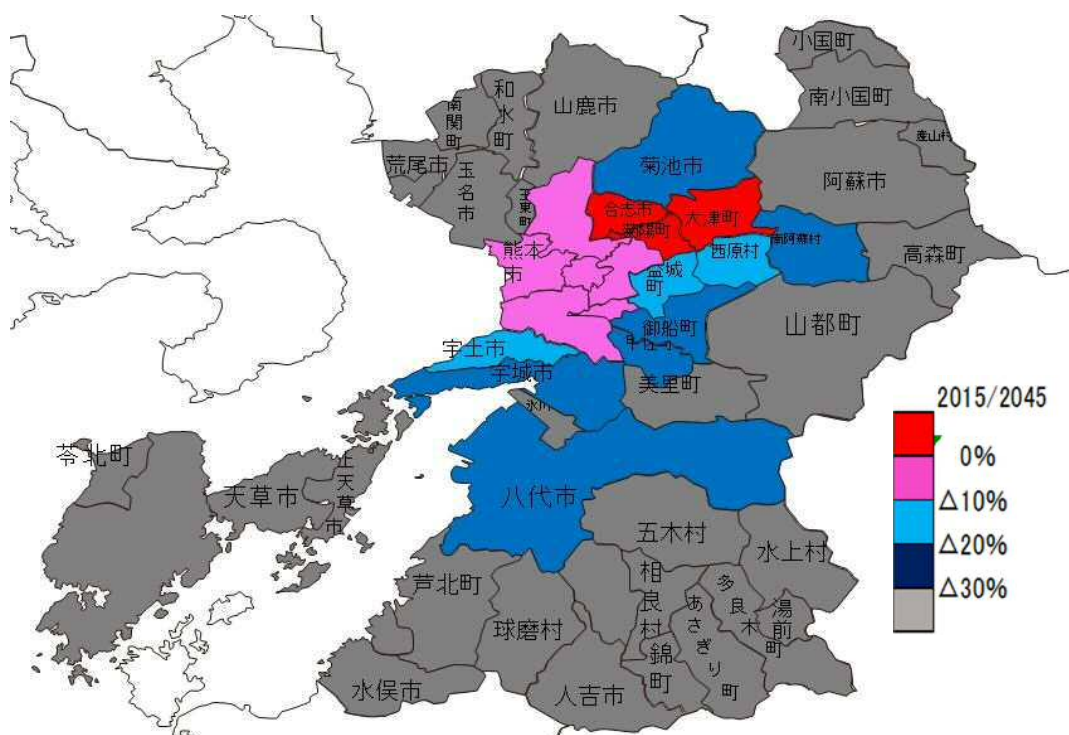
2025年、2045年 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

図表 1-2 1 熊本県内市町村の将来人口推移（2025年、2045年、ともに2015年比）

【2025年】



【2045年】



資料2015年総務省「国勢調査」、2025年、2045年国立社会保障・人口問題研究所予測データより

○人口の減少段階は年齢3区分（年少人口、生産年齢人口、老年人口）の推移によって、3つの段階を経て進行するとされている。これを、図表1-22で2010年時点の人口と社人研推計（2040年）との比較をもとに、熊本県内の市町村にあてはめてみる。

○老年人口が増加し、年少・生産年齢人口が減少する「第1段階」は、15市町村（33.3%）があてはまる。熊本市や菊池地域の合志市、菊陽町などが該当する。なお、大津町は老年人口とともに年少・生産年齢人口が増加しているため、便宜的に同段階に入れている。「第2段階」は、老年人口が維持もしくは微減し、年少・生産年齢人口が減少する段階で、八代市や人吉市や10市町村（22.2%）が該当する。

○「第3段階」は、老年人口も減少し、年少・生産年齢人口も減少する段階で、最も人口減少が進んでいる段階であるが、五木村は65.5%減少し同段階にあてはまる。なお、水俣市や天草市など20市町村（44.4%）が該当する。この段階の市町村は、年少・生産年齢人口の減少幅も大きく、五木村や山都町で62.0%減少しているのをはじめ5割前後となっているのが特徴である。また、人口1万人未満の町村が11町村あり、同段階の7割強を占めている。

○なお、2025年から五木村は第3段階に入る。

図表 1-2 2 人口減少段階別・人口規模別の市町村の状況

	熊本県内45市町村の人口規模(2010年)				合計
	10万人以上	5万人以上 10万人未満	1万人以上 5万人未満	1万人未満	
第1段階	1	3	8	2	15 (33.3%)
第2段階	1	3	5	2	10 (22.2%)
第3段階	0	1	8	11	20 (44.4%)
合計	2	7	21	15	45 (100.0%)

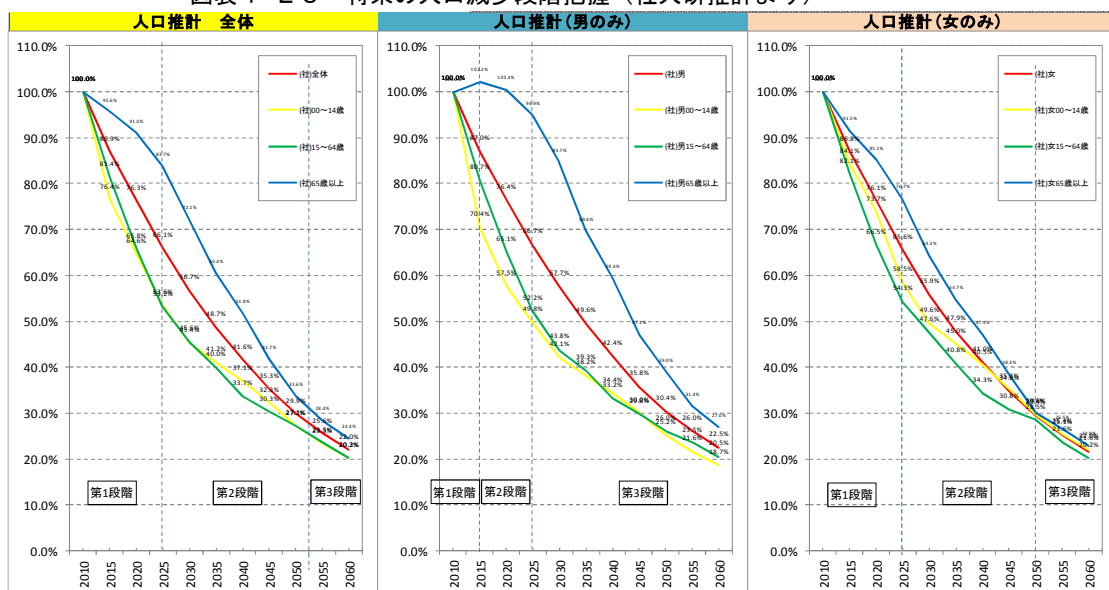
資料：熊本県「熊本県 人口推移」

備考：第1段階…老年人口が増加、年少・生産年齢人口が減少

第2段階…老年人口が維持もしくは減少（1割未満）、年少・生産年齢人口が減少

第3段階…老年人口が減少、年少・生産年齢人口が減少

図表 1-2 3 将来の人口減少段階把握（社人研推計より）



- 内閣府の「まち・ひと・しごと創生本部」が示している熊本県内の市町村ごとの将来にわたる自然増減と社会増減の影響度を図る分析手法によると、五木村をはじめ人口規模が比較的小さい市町村では、社会増減の影響度が大きいところが多い。
- 出生率の向上等により自然増もしくは維持を図る施策に加え、定住人口を増やしたり、人口流入の機会を増やす施策が必要になってくる。

図表 1-2 4 熊本県内市町村の自然増減と社会増減の影響度（将来）

			自然増減の影響度(2040年)					
			1	2	3	4	5	総計
			-	小 ← 合計特殊出生率回復による人口増加の効果 → 大				
社会増減の影響度 (2040年)	1	-		合志市 西原村 嘉島町 荒尾市 菊陽町 大津町	熊本市 南阿蘇村			8 (17.8%)
	2	小↑ 転入 出均 衡に よる 人口 増加 の効果↑		高森町 産山村 南小国町 御船町 益城町 菊池市	八代市 宇土市 甲佐町 宇城市 山鹿市 玉名市 和水町 阿蘇市 玉東町 美里町	南関町		17 (37.8%)
	3			あさぎり町 津奈木町 長洲町	氷川町 芦北町 湯前町			6 (13.3%)
	4		山江村 水上村	小国町 人吉市 相良村 多良木町 錦町 山都町 天草市 苓北町	水俣市 上天草市			12 (26.7%)
	5			五木村 球磨村				2 (4.4%)
	総計		2 (4.4%)	25 (55.6%)	17 (37.8%)	1 (2.2%)		45 (100%)

備考:【自然増減の影響度】

社人研準拠推計を基礎に合計特殊出生率が2030年までに2.1%回復した場合(シミュレーション1)の2040年人口÷社人研推計2040年人口の数値に応じて、以下の5段階に整理。

「1」=100%未満、「2」=100~105%、「3」=105~110%、「4」=110~115%、「5」=115%以上の増加

【社会増減の影響度】

シミュレーション1を基礎に移動が均衡する場合の2040年人口÷シミュレーション1の2040年人口の数値に応じて、以下の5段階に整理。

「1」=100%未満、「2」=100~110%、「3」=110~120%、「4」=120~130%、「5」=130%以上の増加

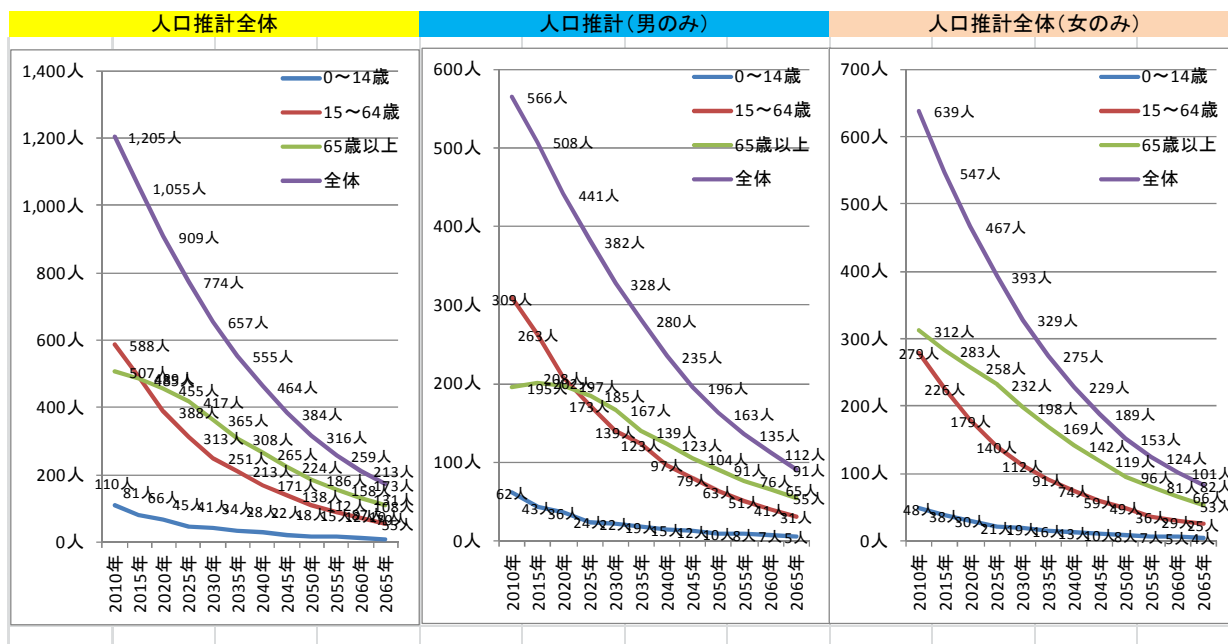
資料:内閣官房まち・ひと・しごと創生本部「地域経済分析システム(リーサス)」

参考:一般社団法人北海道総合研究調査会「地域人口減少白書」

(2) 人口減少スピード

○国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）の将来人口推計によると、2015年の1,055人から2045年には384人、2065年には173人まで減少し50年間で83.6%もの大幅な人口減少が予測されている。

図表 1-25 将来人口推計（社人研推計）

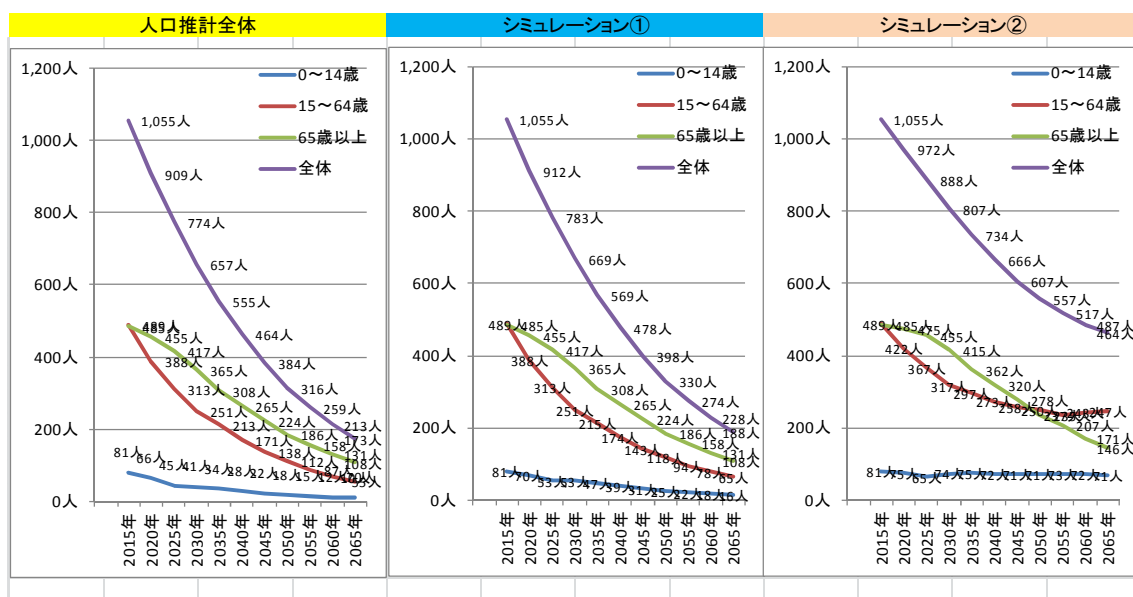


(3) パターン別の将来人口シミュレーション

○社人研の市区町村別の将来人口推計に基づき、2つの仮定によりシミュレーションをした結果、五木村の将来人口推計はシミュレーション①（社人研準拠推計を基礎に合計特殊出生率が2030年までに2.1%回復した場合）で2065年に188人となる。

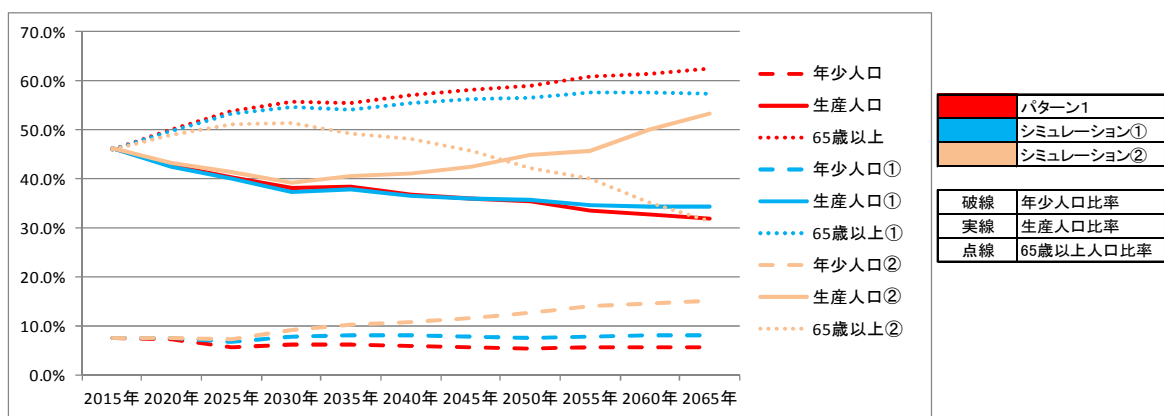
○シミュレーション②（シミュレーション①を基礎に移動が均衡する場合）では、2065年に464人となる。

図表 1-2 6 将来人口シミュレーション



○社人研推計をもとに、2つのシミュレーションを行った結果、五木村の人口減少には人口移動による社会増減の影響が大きいことがわかる。

図表 1-2 7 年齢3区分人口比率の長期推計



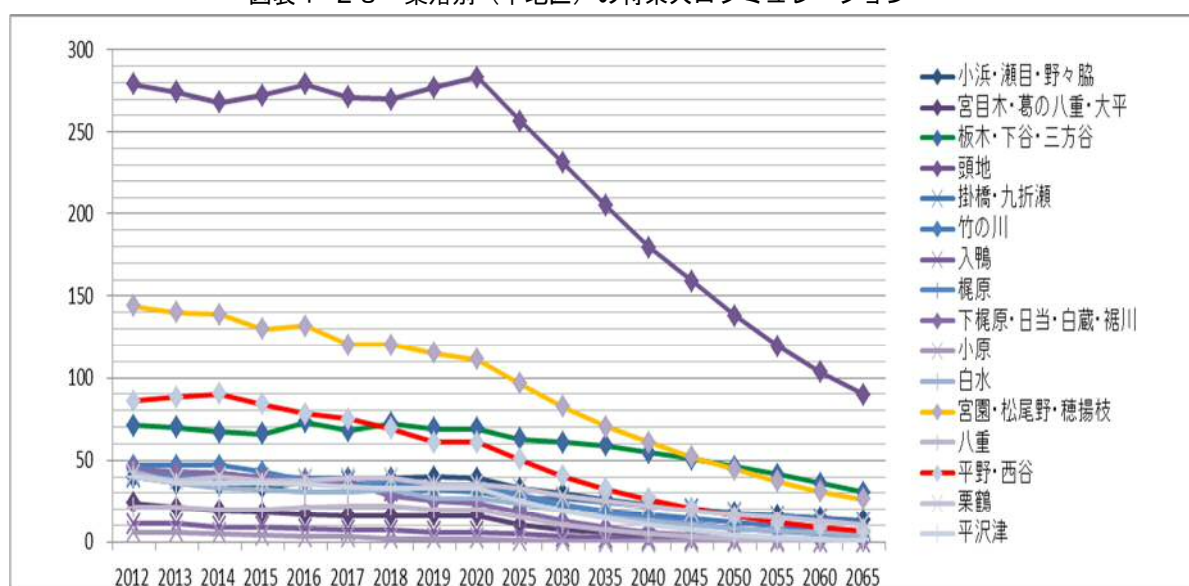
(4) 集落別の将来人口シミュレーション

○2020年1月1日現在の五木村の集落別人口を基にして、五木村全体の社人研による将来人口推計の減少率をあてはめて集落別の将来人口シミュレーションを行った（試算の数値は四捨五入後の整数値で表示）。

①甲地区（16集落）

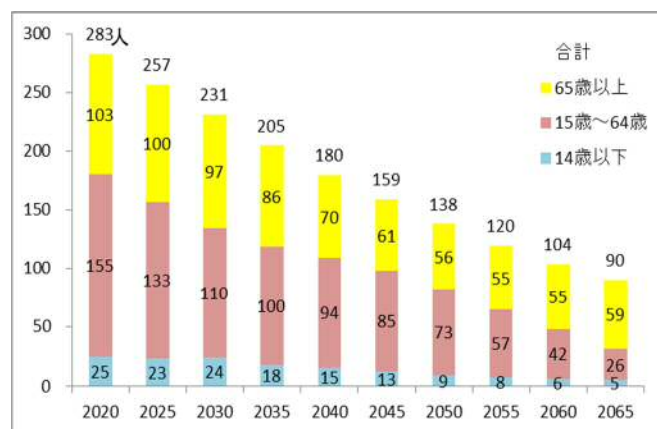
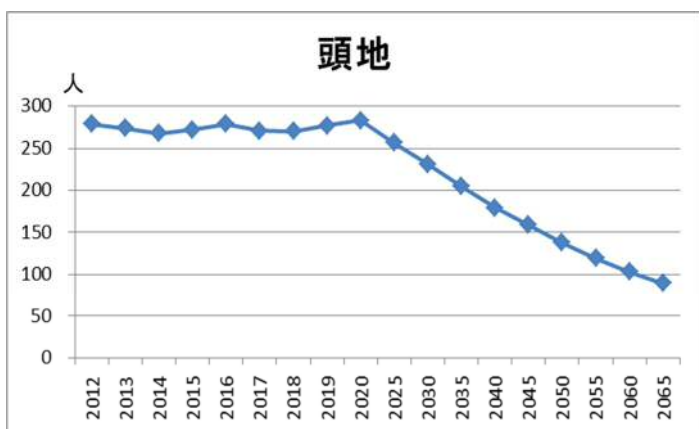
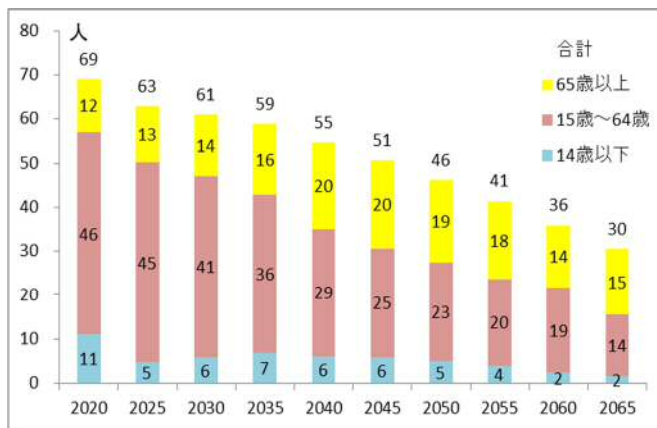
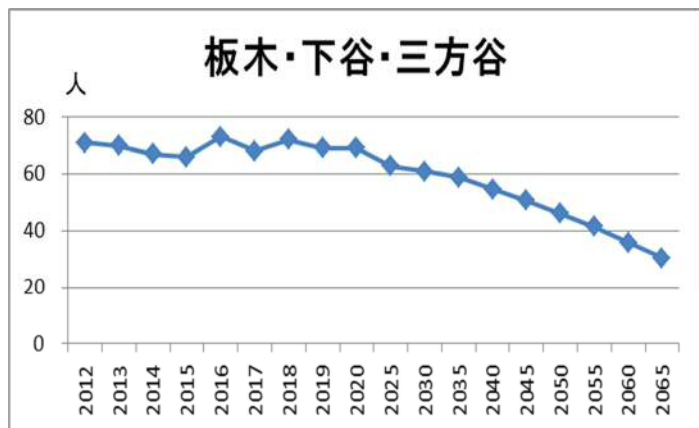
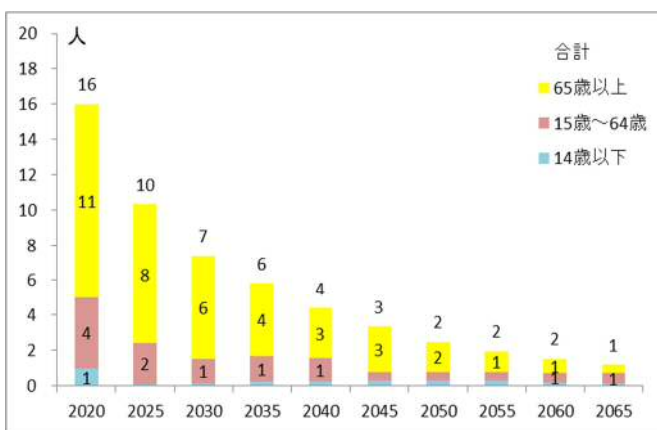
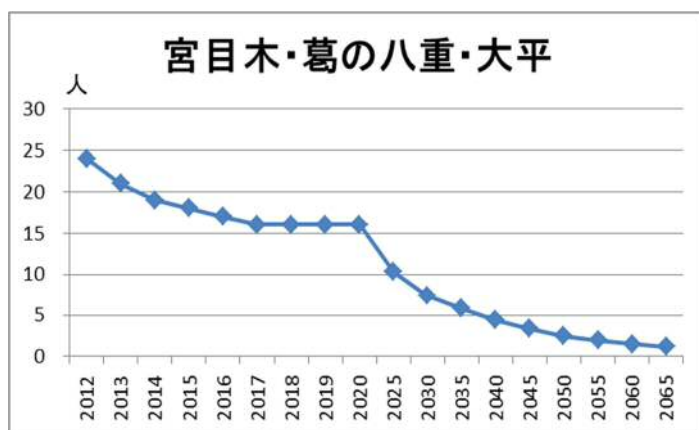
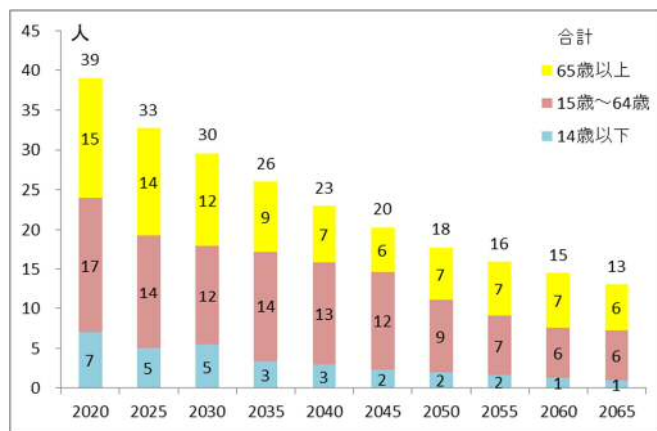
○2065年において、甲地区では、16集落中10集落で人口が10人未満と試算された。

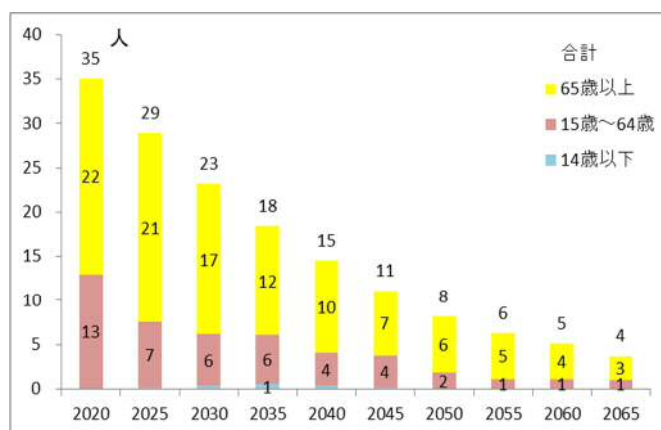
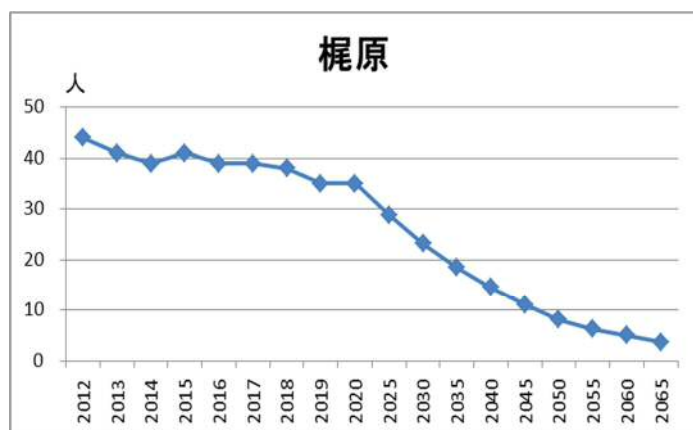
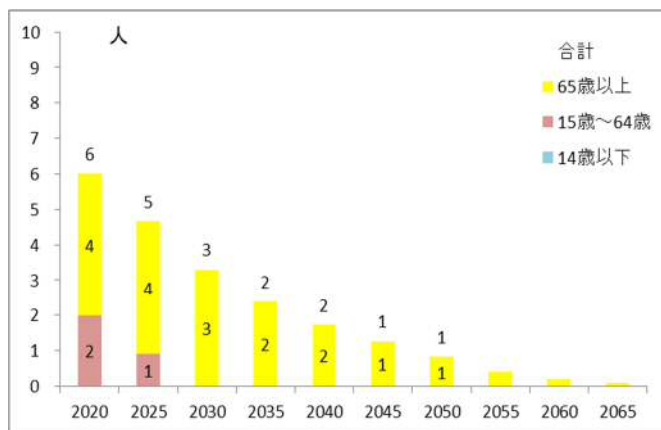
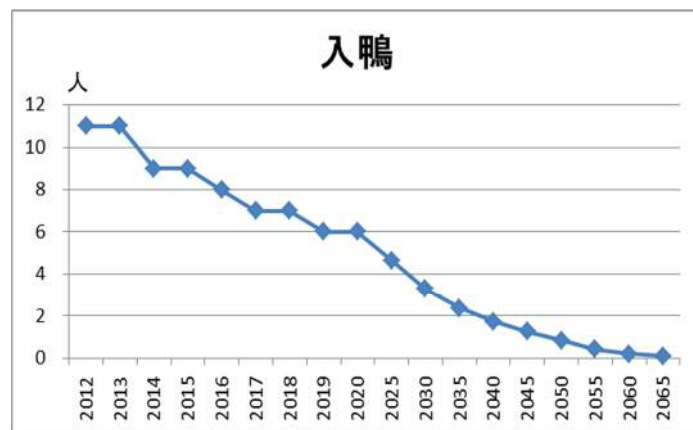
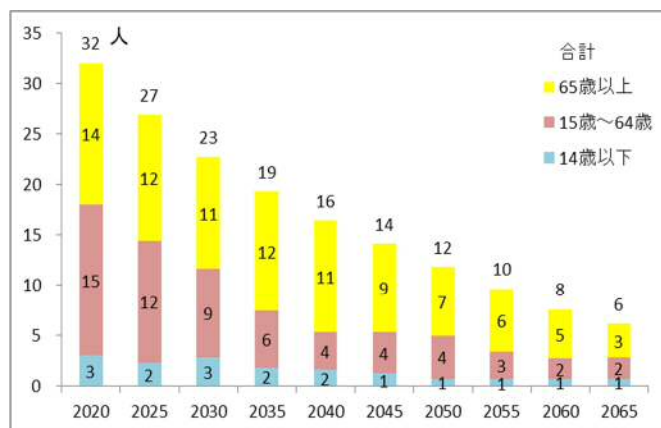
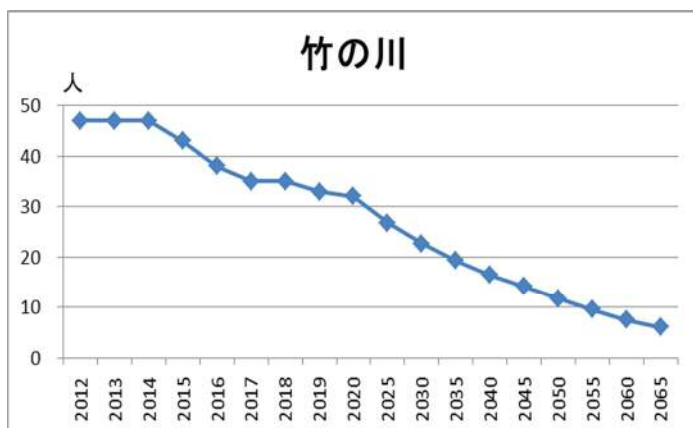
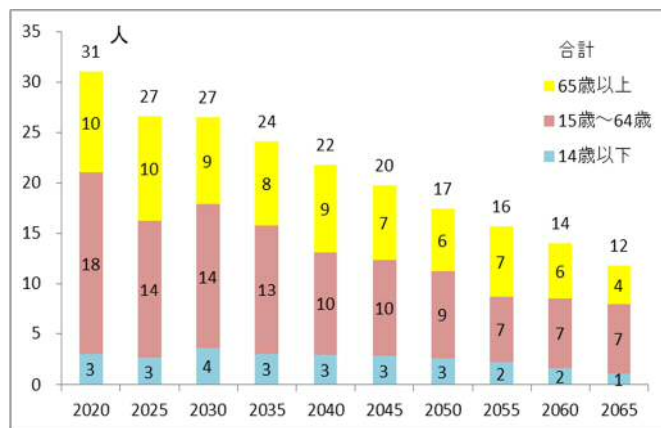
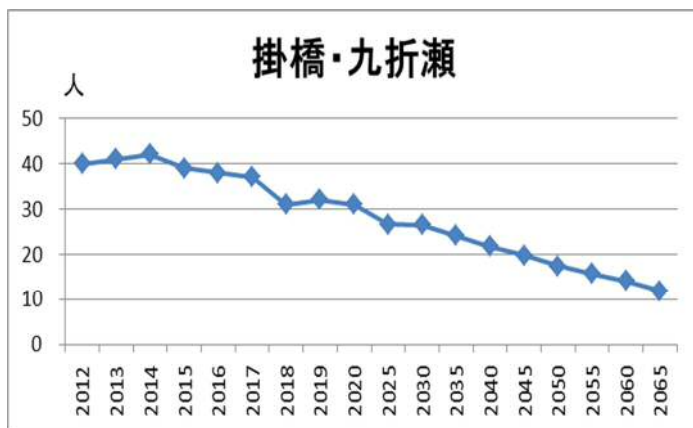
図表 1-28 集落別（甲地区）の将来人口シミュレーション

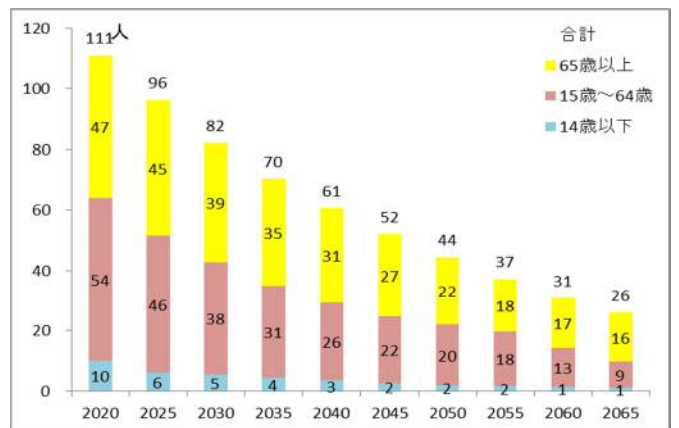
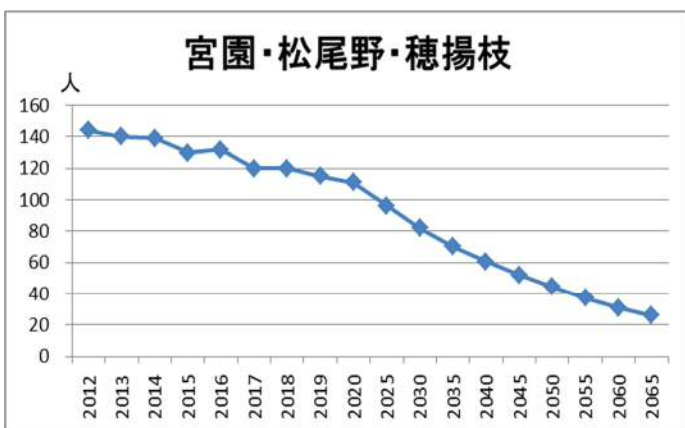
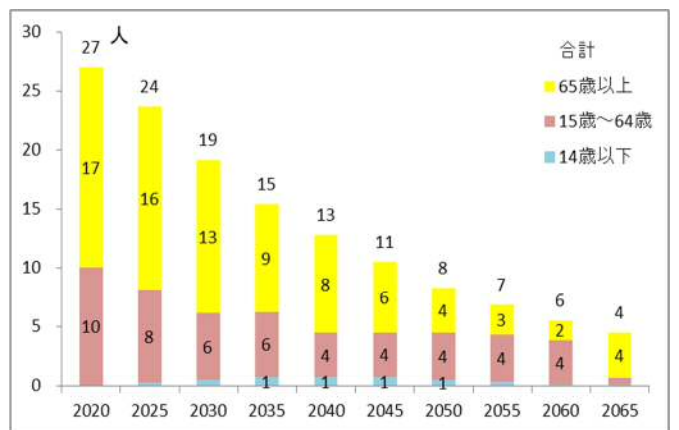
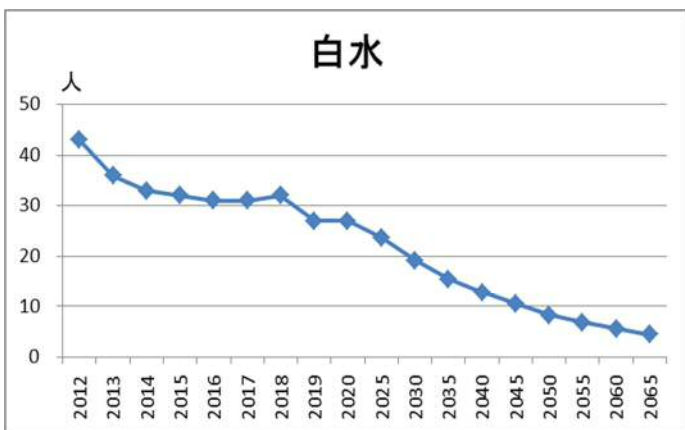
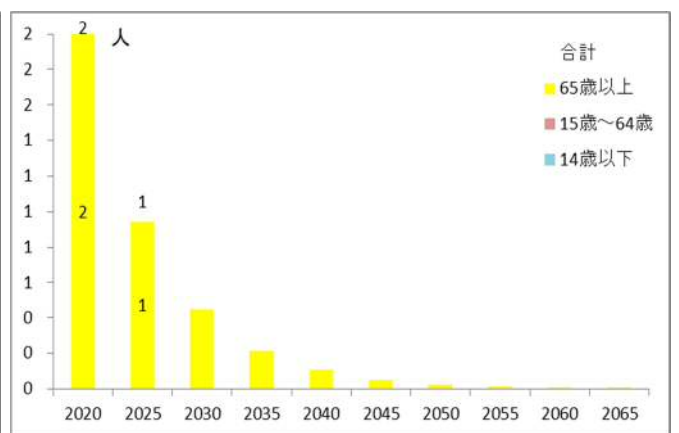
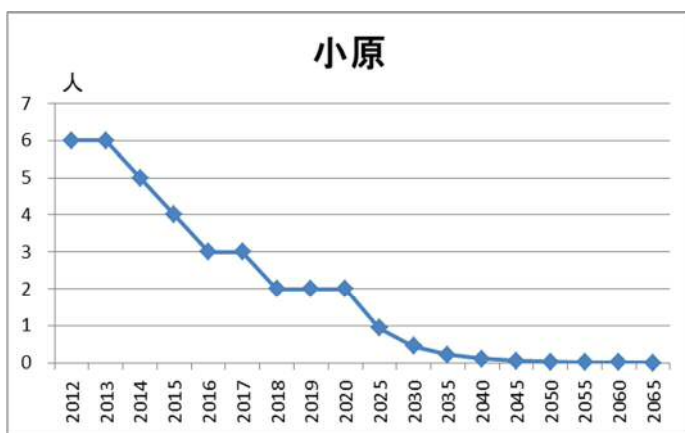
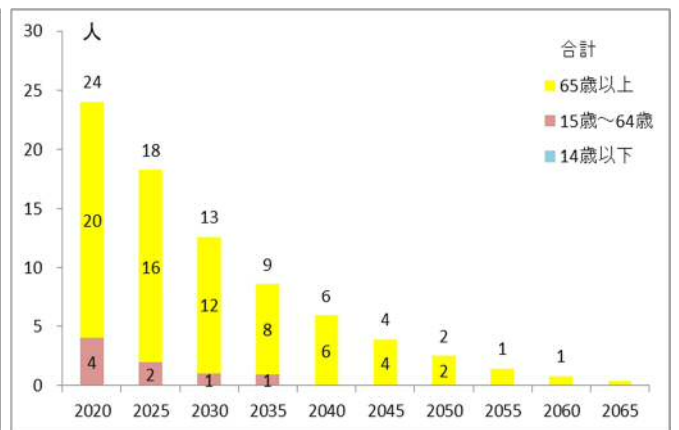
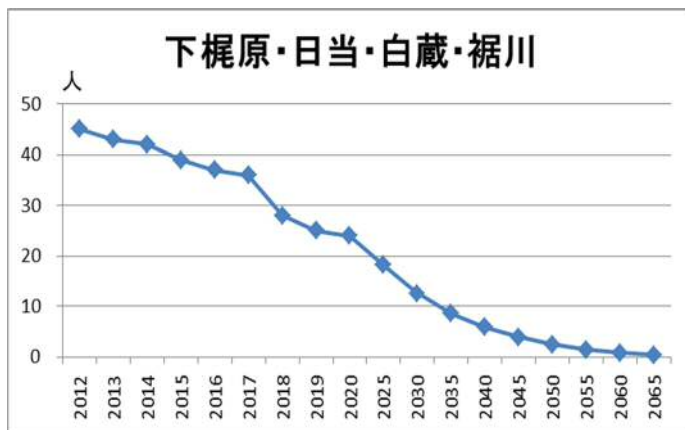


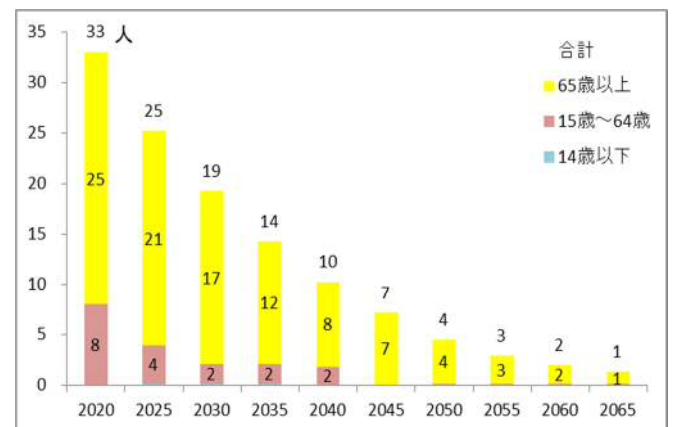
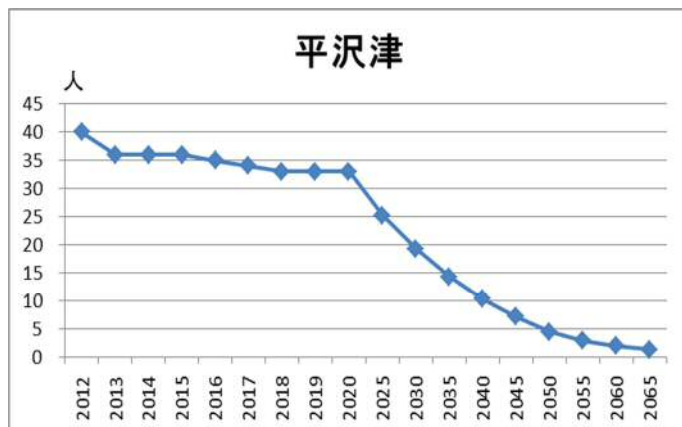
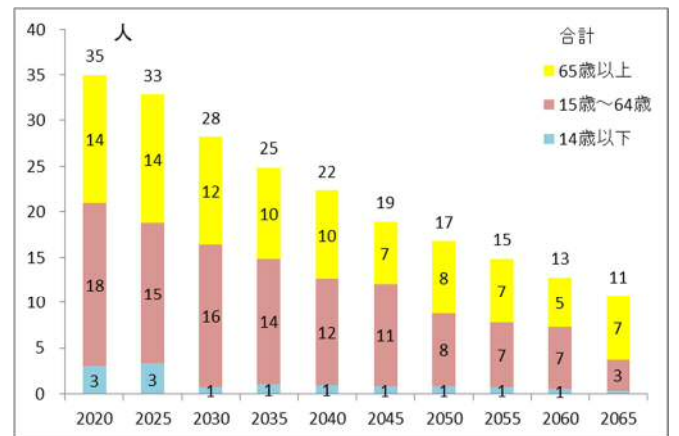
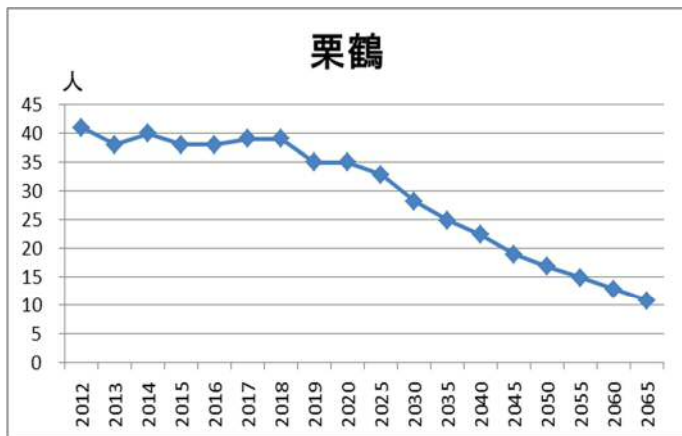
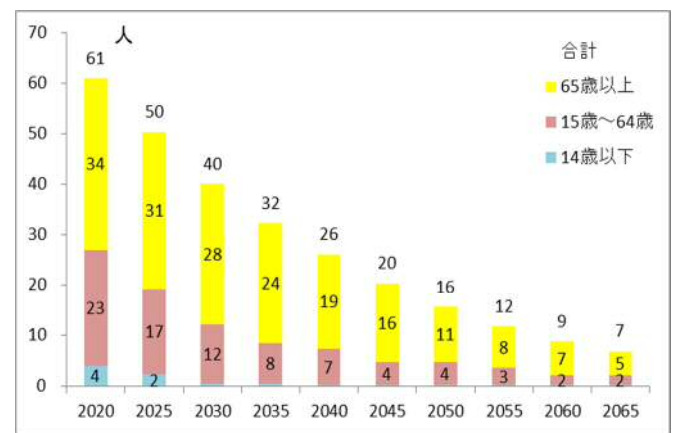
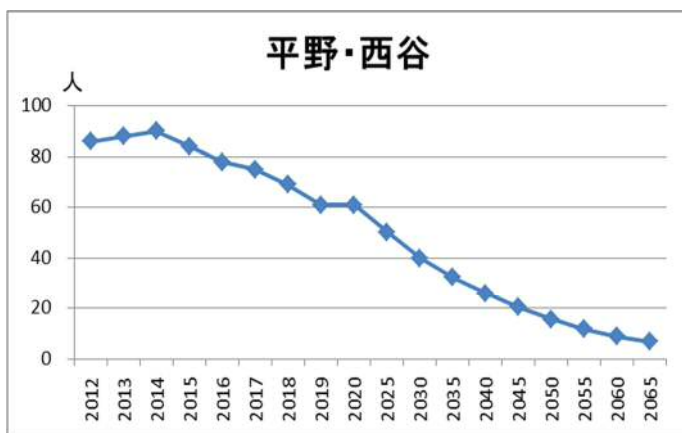
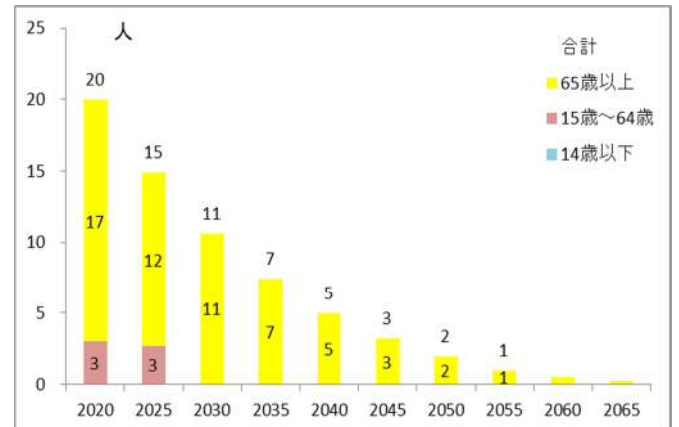
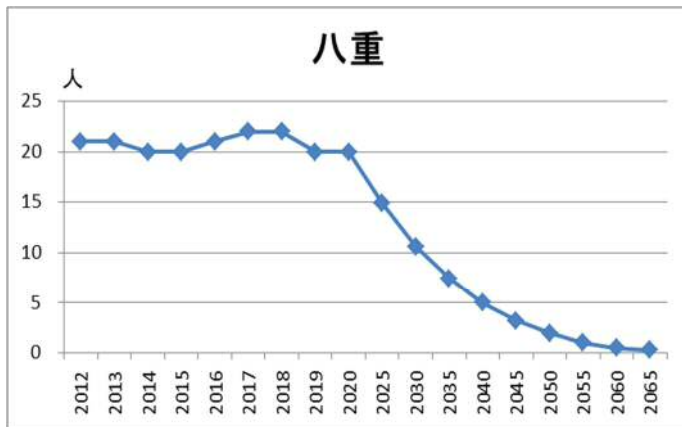
備考）2019年までは実績の数字。2020年は1月1日現在の人数。2025年以降は、社人研推計の減少率を適用して試算

		2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065
1	小浜・瀬目・野々脇	40	36	35	33	37	39	39	40	39	33	30	26	23	20	18	16	15	13
2	宮目木・葛の八重・大平	24	21	19	18	17	16	16	16	16	10	7	6	4	3	2	2	2	1
3	板木・下谷・三方谷	71	70	67	66	73	68	72	69	69	63	61	59	55	51	46	41	36	30
4	頭地	279	274	268	272	279	271	270	277	283	257	231	205	180	159	138	120	104	90
5	掛橋・九折瀬	40	41	42	39	38	37	31	32	31	27	27	24	22	20	17	16	14	12
6	竹の川	47	47	47	43	38	35	35	33	32	27	23	19	16	14	12	10	8	6
7	入鴨	11	11	9	9	8	7	7	6	6	5	3	2	2	1	1	0	0	0
8	梶原	44	41	39	41	39	39	38	35	35	29	23	18	15	11	8	6	5	4
9	下梶原・日当・白蔵・堀川	45	43	42	39	37	36	28	25	24	18	13	9	6	4	2	1	1	0
10	小原	6	6	5	4	3	3	2	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
11	白水	43	36	33	32	31	31	32	27	27	24	19	15	13	11	8	7	6	4
12	宮園・松尾野・穂揚枝	144	140	139	130	132	120	120	115	111	96	82	70	61	52	44	37	31	26
13	八重	21	21	20	20	21	22	22	20	20	15	11	7	5	3	2	1	0	0
14	平野・西谷	86	88	90	84	78	75	69	61	61	50	40	32	26	20	16	12	9	7
15	栗鶴	41	38	40	38	38	39	39	35	35	33	28	25	22	19	17	15	13	11
16	平沢津	40	36	36	36	35	34	33	33	33	25	19	14	10	7	4	3	2	1
	甲地区合計	982	949	931	904	904	872	853	826	824	712	617	533	459	396	336	287	244	206





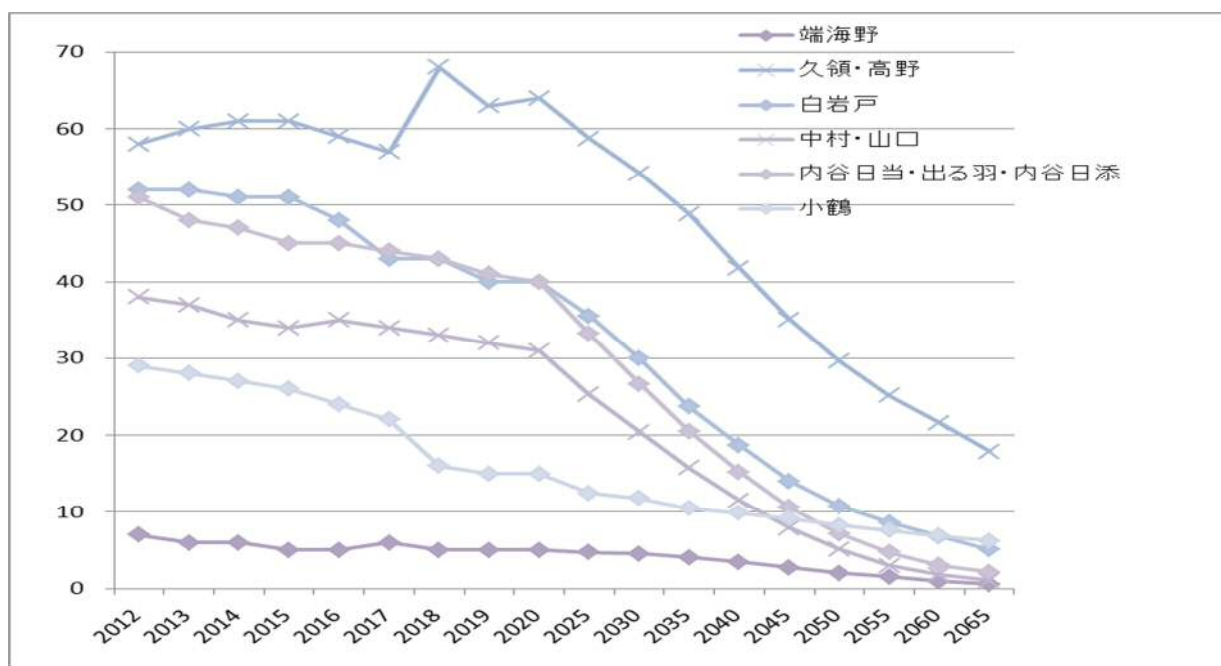




②乙地区（6集落）

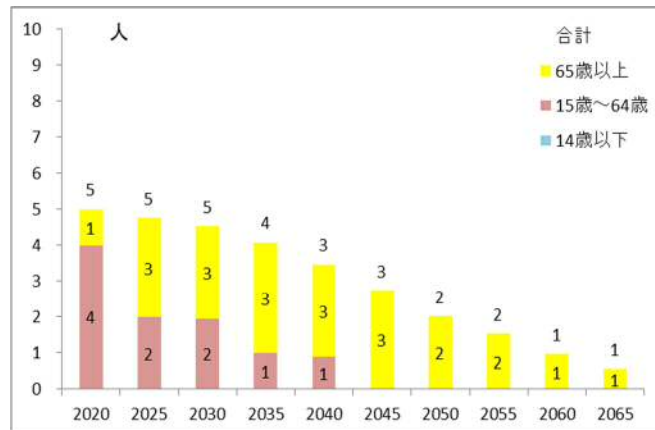
○2065年において、乙地区では、6集落中4集落で人口が10人未満と試算された。

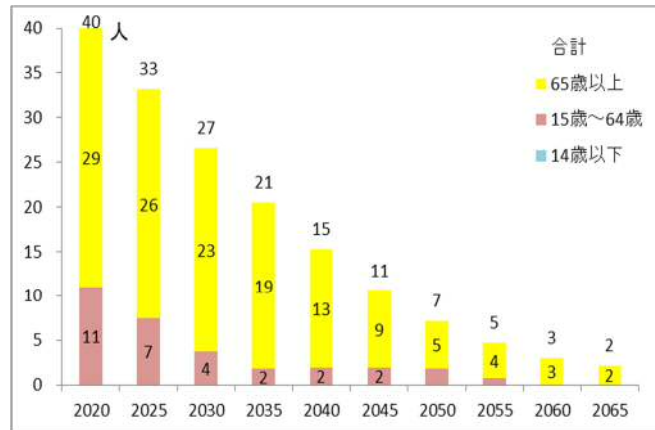
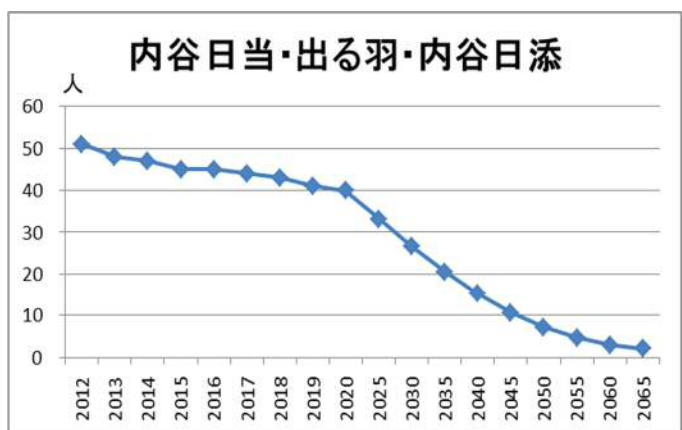
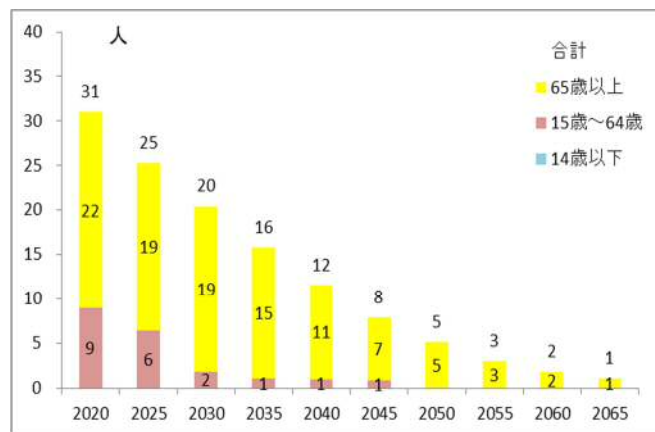
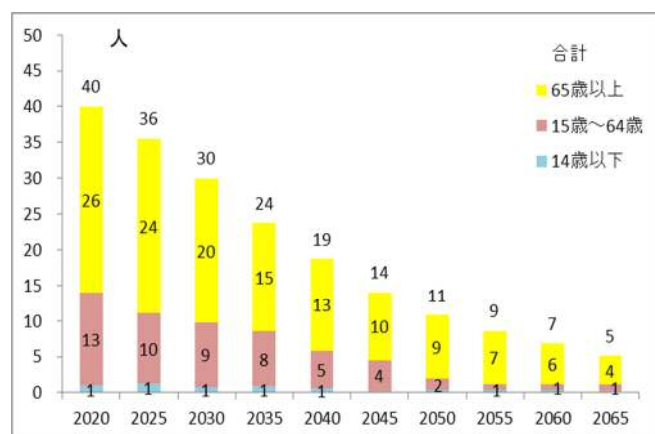
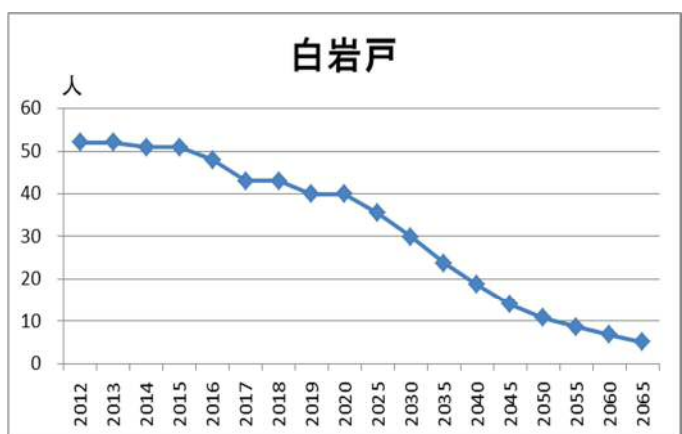
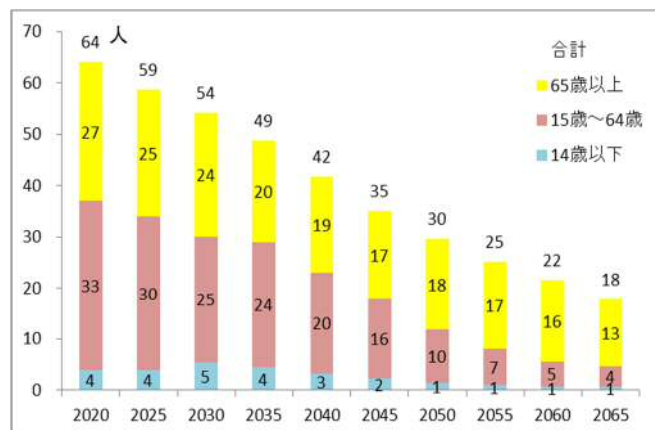
図表 1-2 9 集落別（乙地区）の将来人口シミュレーション

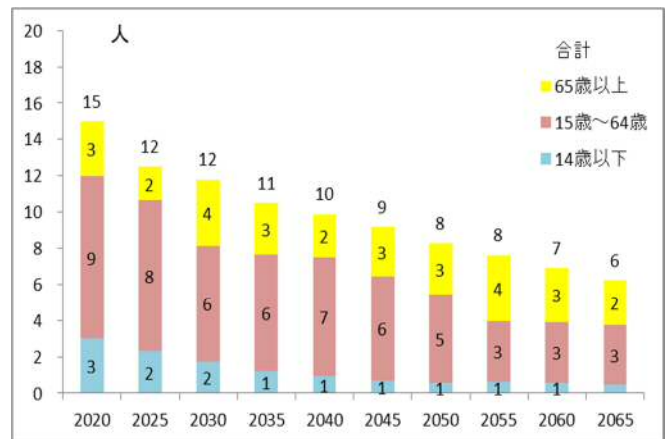
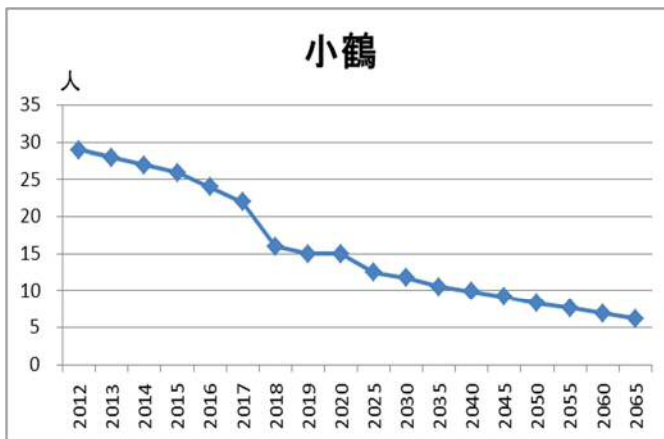


備考）2019年までは実績の数字。2020年は1月1日現在の人数。2025年以降は、社人研推計の減少率を適用して試算

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065
1 端海野	7	6	6	5	5	6	5	5	5	5	5	4	3	3	2	2	1	1
2 久領・高野	58	60	61	61	59	57	68	63	64	59	54	49	42	35	30	25	22	18
3 白岩戸	52	52	51	51	48	43	43	40	40	36	30	24	19	14	11	9	7	5
4 中村・山口	38	37	35	34	35	34	33	32	31	25	20	16	12	8	5	3	2	1
5 内谷日当・出る羽・内谷日添	51	48	47	45	45	44	43	41	40	33	27	21	15	11	7	5	3	2
6 小鶴	29	28	27	26	24	22	16	15	15	12	12	11	10	9	8	8	7	6
乙地区合計	235	231	227	222	216	206	208	196	195	170	147	123	101	80	63	51	41	33



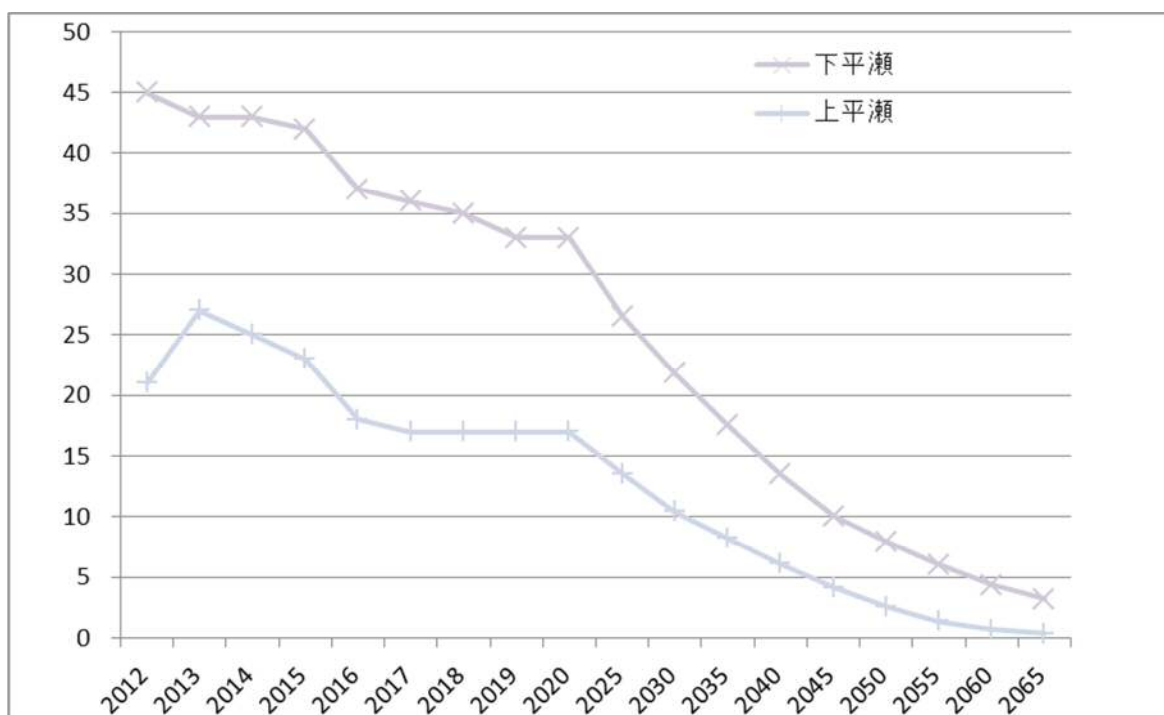




③丙地区（2集落）

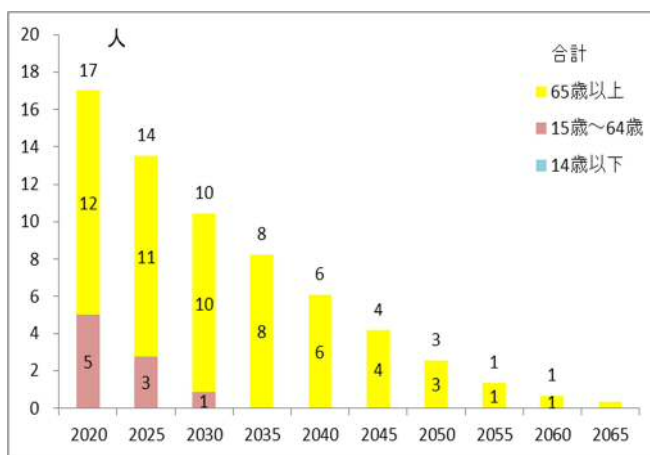
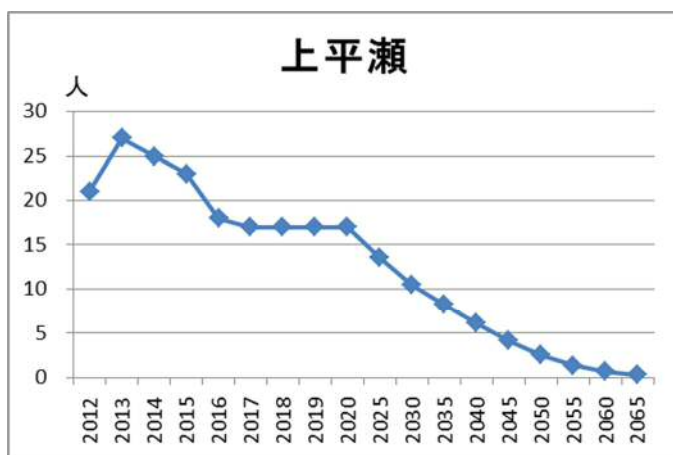
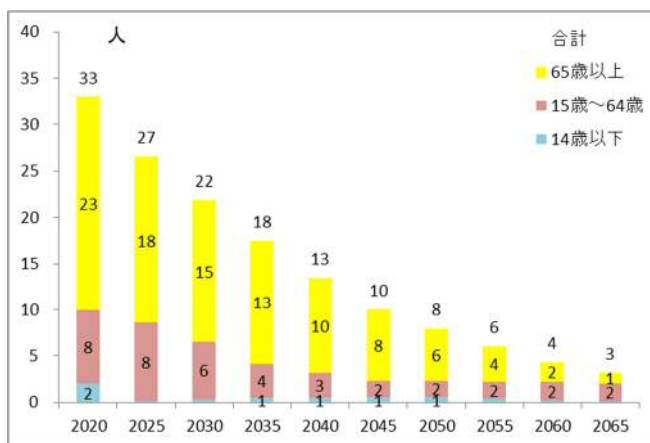
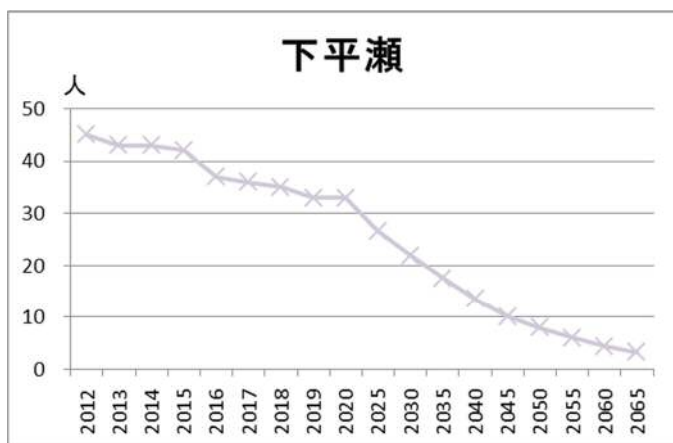
○2065年において、丙地区では、2集落中2集落で人口が10人未満と試算された。

図表 1-30 集落別（丙地区）の将来人口シミュレーション



備考）2019年までは実績の数字。2020年は1月1日現在の人数。2025年以降は、社人研推計の減少率を適用して試算

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065
1 下平瀬	45	43	43	42	37	36	35	33	33	27	22	18	13	10	8	6	4	3
2 上平瀬	21	27	25	23	18	17	17	17	17	14	10	8	6	4	3	1	1	0
合計	66	70	68	65	55	53	52	50	50	40	32	26	20	14	10	7	5	4



3. 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察

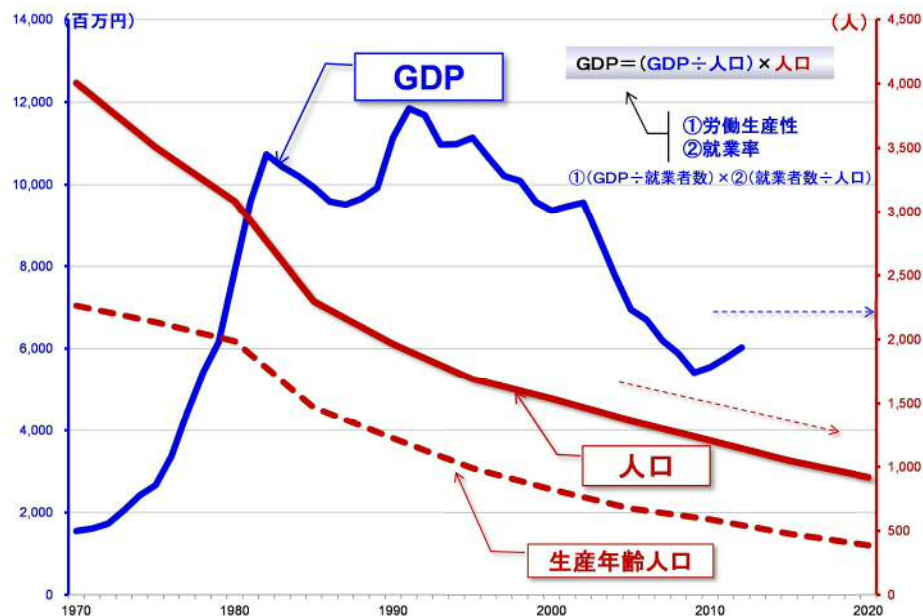
(1) 経済面に与える影響

① 五木村の人口とGDPの推移

○五木村のGDPの推移（3年移動平均）をみると、1991年のピーク（11,846百万円）以降は減少傾向にある。

○その間、総人口および生産年齢人口は減少し続けており、人口減少とともにGDPが減少していることがわかる。

図表 1-3 1 五木村の人口とGDPの推移



資料：国勢調査（総務省）、国立社会保障・人口問題研究所、市町村民所得推計（熊本県）

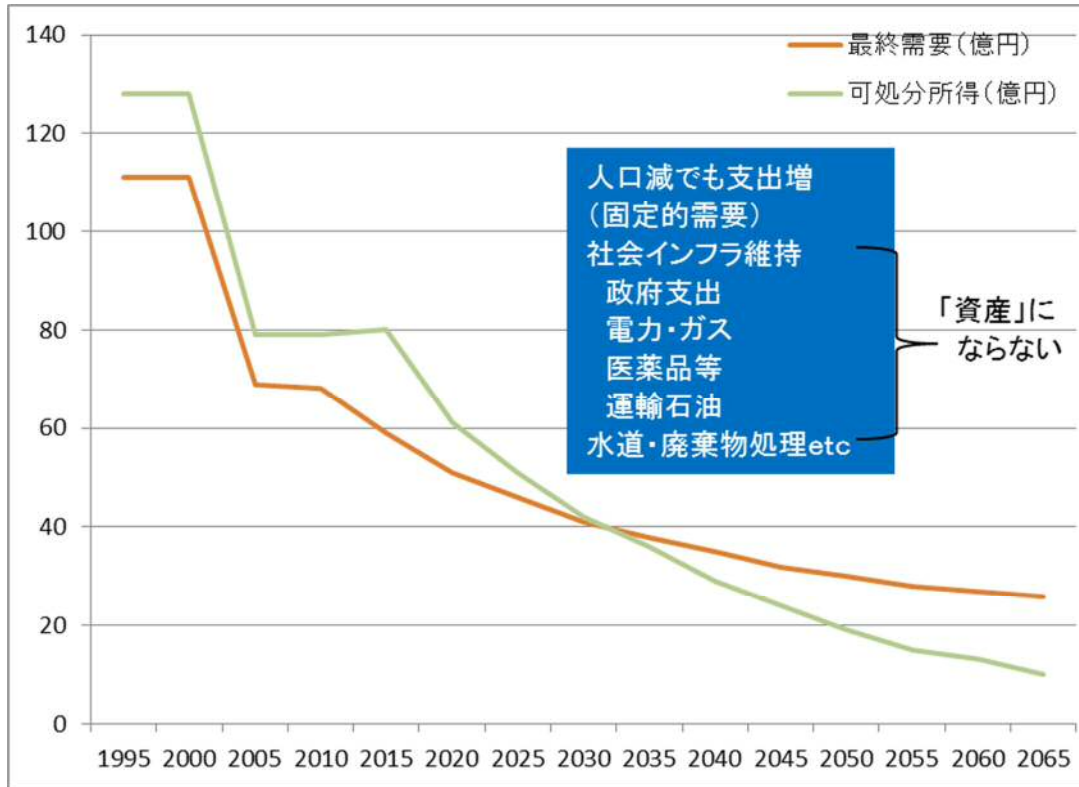
② 経常収支の推移

○五木村のGDPの推移（3年移動平均）をみると、1991年のピーク（11,846百万円）以降は減少傾向にある。

○可処分所得（GDP＋年金・交付税等）は減少傾向にある一方、人口減少局面でも支出増（固定的需要：社会インフラ維持、政府支出、電力・ガス等）が見込まれる。

○経常収支の中長期展望を試算すると、可処分所得と最終需要が逆転する可能性が高い。

図表 1-3 2 五木村「経常収支」⇒「中長期展望」



図表 1-3 3 五木村の人口とGDPの推移 (2065年までの試算)

GDP=①×②×③×④		1995	2000	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065
①	総人口	1687	1530	1358	1205	1055	909	774	657	555	464	384	316	259	213	173
	生産年齢人口 a	988	822	673	588	489	388	313	251	213	171	138	112	87	70	55
	65歳以上人口 b	433	505	541	507	485	455	417	365	308	265	224	186	158	131	108
②	二重層人口比率 (a+b)÷①	84.2	86.7	89.4	90.9	92.3	92.7	94.3	93.8	93.9	94	94.3	94.3	94.6	94.4	94.2
	生産年齢就業者数 a'⇒就業率80%	762	629	499	442	399	310	250	201	170	137	110	90	70	56	44
	同業者率 a'÷a⇒80%	77.1	76.5	74.1	75.2	81.6	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80
	65歳以上就業者数 b'⇒就業率20%	119	134	104	100	100	91	83	73	62	53	45	37	32	26	22
	同業者率 b'÷b⇒20%	27.5	26.5	19.2	19.7	20.6	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
③	二重層人口就業率 (a'+b')÷(a+b)	62.0	57.5	49.7	49.5	51.2	47.6	45.6	44.5	44.5	43.6	42.8	42.6	41.6	40.8	40.5
④	労働生産性(千円) c÷(a'+b')⇒1200	1138	1315	1027	1140	1263	1200	1200	1200	1200	1200	1200	1200	1200	1200	1200
	GDP(億円) C=①×②×③×④	100	100	62	62	63	48	40	33	28	23	19	15	12	10	8

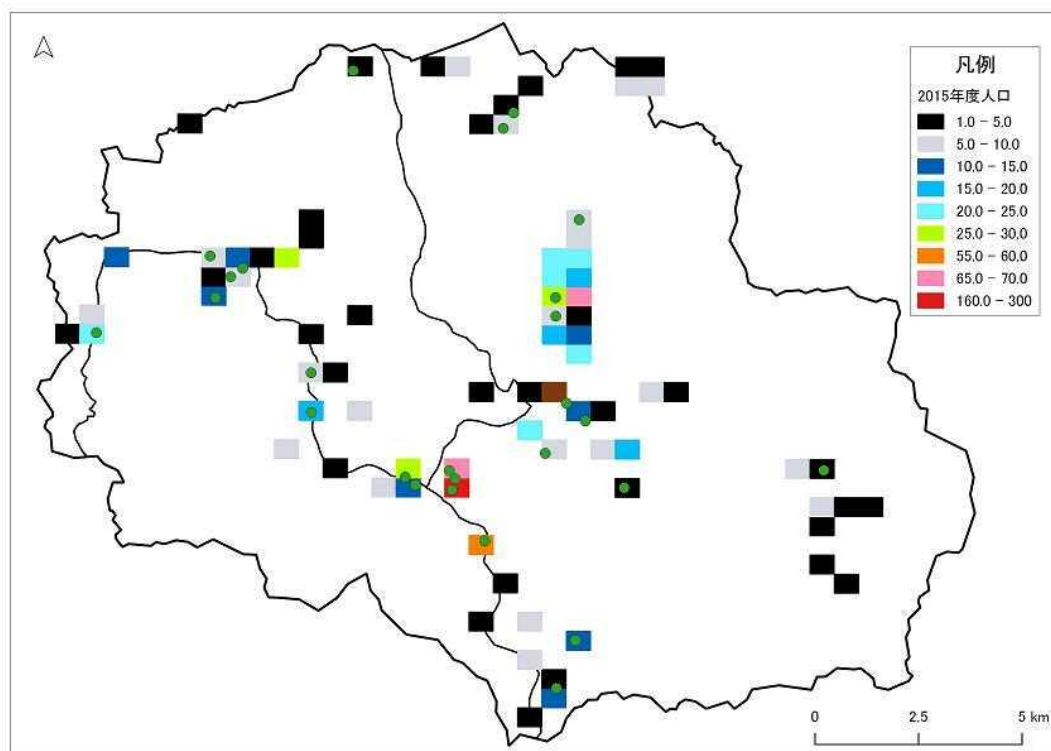
図表 1-3 4 五木村の最終需要の推移（2065年までの試算）

	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065
減らないコスト：仮定1（億円） a×30.0%	33	33	21	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
65歳以上人口	433	505	541	507	485	455	417	365	308	265	224	186	158	131	108
減らないコスト：仮定2（億円） ②×1,400千円	6	7	8	7	7	6	6	5	4	4	3	3	2	2	2
生産年齢人口	988	822	673	588	489	388	313	251	213	171	138	112	87	70	55
減る需要：仮定3（億円） 生産年齢人口-人当変動需要×④	72	71	40	41	32	25	20	16	14	11	9	7	6	5	4
最終需要 ①+③+⑤	111	111	69	68	59	51	46	41	38	35	32	30	28	27	26
GDP(億円)	100	100	62	62	63	48	40	33	28	23	19	15	12	10	8
その他経常移転等(億円) 7×b	28	28	17	17	17	13	11	9	8	6	5	4	3	3	2
可処分所得(億円) ⑦+⑧	128	128	79	79	80	61	51	42	36	29	24	19	15	13	10
経常収支(億円) ⑨-⑥	17	17	10	11	21	10	5	1	-2	-6	-8	-11	-13	-14	-16
※第1期総合戦略策定時の推計を元に、2015年の②、④、⑦の数値を更新し試算															

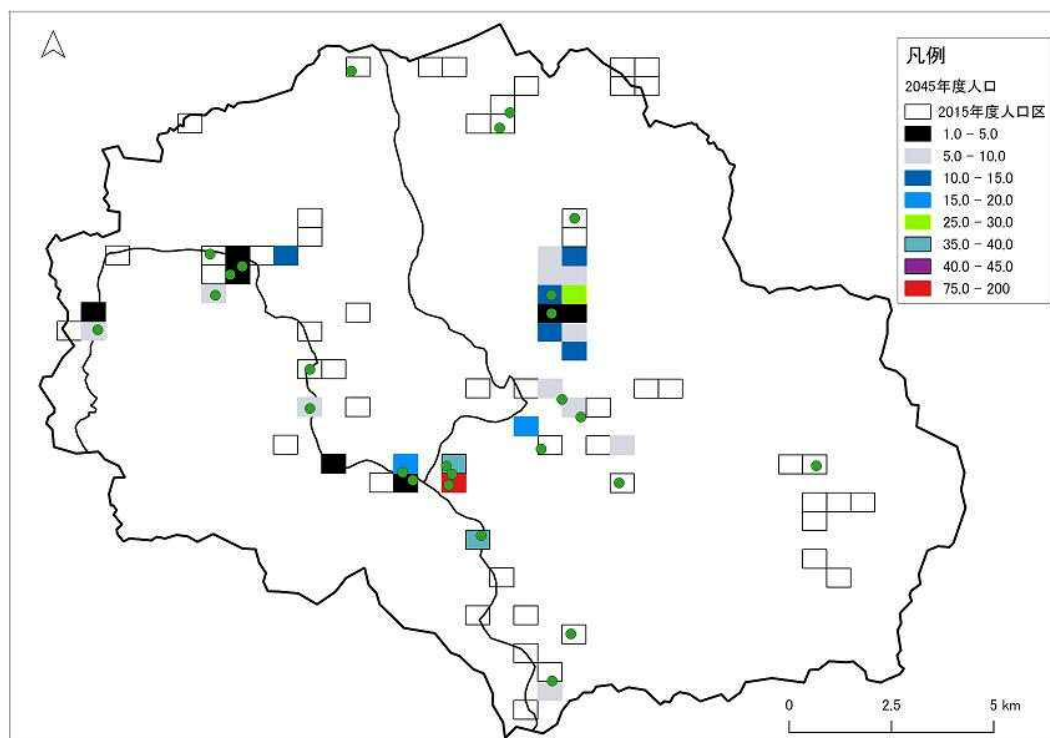
（２）公共施設の維持管理等に与える影響

- 公共施設の維持管理等のコストは、人口減少局面でも減らないコストであり、近い将来に多額の更新需要等が生じることが見込まれる。
- 五木村の公共施設をマッピングした地図に、国土交通省国土政策局が作成するGISホームページ「国土数値情報500mメッシュ別将来推計人口」（2015年時点の総務省「国勢調査」に500mメッシュの人口を重ね合わせたもの）では、2015年と2045年時点の将来推計を比較すると、各地区の人口減少が進む中、公共施設が点在する状況が予測される。
- 今後は、公共施設の現状の利用実態等を踏まえ、利用者ニーズと提供するサービス（施設数や機能）とのバランスを検証しつつ、村内における集落機能の集約化、公共施設配置の方針や方向性を検討することが求められる。

図表 1-3 5 五木村の公共施設の配置状況と500mメッシュ人口（2015年）



図表 1-3 6 五木村の公共施設の配置状況と500mメッシュ人口（2045年）

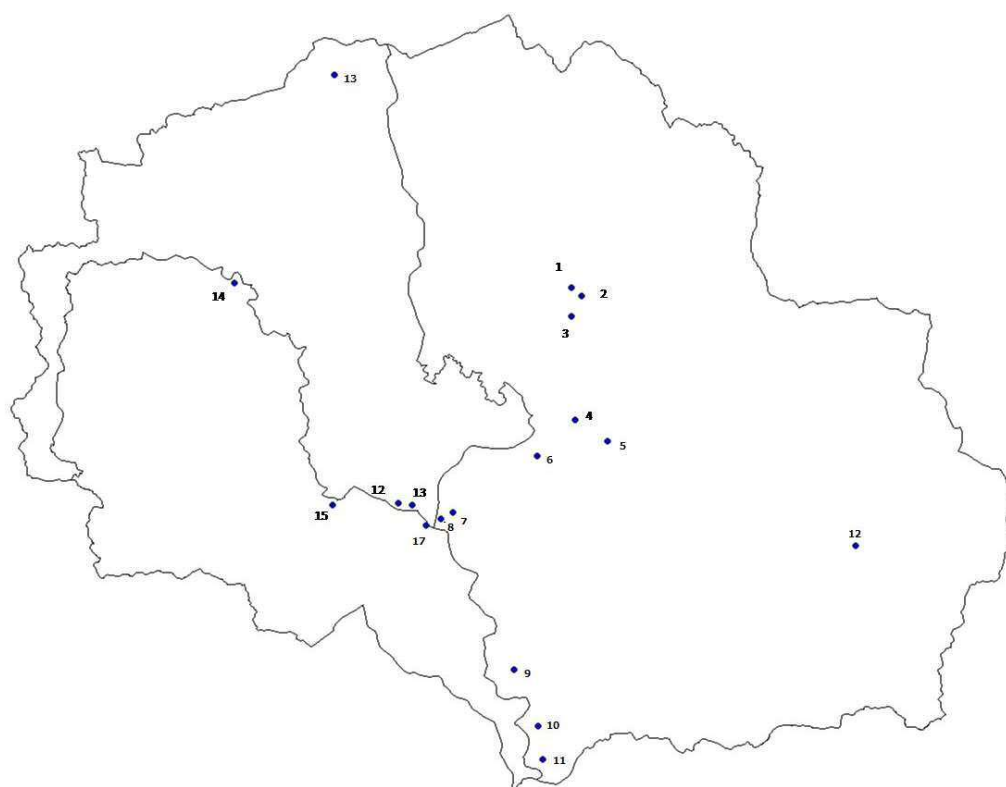


資料国土交通省国土政策局「国土数値情報500mメッシュ別将来推計人口」データより

（３）商業施設等に与える影響

- 人口減少が商業施設に与える影響をみると、人口ならびに世帯人員の減少によるマーケットの縮小の影響は大きく、このような構造変化に対応した商業施設の存続が求められる。
- 地元購買率を熊本県の消費動向調査（2012年）でみると、五木村の地元購買率は低く、最も高い「一般食品」でも17.2%にとどまる。
- 主な購買先としては、最寄品では人吉市が多く、ファッション品では人吉市、錦町などの人吉・球磨地域、熊本市などとなっている。
- なお、国土交通省の資料によれば、一定の人口規模を維持できない都市圏ではサービス提供機能が消失するおそれがあると指摘されており、生活インフラとしての商業施設のあり方や維持を検討する必要がある。

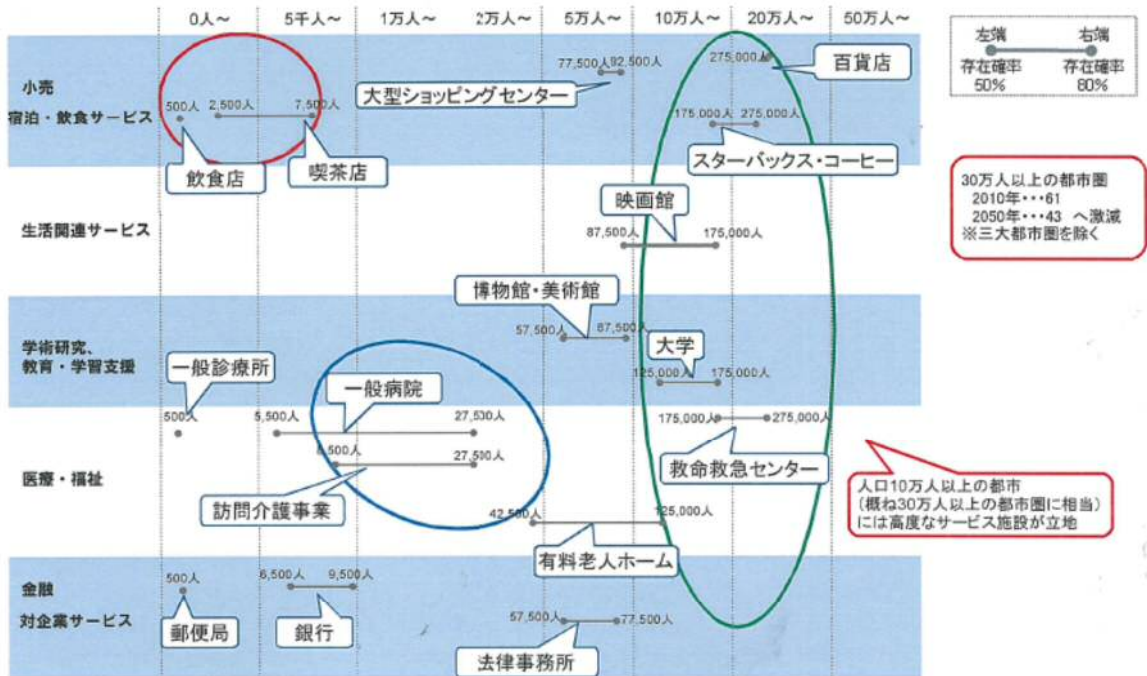
図表 1-3 7 五木村の商業施設・事業所等の配置状況



地点	事業所名	住所	分類1	分類2
1	株式会社農林興業	五木村平野6638-1	林業関連	木材商
1	杉本林業五木営業所	五木村甲6638-2	林業関連	林業
1	味岡三和砕石有限会社	五木村甲6350	建設関連	建設
1	味岡三和生コンクリート株式会社 第一工場五木	五木村甲6638	建設関連	建設
1	山王株式会社五木営業所	五木村甲6658	建設関連	建設
2	株式会社永森	五木村宮園5575	林業関連	林業
2	小規模多機能ホーム五木の友	五木村宮園5670	医療介護	介護福祉
2	三和建設株式会社五木営業所	五木村宮園5716	建設関連	建設
2	有限会社丸一産業	五木村甲4951	建設関連	建設
2	いつき電化サロン	五木村甲4951	商業施設	電気店
2	惣菜いつき苑	五木村甲4951	その他	食品製造
2	Mショップ	五木村甲5659-4	商業施設	スーパーマーケット
2	五木SS/九州味岡エナジー株式会社	五木村甲5682	商業施設	燃料
3	養田理容館	五木村西谷6900-2	商業施設	理容
3	国土交通省川辺川ダム砂防事務所/砂防監督官詰所	五木村西谷7026	公共施設	公共団体
3	五木村森林組合/小径材加工場	五木村西谷7084-1	林業関連	森林組合
3	五木林業	五木村甲7264	林業関連	林業
4	ロジック山小屋	五木村竹川4917	観光関連	宿泊
4	田中勇商店	五木村甲4944-5	商業施設	酒・飲料品
4	中村商店	五木村竹川4944-7	商業施設	食料品
4	JNC株式会社/竹の川発電所	五木村竹川4946-1	その他	化学・プラ
5	株式会社北村林業/五木事業所	五木村吐合4286	林業関連	林業
5	株式会社南栄五木営業所	五木村甲4903-5	建設関連	建設
6	松井製茶工場	五木村九折瀬3861	商業施設	食品製造
7	田上理容店	五木村甲2997-66	商業施設	理容
7	五木村診療所	五木村甲2672-11	医療介護	介護福祉
7	つばめタクシー株式会社五木のりば	五木村甲2672-11	観光関連	タクシー
7	五木村森林組合	五木村甲2672-33	林業関連	森林組合
7	株式会社和調査設計五木営業所	五木村甲2672-34	建設関連	建設
7	民宿いちよう	五木村甲2672-37	観光関連	宿泊
7	五木村商工会	五木村甲2672-39	公共施設	公共団体
7	五木村社会福祉協議会	五木村甲2672-41	医療介護	介護福祉
7	五木村保健福祉総合センター	五木村甲2672-41	医療介護	介護福祉
7	子守茶屋	五木村甲2672-53	商業施設	みやげ品/酒・飲料品
7	株式会社子守唄の里五木 五木物産館山の幸	五木村甲2672-53	観光関連	物産館
7	五木村観光協会	五木村甲2672-54	観光関連	観光協会
7	夢喰食堂	五木村甲2672-54	観光関連	飲食
7	ヒストリアテラス五木谷	五木村甲2672-58	観光関連	歴史文化交流施設
7	人吉高等学校五木分校	五木村甲2672-61	公共施設	中学校
7	五木村役場	五木村甲2672-7	公共施設	公共団体
7	五木村シルバー人材センター	五木村甲2672-8	公共施設	公社
7	GMT協同組合	五木村甲2672-8	その他	監理団体
7	五木自動車整備工場	五木村甲2672-8	その他	自動車整備
7	五木中学校	五木村甲2913-1	公共施設	高等学校
7	協進林産	五木村甲2997-32	林業関連	林業
7	株式会社ハヤタ	五木村甲2997-47	商業施設	食料品
7	早田酒店	五木村甲2997-47	商業施設	酒・飲料品
7	人吉警察署五木駐在所	五木村甲2997-49	公共施設	公共団体
7	五木久領庵	五木村甲2997-64	観光関連	飲食・みやげ品
7	田中タイヤ	五木村甲2997-71	商業施設	タイヤ
7	新泉寺	五木村甲3043-10	その他	冠婚葬祭
7	ふるさと五木	五木村甲3043-7	商業施設	飲食
7	タヤマキヨシ有限会社	五木村甲3374-43	商業施設	文房具
7	五木東小学校	五木村甲3374-51	公共施設	小学校
7	五木村中央保育所	五木村甲3374-52	公共施設	保育所
8	人吉下球磨消防組合中央消防署北分署	五木村下手2672-80	公共施設	消防署
8	国土交通省川辺川ダム砂防事務所/ダム第一出張所	五木村甲894-10	公共施設	公共団体
8	溪流ヴィアITSUKI	五木村甲2859-7	観光関連	宿泊
9	株式会社技研日本	五木村甲1064-9	建設関連	建設
10	CAFEどんぐり2号店	五木村瀬目(瀬目公園内)	観光関連	飲食・みやげ品
11	国土交通省川辺川ダム砂防事務所/ダム第二出張所	五木村小浜116	公共施設	公共団体
12	五木村下梶原ヤマメ養殖施設	五木村下梶原4257-59	その他	水産業
13	端海野ハウス	五木村端海野	観光関連	宿泊
14	五木とうふ店	五木村高野665-22	商業施設	食料品
14	ゆき食堂	五木村高野665-23	観光関連	飲食
14	民宿山里	五木村高野665-26	観光関連	宿泊
14	株式会社大地	五木村高野665-30	建設関連	建設
14	一般財団法人五木村振興公社	五木村高野665-35	公共施設	公社
15	カフェみなもと	五木村乙1532-1	観光関連	飲食
15	JNC株式会社/下中村揚水場	五木村乙1725	その他	化学・プラ
16	九州電力株式会社五木営業店	五木村元井谷560-1	その他	電力
16	株式会社子守唄の里五木 薪販売	五木村丙567	林業関連	林業
16	有限会社五木屋本舗	五木村丙635-3	商業施設	食料品
17	JNC株式会社/頭地発電所	五木村久領301	その他	化学・プラ

＜参考＞国土交通省資料「サービス施設の立地する確率」

サービス施設の立地する確率が50%及び80%となる自治体の人口規模(三大都市圏を除く)



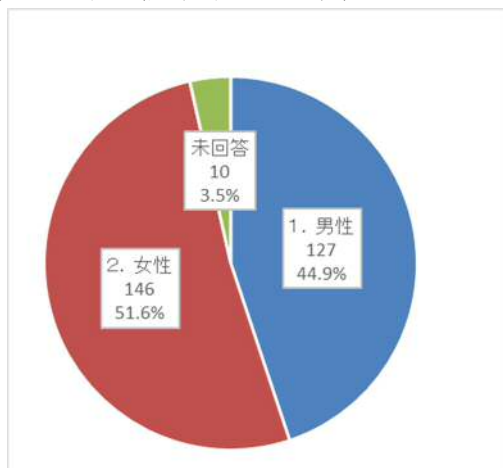
Ⅱ．人口の将来展望

Ⅱ. 人口の将来展望

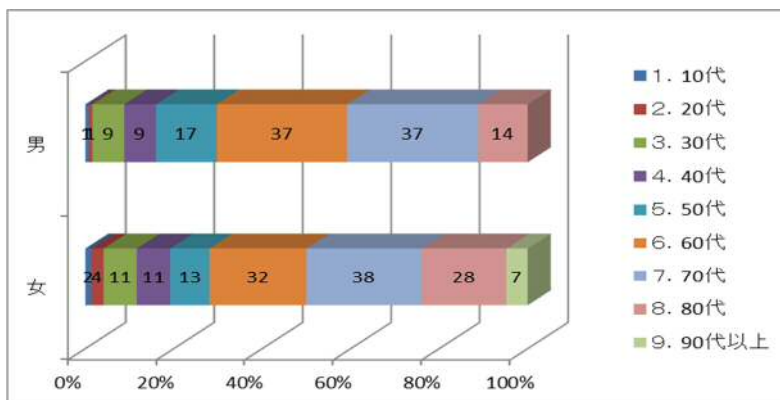
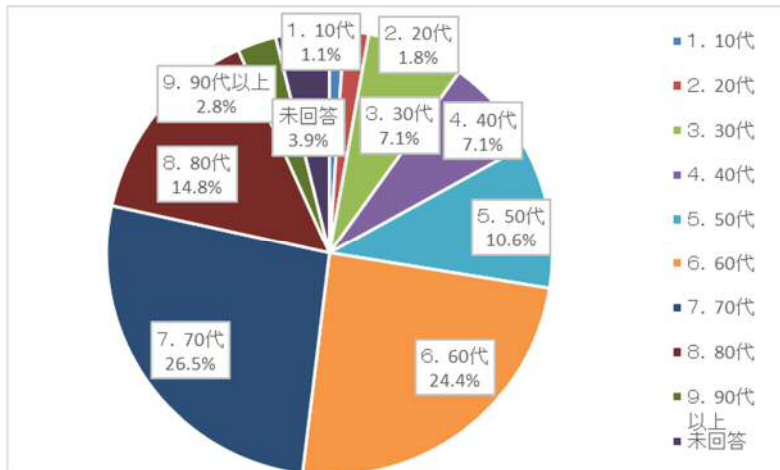
1. 「村民アンケート」調査結果

(1) アンケート調査概要

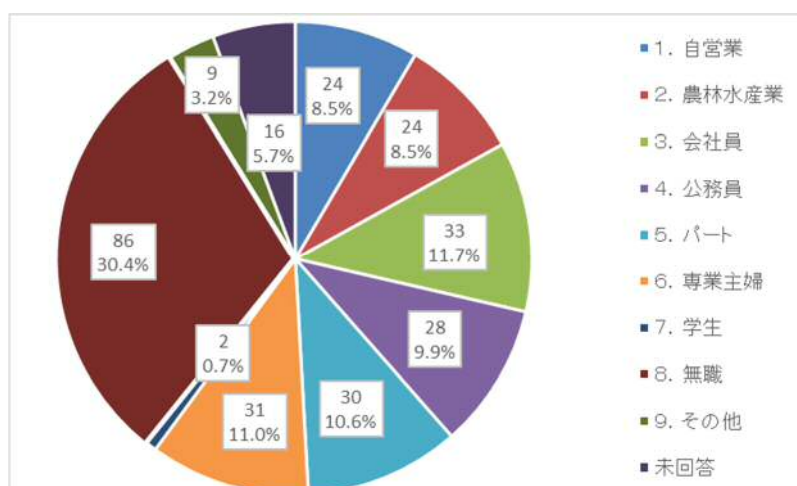
- ・調査対象：五木村在住の15歳以上に該当する者（978名）
- ・調査時期：令和元年12月3日（火）～13日（金）
- ・調査方法：対象者に郵送にて送付し、郵送にて回収
- ・有効回答：283人（回収率：28.9%）
- ・性別



- ・年代別



・職業別



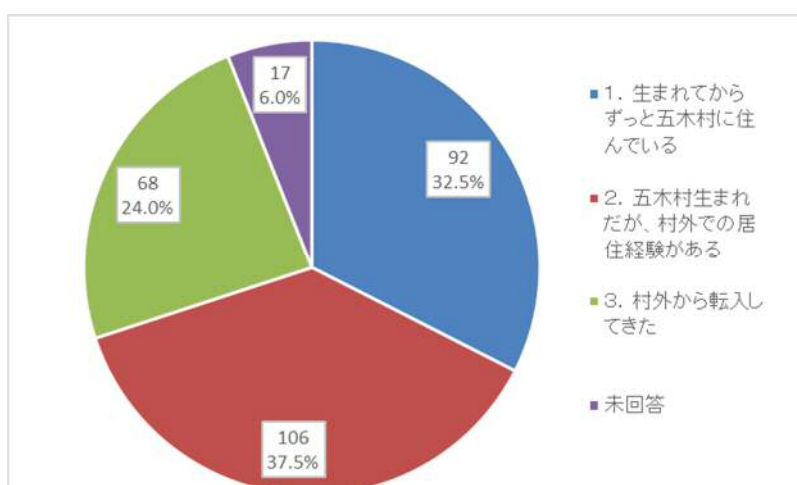
・回答者の属性

	1. 10代	2. 20代	3. 30代	4. 40代	5. 50代	6. 60代	7. 70代	8. 80代	9. 90代以上	未回答	合計
女	2	4	11	11	13	32	38	28	7		
男	1	1	9	9	17	37	37	14			
実数	3	5	20	20	30	69	75	42	8	11	283
割合	1.1%	1.8%	7.1%	7.1%	10.6%	24.4%	26.5%	14.8%	2.8%	3.9%	100.0%

(2) 移住、定住について

①居住状況

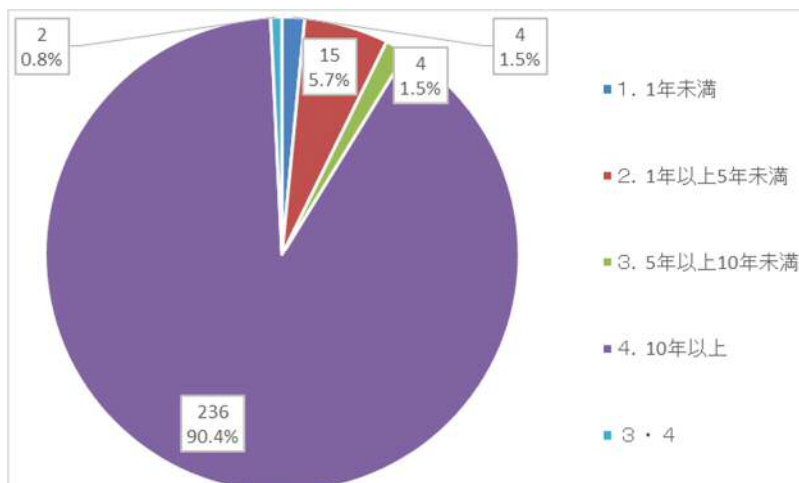
- ・現在の居住状況については、「五木村生まれだが、村外での居住経験がある」(37.5%)と最も多く、続いて「生まれてからずっと五木村に住んでいる」(32.5%)となった。
- ・「村外から転入してきた」は24.0%であった。



②通算居住年数

- ・五木村での通算居住年数は、「10年以上」（90.4％）が最も多く、1年以上の居住者が9割を超えている。

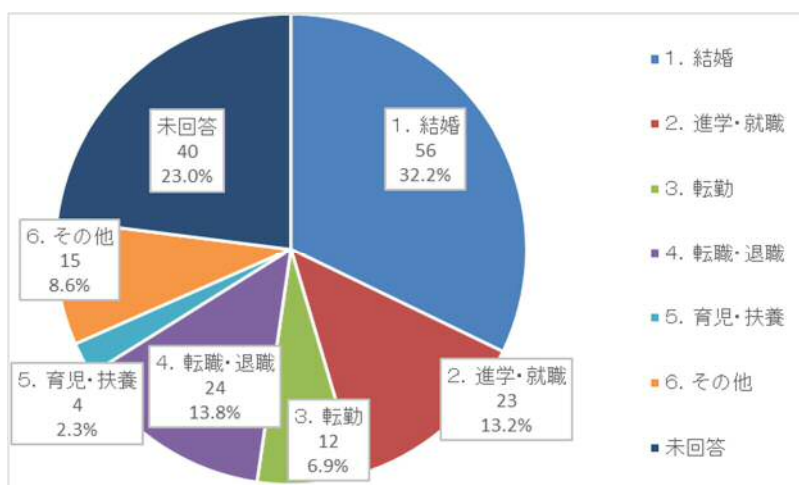
図表 2-2 通算居住年数



③現在の住居に住むようになった理由

- ・現在の居住状況の問いで、「五木村生まれだが、村外での居住経験がある」と「村外から転入してきた」と回答した人に、現在の住居に住むようになった理由を尋ねたところ、「結婚」（32.2％）が最も多く、以下、「転職・退職等」（13.8％）、「進学・就職等」（13.2％）と続いている。

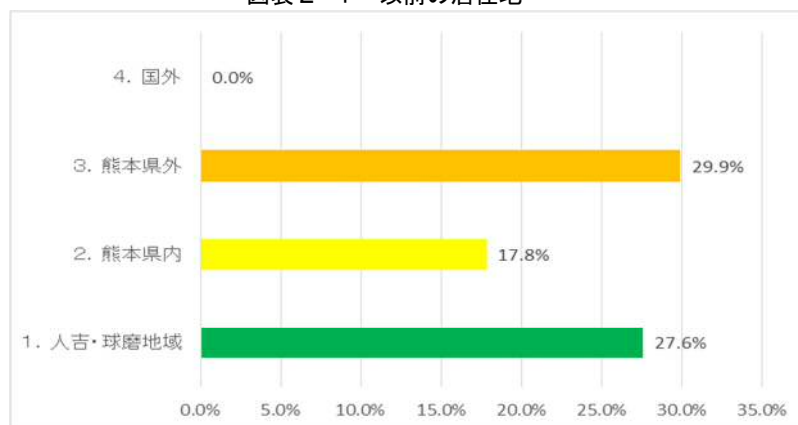
図表 2-3 現在の住居に住むようになった理由



④以前の居住地

- ・現在の居住状況の問いで、「五木村生まれだが、村外での居住経験がある」と「村外から転入してきた」と回答した人に、五木村に転入した時（複数回ある場合は最後に転入した時）、その直前の居住地を尋ねたところ、「熊本県外」（29.9%）が最も多く、以下、「人吉・球磨地域」（27.6%）、「熊本県内」（17.8%）などとなった。

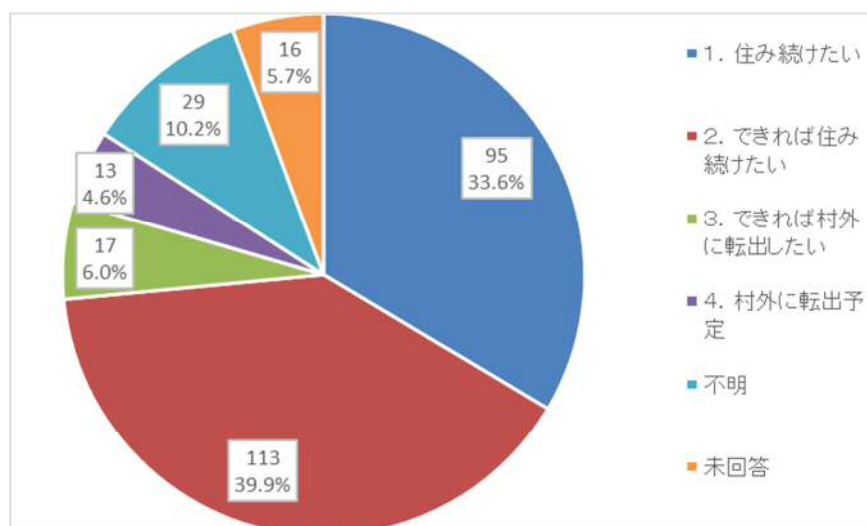
図表 2-4 以前の居住地



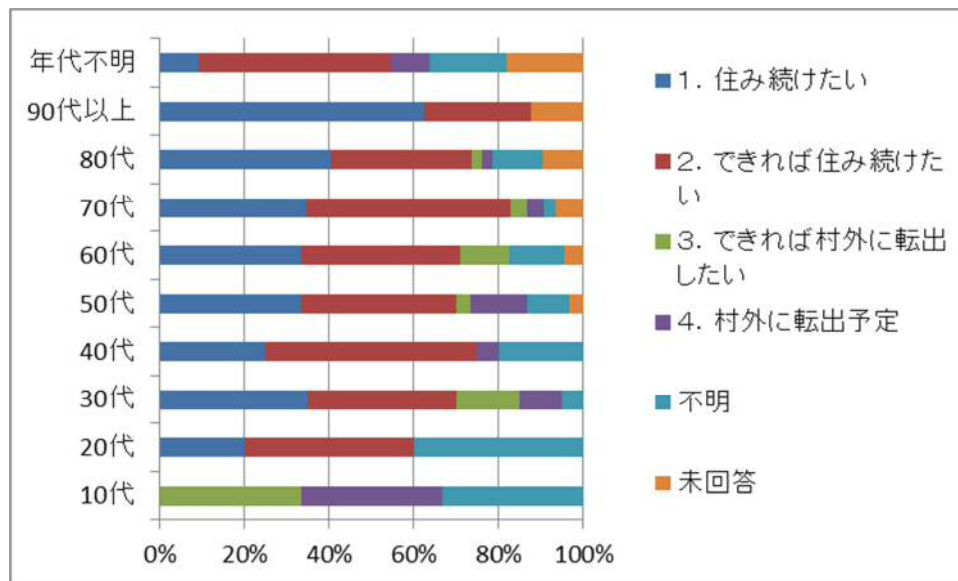
⑤今後の居住意向

- ・これからも五木村に住み続けたいと思うかを尋ねたところ、「できれば住み続けたい」（39.9%）が最も多く、次いで「住み続けたい」（33.6%）となり、合わせて約7割が今後も居住意向を持っている。
- ・一方、「できれば村外に転出したい」（6.0%）と「村外に転出予定」（4.6%）を合わせた村外への転出意向を持つ人は10.6%となった。
- ・年代別にみると、30代以上で今後も居住意向を持つ人（「住み続けたい」と「できれば住み続けたい」の合計）が6割を超えた一方で、30代未満は6割以下となった。

図表 2-5 今後の居住意向



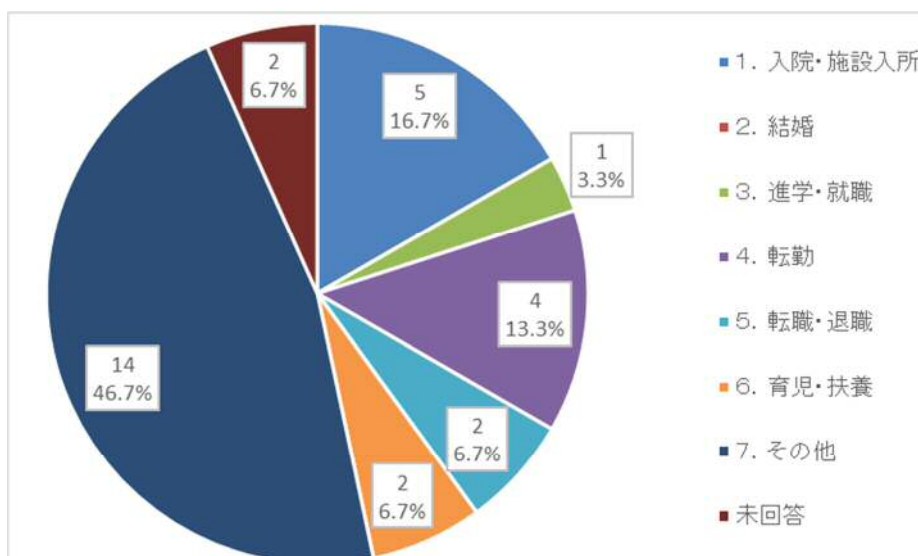
図表 2-6 今後の居住意向（年代別）



⑥転出の理由

- ・「できれば村外に転出したい」と「村外に転出予定」を合わせた村外への転出意向を持つ人に対して、転出する場合の理由を尋ねたところ、「その他」（46.7%）が最も多く、以下、「入院・施設入所」（16.7%）、「転勤等」（13.3%）、「転職・退職等」「育児・扶養」（それぞれ6.7%）などとなった。
- ・「その他」の内訳をみると、「高齢にて免許返納する為」（70代男性）、「車の運転ができなくなる」（30代男性）、「いずれ夫の実家に住まなければいけない」（70代女性）「病院、買い物」（70代男性）、「現状維持が難しそうだから」（30代女性）、「老後、医療機関が近い方が安心」（60代男性）などの理由がみられた。

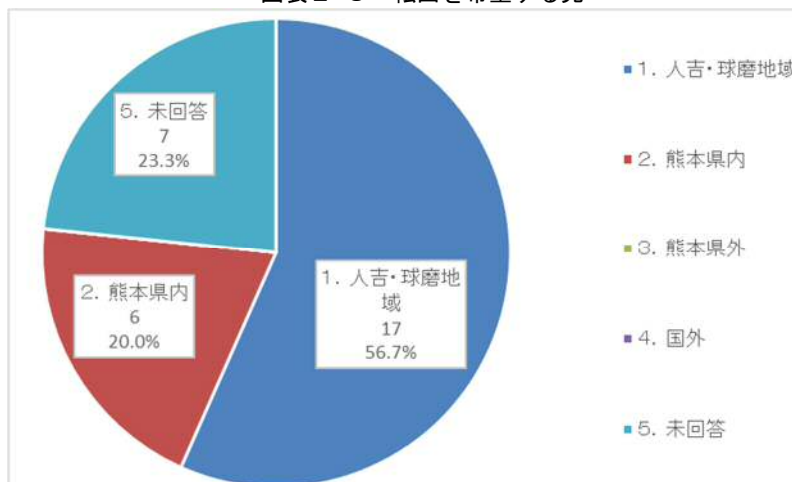
図表 2-7 転出の理由



⑦転出を希望する先

- ・「できれば村外に転出したい」と「村外に転出予定」を合わせた村外への転出意向を持つ人の転出を希望する先は、「人吉・球磨地域」（56.7%）が最も多く、「熊本県内（人吉・球磨地域を除く）」（20.0%）となり、熊本県内を希望する人が約7割以上を占め、残りは「未回答」であった。一方、「熊本県外」「国外」の希望はなかった。

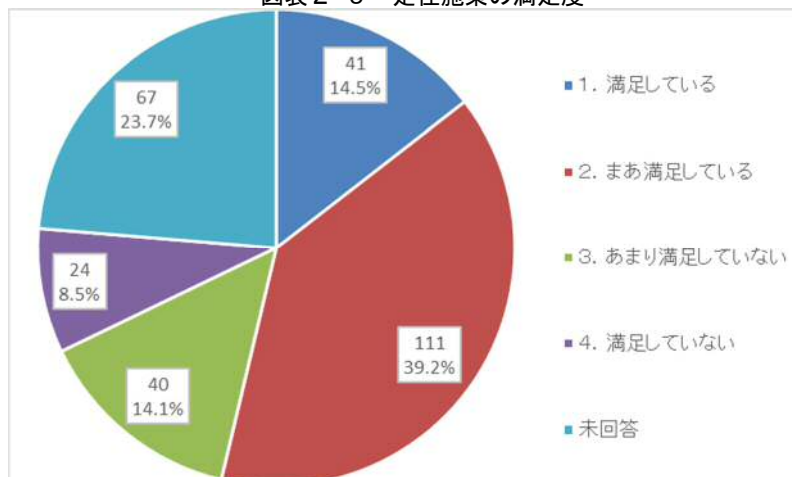
図表 2-8 転出を希望する先



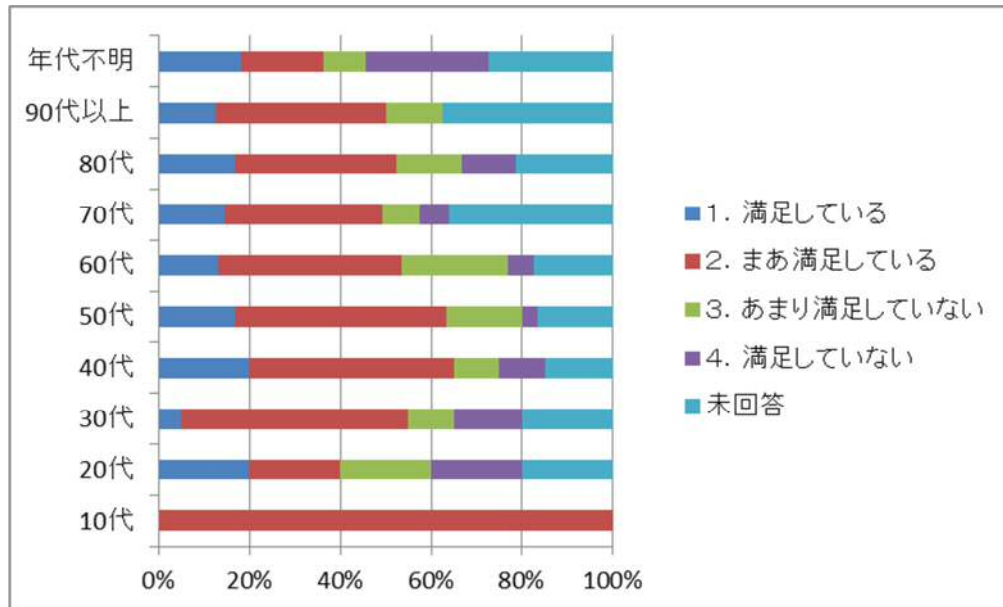
⑧定住施策の満足度

- ・現在の村の定住に関する満足度を尋ねたところ、「満足している」（14.5%）と「まあ満足している」（39.2%）となり、満足度が高い人が半数を超えた。
- ・一方、「あまり満足していない」（14.1%）、「満足していない」（8.5%）と満足度が低い人は2～3割を占める。
- ・年代別にみると、20代と70代で「満足している」と「まあ満足している」の合計が半数に満たなかった。

図表 2-9 定住施策の満足度



図表 2-10 定住施策の満足度（年代別）



⑨定住に関する自由意見、要望等

- ・定住にあたって村にどのような施策を望むかを尋ねた結果は、以下のとおり。
住宅の確保、医療・福祉、雇用について意見が多く見られる。

図表 2-1 1 定住に関する自由意見、要望等

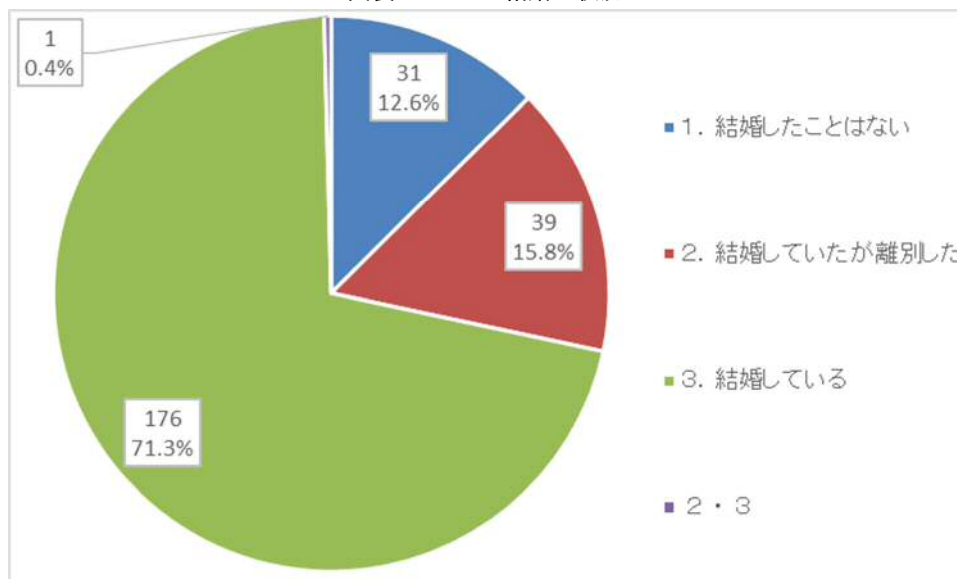
性別	年齢	Q20自由記述
男	50代	新規の住宅建築はコスト高、居住できる場所確保対策としては、まず空き屋対策を進めることで…
女	40代	戸建ての住宅も良いですが、アパートのようなかたちの住宅は建てないのでしょうか？土地もあまりないのに戸建てばかりだとたいして五木に住む人は増えないと思うのですが…。
男	30代	定住を行っても、結果村外へ出る方がいるのが現状。
男	60代	タクシーの定着
男	60代	医療機関の充実
女	30代	定住→住宅建築→土地 五木は借地が多いので、新築の見込みなし。分譲地の整備がないとアンケートを何回書いても増えません…と10年以上言い続けていますが、何も変わりません。
女	50代	村外からの住民をもっと大切にアツかつてほしい。とくに子供をもつ家庭の意見を聞いてあげてほしい
男	40代	定住、移住を中心に考えていて、もともとの住民のことをあまり考えていないので、それにたいする施策を考えてほしい。
男	70代	環境整備(木にのぼっているツル類の除去)
男	60代	雇用の場の確保
女	60代	住民が安全で安心できる村
女	70代	道路
女	60代	福祉関係等これから先が心配な事
女	40代	住宅の数が増えたら、若者(家族)が定住すると思います。(空き家の利用、頭地周辺にも)家族用住宅を。
男	70代	家族向けの住宅が必要である。
男	90代以上	高齢によりその日その日をくらす事だけです
女	30代	もう少し世帯向けの住宅を増やした方がいいと思う。家を建てれる土地を紹介したりしてもらいたい。
男	30代	子供が安全に遊べる場所、雨の日でも遊べる施設があればと思う。
女	70代	現在車にのっているのがのれなくなった時の外出手段を良くして欲しい
女	30代	ダム建設予定地の使用
女	80代	リレーバス運行事業
-	未回答	五木なりの■、■のあること、全力であること、五木のため全力であること
女	80代	村営住宅定住助成金
女	80代	人員が多くなる方法
女	60代	定住する為の安定した収入を得られる職場があると良いと思う。
男	60代	遠隔地に定住の高齢者(ひとり暮らしなど)住宅の共同住宅化による福祉の向上
女	60代	定(移)住するまででなく、定(移)住後の支援が大事だと思います。地域全体で受入、支援する。(長期的)
女	30代	住宅を増やしてほしい(世帯向けの)
男	60代	赤字の箱物はいらない。温泉、ヒストリアテラス等
男	60代	高齢者対策
女	60代	行政による対応は万全であるが、まだ生活上、不十分なことも感じる。生活品(食品)が間に合わない。医療の面で、小児医療、夜間診療等の体制も必要。買物支援が欲しい。
男	60代	医療についてもう少し力を入れてほしい。
男	50代	住宅の整備
男	30代	住宅
女	50代	家族向けの集合住宅を増す。
女	80代	深く突込んで有識者で検討を希みます。成功している、他県を調べてみていただきたい
男	70代	運転が出来なくなった時の食料品の調達
女	60代	安く泊まれるログハウスがほしい(これは村外の人の意見です)
男	50代	村内に居住し、働く人の支援
男	60代	五木に住んでいない人(子供等)へのアンケート意見聴取。
女	70代	子供が同居出来ない為老後の生活が心配です。
男	70代	教育、仕事場の確保
男	50代	五木に住んでスーパー買物食料品がない
女	80代	介護の充実を！！

(3) 結婚について

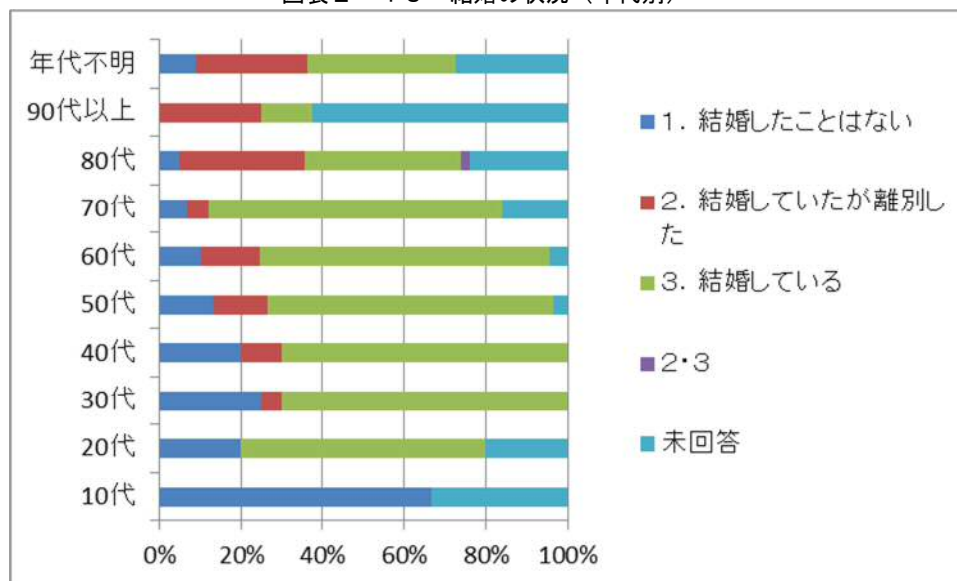
①結婚の状況

- ・現在の結婚の状況については、「結婚している」(71.6%)と最も多く、以下、「結婚したことはない」(12.6%)、「結婚していたことがああるが、離(死)別した」(15.8%)となった。

図表 2-1 2 結婚の状況



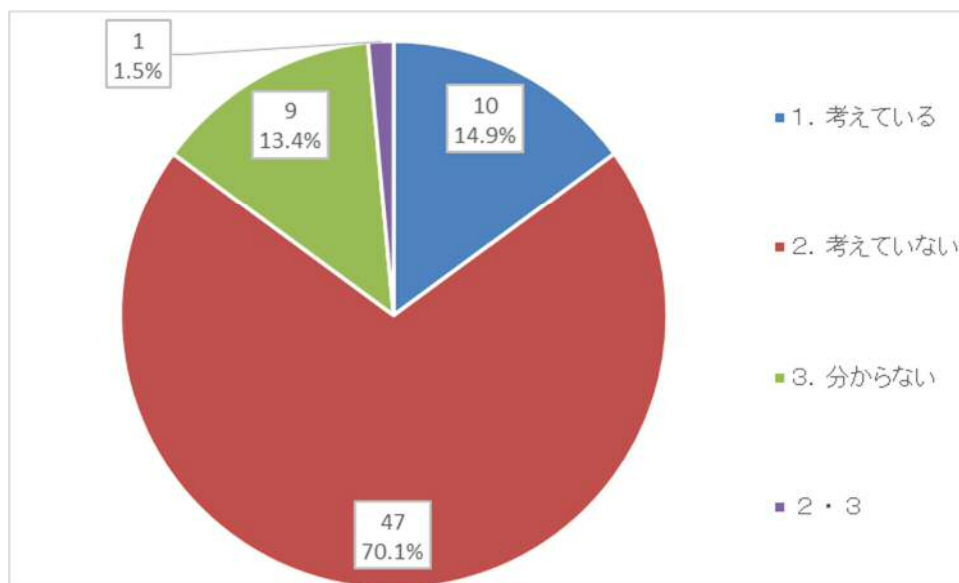
図表 2-1 3 結婚の状況(年代別)



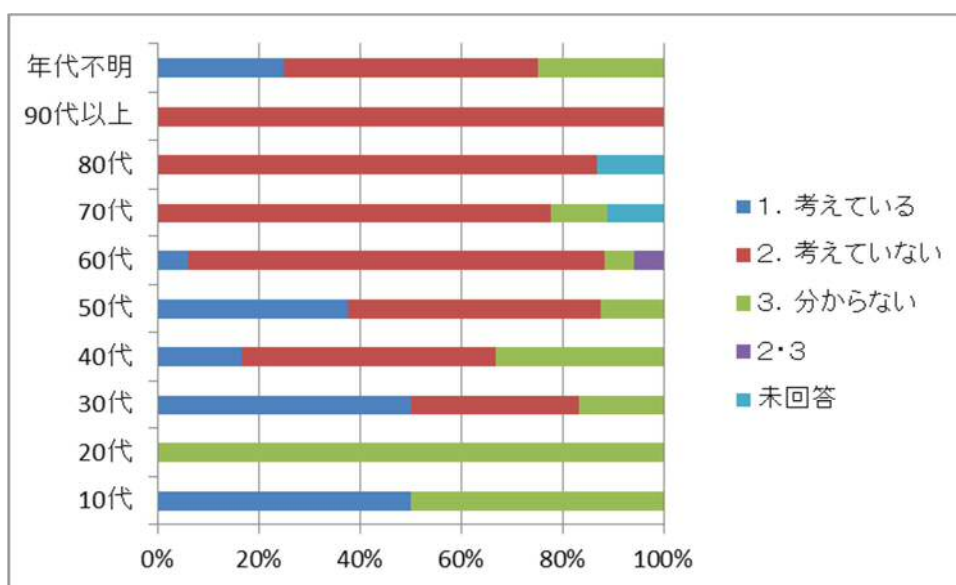
②結婚の意志

- ・現在の結婚していない人に対して、今後の結婚の意志を尋ねたところ、「今後結婚しようと思っている」(14.9%)、「結婚しようとは思わない」(70.1%)、「わからない」(13.4%) となった。

図表 2-14 結婚の意志



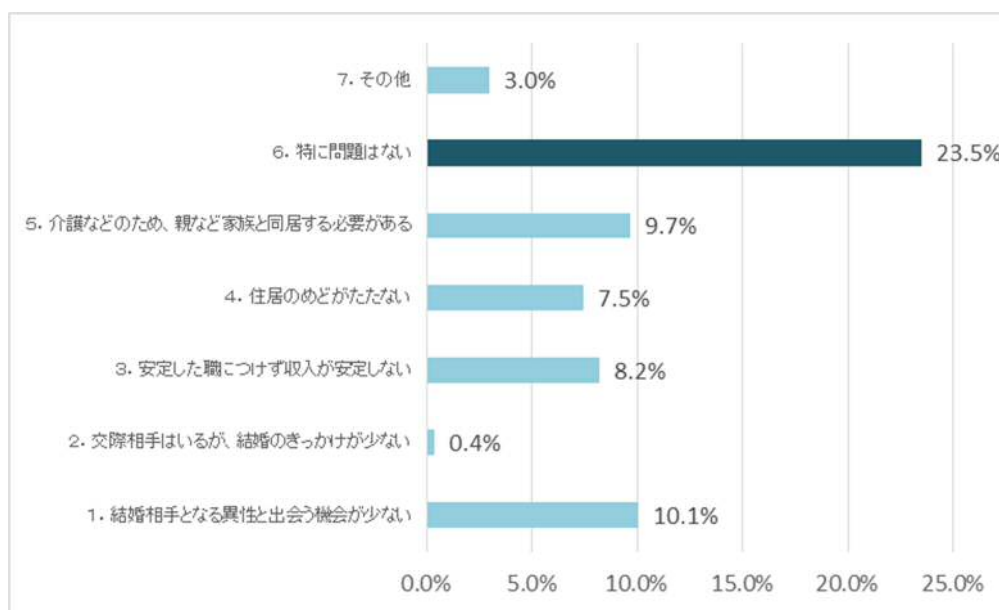
図表 2-15 結婚の意志（年代別）



③結婚にあたっての問題

- ・現在結婚している人（176人）と今後結婚しようと思っている人（10人）の合計186人に対して、結婚にあたっての問題点を尋ねたところ、「特に問題はない」（23.5%）、「結婚相手となる異性と出会う機会が少ない」（10.1%）、「介護などのため、親など家族と同居する必要がある」（9.7%）、「安定した職につけず収入が安定しない」（8.2%）などとなった。

図表 2-1 6 結婚にあたっての問題（複数回答）



④結婚に関する自由意見、要望等

- ・結婚にあたって村にどのような施策を望むかを尋ねた結果は、以下のとおり。
婚活イベントの実施を望む意見がある一方、本人の意思の尊重を重視すべきとの意見や住宅などの生活環境等の整備を求める意見も見られた。

図表 2-17 結婚に関する施策への自由意見、要望等

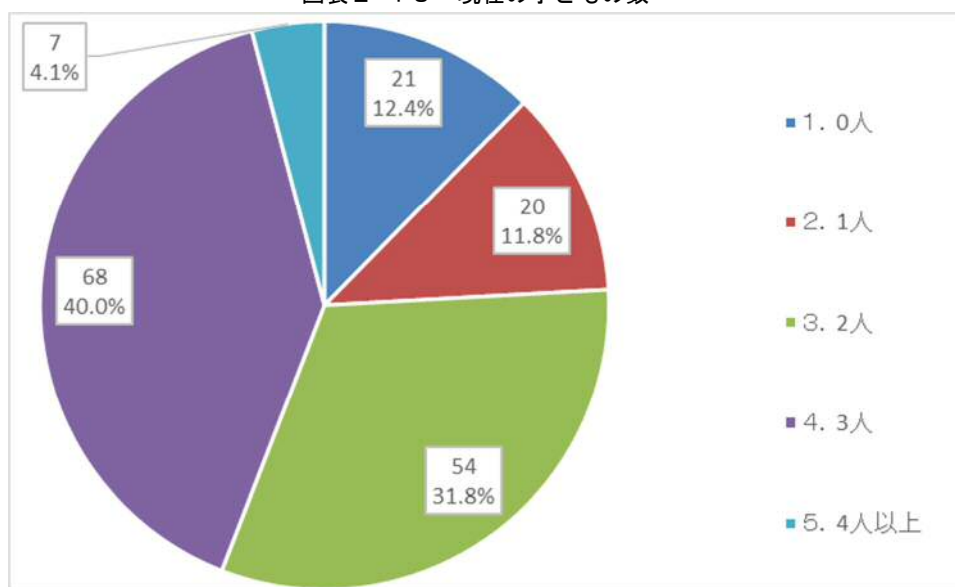
性別	年齢	自由記述
男	50代	個人の問題であり、行政の関与はあまり望ましくない
女	30代	婚活セミナー(結婚の良さ、子育ての楽しさ、コミュニケーション)等、行政主体でやってもいいと思うが、1日旅行に行ってしまうのは、税金のムダ遣い。又、結婚を考えていない人もいるはずで、強制的に参加させ、トラウマになるようことをさせるのは、人権無視。行政の実績づくりのために強制すべきではない。
男	60代	五木村では結婚相手はいないので集団見合を年間4~5回位はやってほしい。
男	70代	雇用対策と住宅の整備
女	30代	テレビで放送されるような大々的にお見合いパーティーなどするといいと思う。(テレビ呼ぶのも1つの手かと…)
女	60代	お見合に年齢制限があるのはどうかな~と思う。
女	60代	五木村に限った事でなく、給料が安い(公務員の方はわかりませんが)それで結婚は考えづらいのでは…
男	60代	女性が住みやすい村
女	60代	婚活、活動を活発に行なう。いずれにしても、若い人達が村内で生活、暮らしていける、仕事おこし、職場づくりが大事?
女	40代	出会いのイベント
男	60代	今の若い人がなかなか結婚しないので、行政や教育の面からも対策をしてほしい
女	30代	結婚するかどうかは本人の意志であり、自由だと思うが、婚活パーティなど出会いの場を提供するのは良いと思う。その後の住まい探しが大変なので、世帯向けの住宅が足りていないのではないかと感じます。また、同世代で家庭がある人達が、頭地周辺に住みたいが、住宅も無いし、家を建てる土地や分譲地も無い、空家も無いので、転出も考えるという声も少なからず耳にします。
男	50代	集団でのお見合いを今後も計画して下さい

(4) 出産について

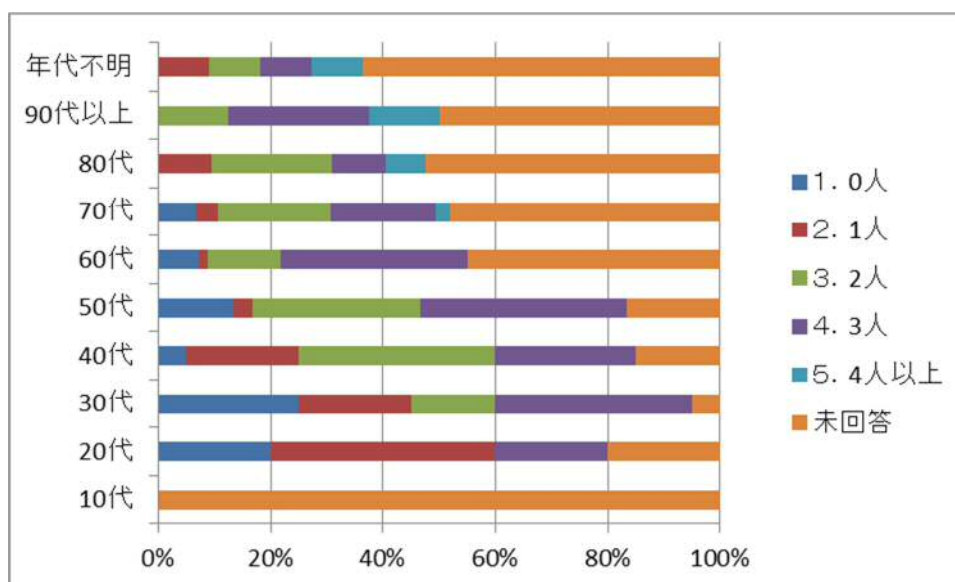
①子どもの数

- ・現在の子どもの数については、「0人」(12.4%)、「1人」(11.8%)、「2人」(31.8%)、「3人」(40.0%)、「4人以上」(4.1%) となった。

図表 2-18 現在の子どもの数



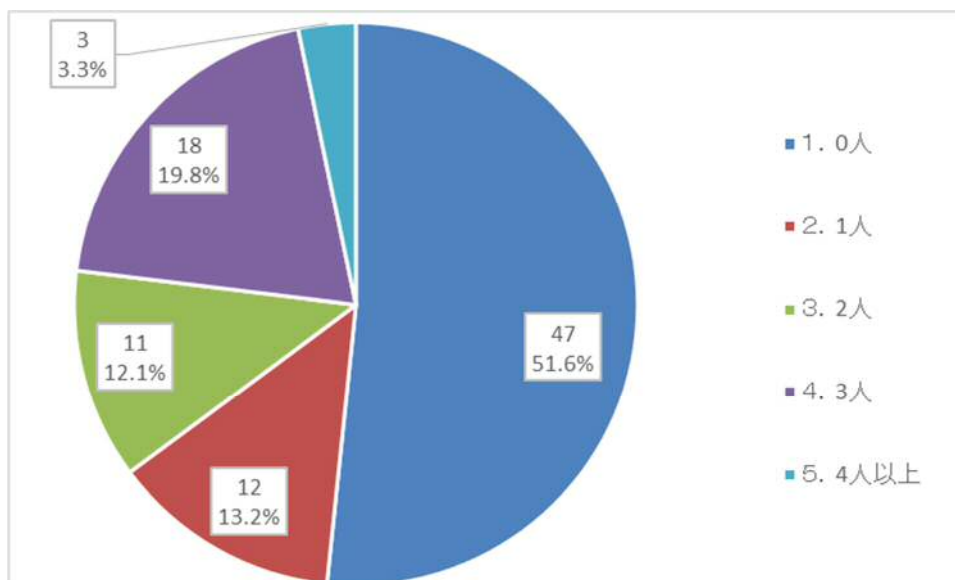
図表 2-19 現在の子どもの数 (年代別)



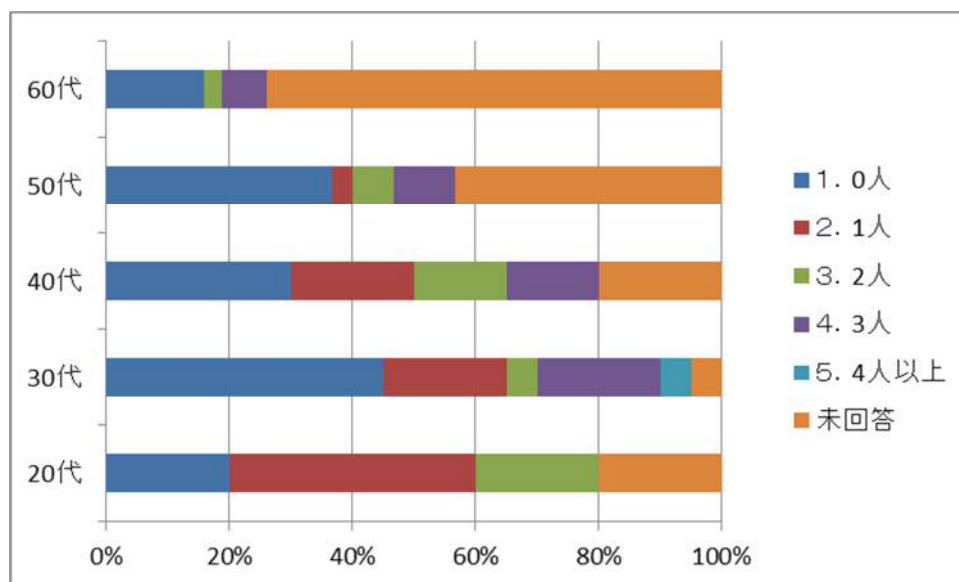
②最終的に持つ子どもの数

- ・最終的に持つ予定の子どもの数は、「0人」(51.6%)、「1人」(13.2%)、「2人」(12.1%)、「3人」(19.8%)、「4人」(3.3%) となった。

図表 2-2 0 最終的に持つ予定の子どもの数



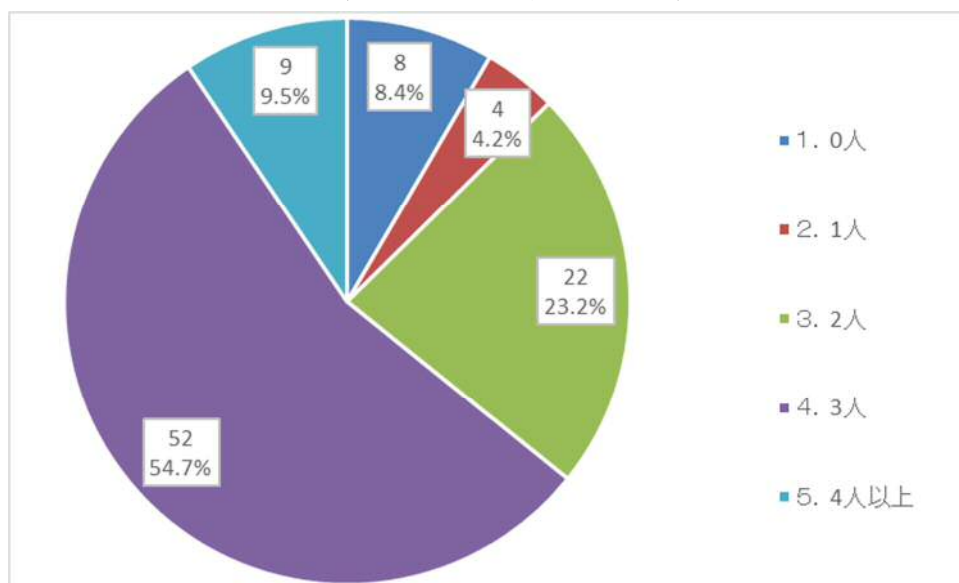
図表 2-2 1 最終的に持つ予定の子どもの数 (20代～60代)



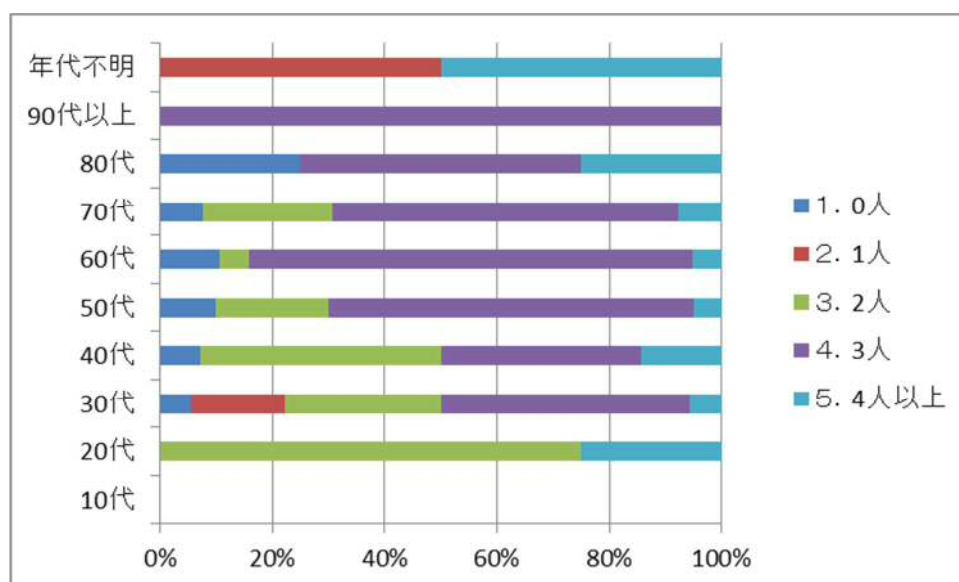
③理想とする子どもの数

- ・理想とする子どもの数は、「0人」（8.4%）、「1人」（4.2%）、「2人」（23.2%）、「3人」（54.7%）、「4人以上」（9.5%）となり、「最終的に持つ予定の子どもの数」よりも大幅に多い回答結果となった。

図表 2-2 2 理想する子どもの数



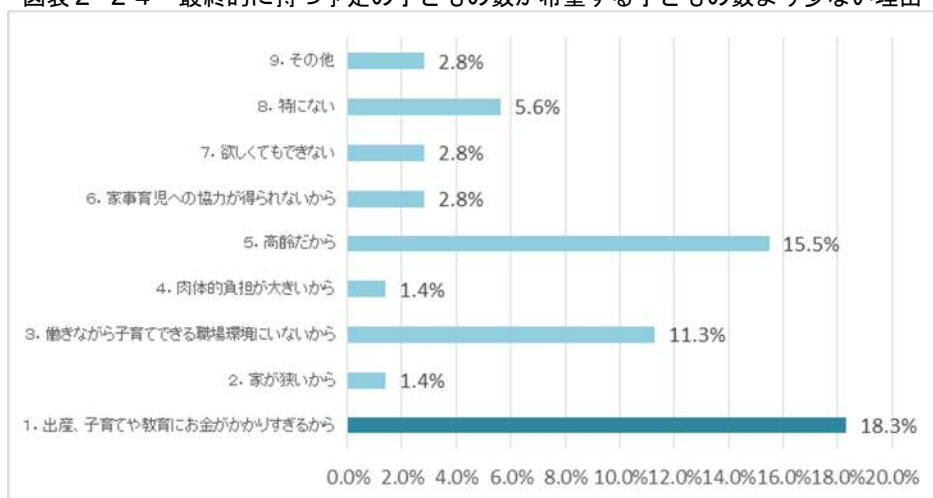
図表 2-2 3 理想とする子どもの数（年代別）



④最終的に持つ予定の子どもの数と理想とする子どもの数

- ・最終的に持つ予定の子どもの数が理想とする子どもの数より少ない理由を尋ねたところ、「出産、子育てにお金がかかりすぎるから」(18.3%)「高齢だから」(15.5%)、「働きながら子育てできる職場環境にないから」(11.3%) などとなった。
- ・また「その他」の意見には、「子育てしながら働く場合、親に迷惑をかけ心苦しい。都会のような延長保育(20時迄)、病中、病後児保育の充実」や「不妊に悩む方にこのようなアンケートを問うことどうか」などの配慮を望む意見も見られた。

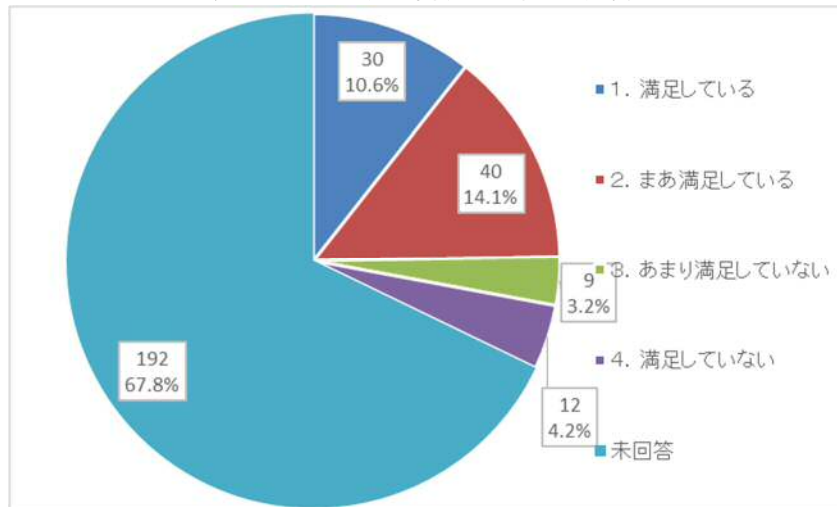
図表 2-2 4 最終的に持つ予定の子どもの数が希望する子どもの数より少ない理由



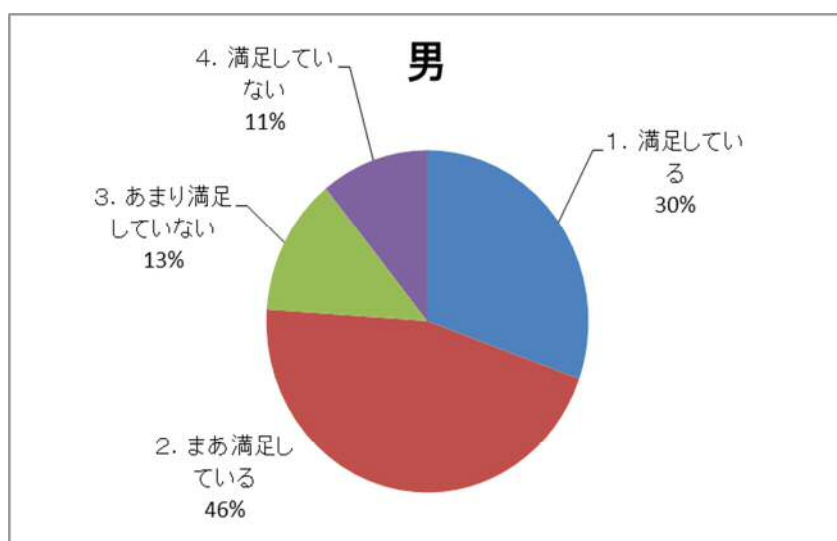
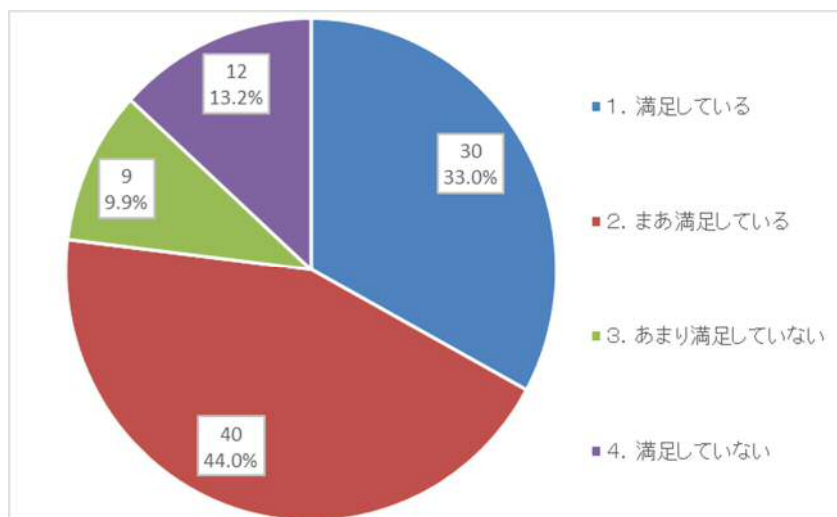
⑤出産に関する施策の満足度

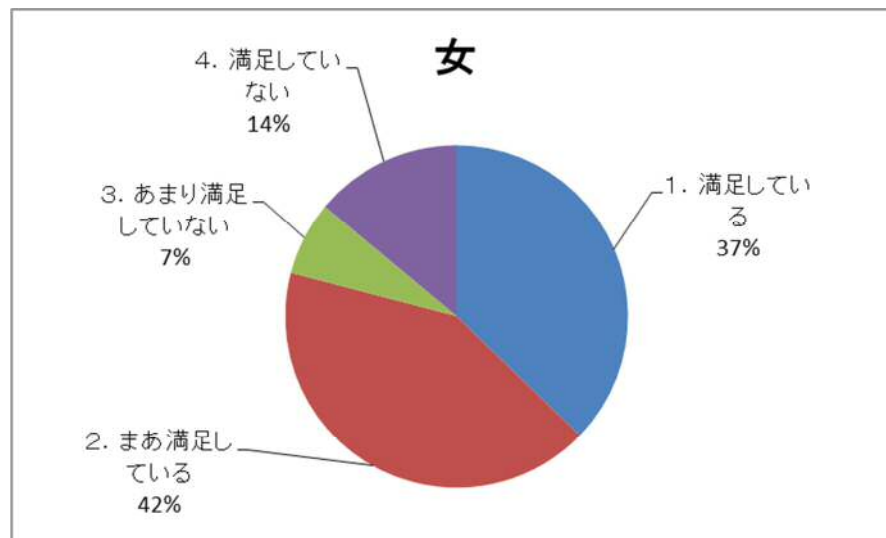
- ・現在の村の出産に関する施策の満足度を尋ねたところ、「満足している」(10.0%)、「まあ満足している」(14.1%) となり、満足度が高い人は24.7%であった。一方、「あまり満足していない」(3.2%)、「満足していない」(4.2%) と満足度が低い人は1割弱にとどまった
- ・「未回答」を除いた場合は、満足度が高い者が77%、満足度が低い者が23%となる。性別でみると、女性の「満足している」と「まあ満足している」が79%となり、男性の76%よりもわずかではあるが高くなっている。
- ・年齢別で見た場合、30代、40代で「満足している」「まあ満足している」と回答した割合が高い。

図表 2-2 5 出産に関する施策の満足度

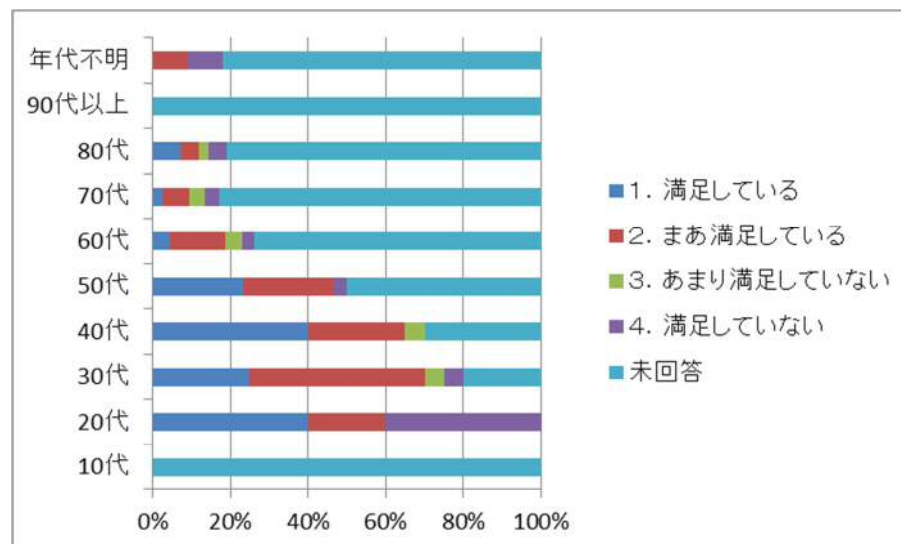


図表 2-2 6 出産に関する施策の満足度（未回答者を除く）





図表 2-2 7 出産に関する施策の満足度（年代別）



⑥出産に関する自由意見、要望等

- ・ 出産にあたって村にどのような施策を望むかを尋ねた結果は、以下のとおり。出産祝い金等の支援を求める意見等が多く見られた。

図表 2-2 8 出産に関する自由意見、要望等

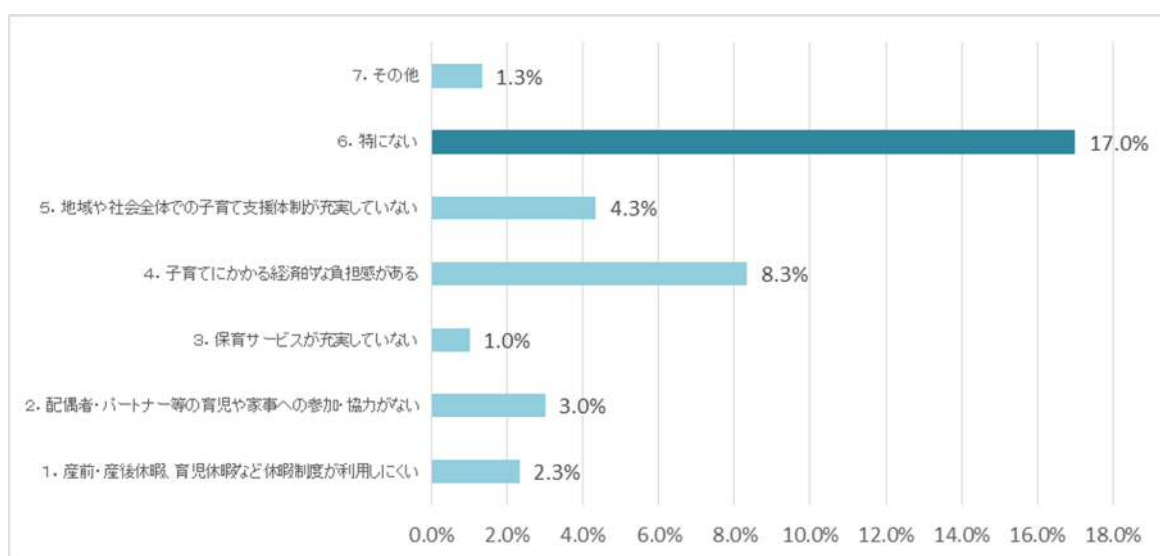
性別	年齢	自由記述
女	30代	不妊治療等、必要と思いますが、プライバシーの保護等を考えると活用しづらい。
女	30代	出産費用の42万円を超える時など、超えた分を助成してもらえると、もっと出産しやすくなるのかなと思う。
女	30代	出産祝い金はとてもいいと思っていたので、なくなった事が残念でした。
女	60代	村からの出産祝い金はあるのか？
女	40代	問28の助成金うけたことないのですが、若い人の定住の為にはとても必要だと思う。
男	60代	今後財政難が予想される中、何時まで出来るか？
男	50代	更なる出産者への支援

(5) 育児について

①育児で困ったこと

- ・育児に当たって困ったことは、「特にない」(17.0%)が最も多いが、「子育てにかかる経済的な負担感がある」(8.3%)、「地域や社会全体での子育て支援体制が充実していない」(4.3%)などが挙げられている。
- ・「その他」困ったこととして、共働きで、子が長期病気になった時(40代男性)、医療費が窓口0円でないのが困る(40代男性)、子育て親の介護が重なった(50代女性)などの意見が見られた。

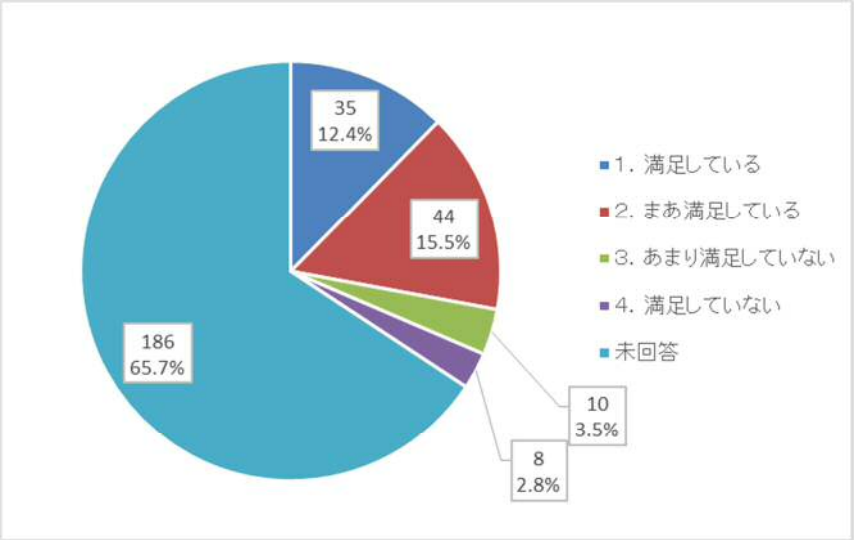
図表 2-29 育児にあたって困ったこと



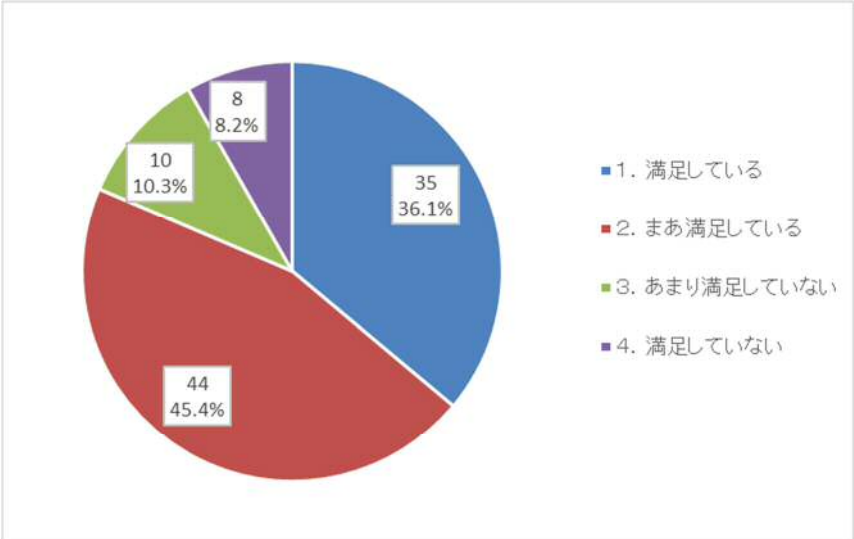
②育児に関する満足度

- ・育児に関する満足度を尋ねたところ、「満足している」(12.4%)、「まあ満足している」(15.5%)と満足度が高い人が27.9%となった。一方、「あまり満足していない」(3.5%)、「満足していない」(2.8%)と満足度が低い人は6.1%にとどまった。
- ・「未回答」を除いた場合は、満足度が高い者が81.5%、満足度が低い者が18.5%となる。
- ・年齢別で見た場合、30代、40代で「満足している」「まあ満足している」と回答した割合が高い。

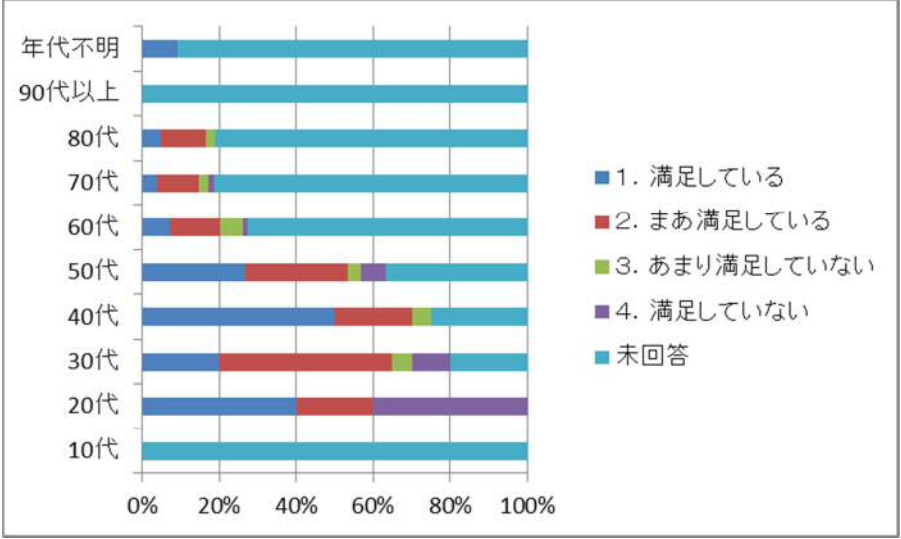
図表 2-3 0 育児に関する満足度



図表 2-3 1 育児に関する満足度（未回答者を除く）



図表 2-3 1 育児に関する満足度（未回答者を除く）



③育児に関する自由意見、要望等

- ・育児にあたって村にどのような施策を望むかを尋ねた結果は、以下のとおり。
病院窓口での支払いや支援への感謝などの意見が見られた。

図表 2-3 2 育児に関する自由意見、要望等

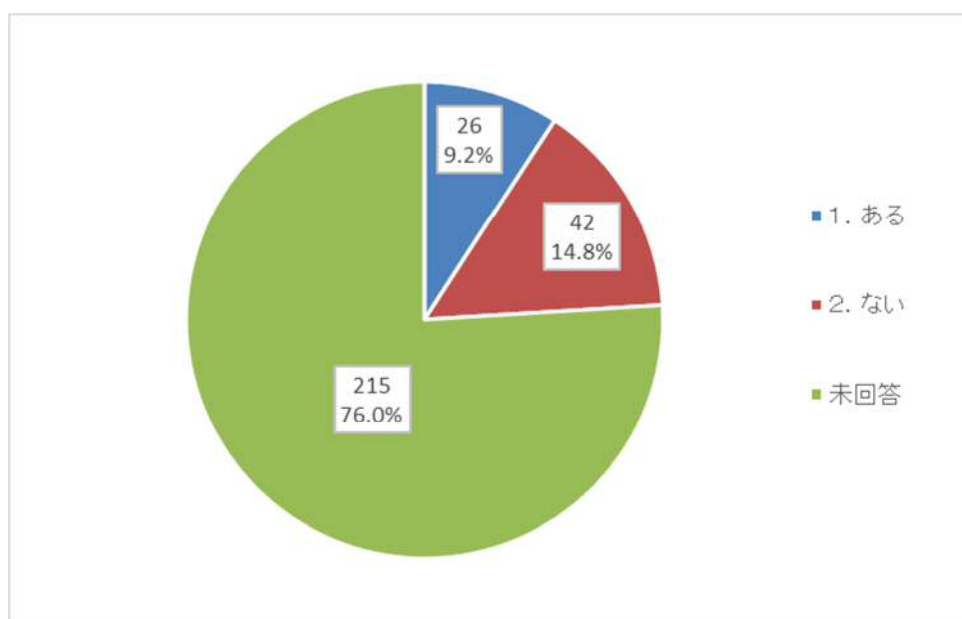
性別	年齢	Q32自由記述
男	20代	他の市町村のように、子供の病院の支払いを早くなくしてほしい。球磨郡の中では五木村だけではないか？
女	40代	子育て支援、ありがたいことばかりです
女	30代	小児科医の窓口支払いをしないでいいようにしてほしい。小さな子を連れての支払いは結構大変です。
女	40代	医療費助成は助かりますが、我が家のように医療費(薬代)がかかると、月によってバラつきはありますが、窓口払いは痛手です。できれば窓口払いでない方法だとありがたいです。・学童保育も含めむかえが6時まで、というのは、遠距離の職場に行く親にとっては焦ります。毎日ではなくてもよいので、希望日のみ6:30 or 7:00まであずかってもらえると助かる。利用料を払ってもよいので。
女	30代	未就学児でも通えるようなスポーツスクールのようなものを作ってもらいたい。(サッカー、体操、ダンスなど…)
女	30代	産前から相談できて産後も話しを聴いてもらえることを望みます。
女	40代	・充分な支援や手助けがありとてもありがたいと思っています。

(6) 進学希望について

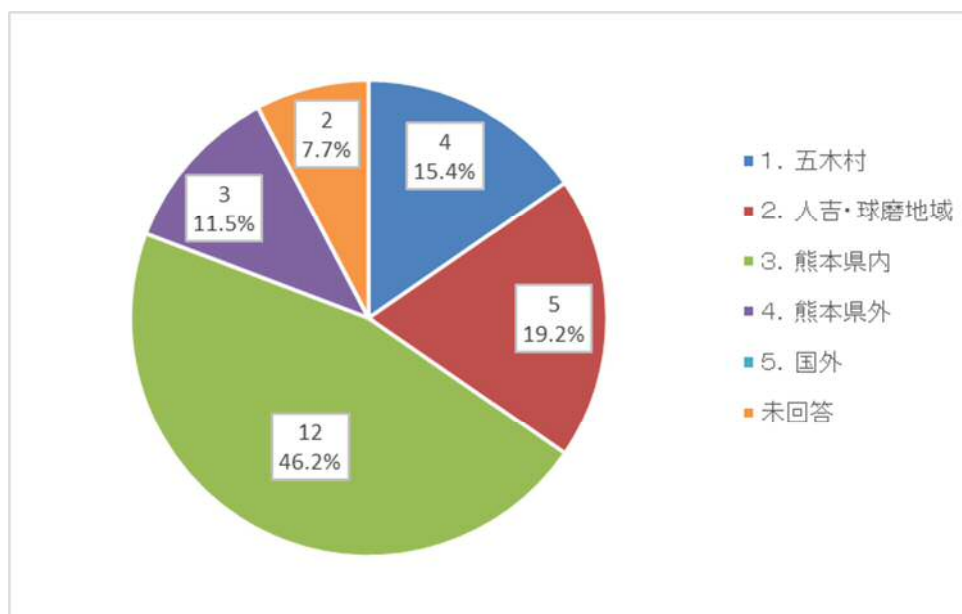
①進学予定の有無

- ・進学予定の有無を尋ねたところ、「ある」(9.2%)、「ない」(14.8%)であった。
- ・進学先をみると、「人吉・球磨地域」(19.2%)、「熊本県内(人吉・球磨地域、五木村を除く)」(33.3%)、「五木村」(11.1%)であった。

図表 2-3 3 進学の有無について



図表 2-3 4 進学先について



②進学で心配すること

- ・進学の際に心配することを尋ねた結果は、以下のとおり。
学費や通学に係る費用を心配する意見が見られる。

図表 2-3 5 進学の際の心配

性別	年齢	Q35自由記述
女	40代	多人数になじめるか。通学費用または下宿(寮)費等
女	40代	下宿、アパート代がかかる。
女	40代	五木村から通学するのは資金面(通学費)がとても大変
男	50代	学費
男	30代	学費、部費
女	40代	通学

③進学に関する自由意見、要望等

- ・進学にあたって村にどのような施策を望むかを尋ねた結果は、以下のとおり。

図表 2-3 6 進学に関する自由意見、要望等

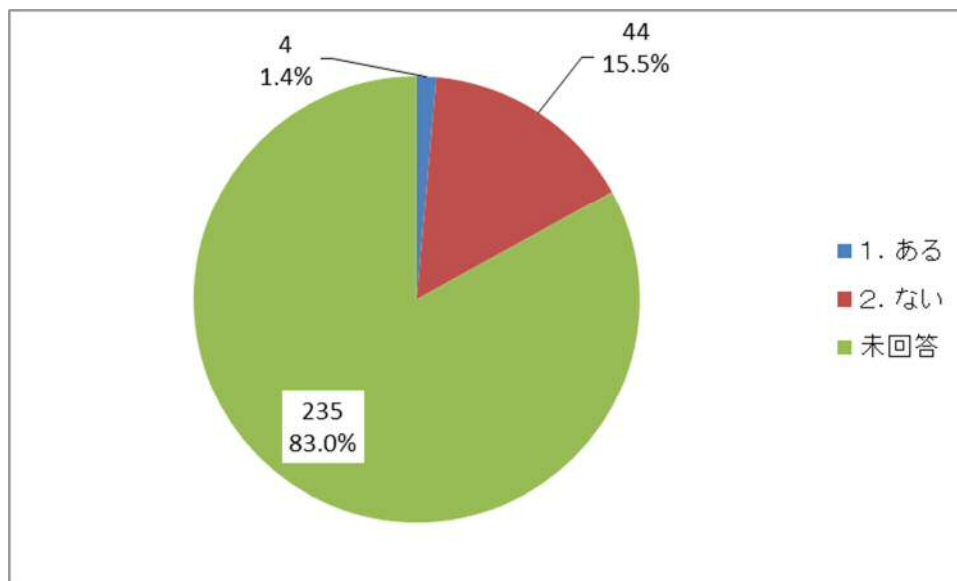
性別	年齢	Q36自由記述
男	40代	村内就職(雇用)の情報
女	40代	高校進学するのに村外にでる人が多いのは、近くに学校がないから…通学するにも(人吉・球磨)交通手段ないし、交通費もかかるので、村外にでて寮に入るしかない…交通費・寮代一部負担してほしい。
男	50代	奨学金を利用する場合返済は五木に帰ってくことで支払いを免除して下さい

(7) 地元就職について

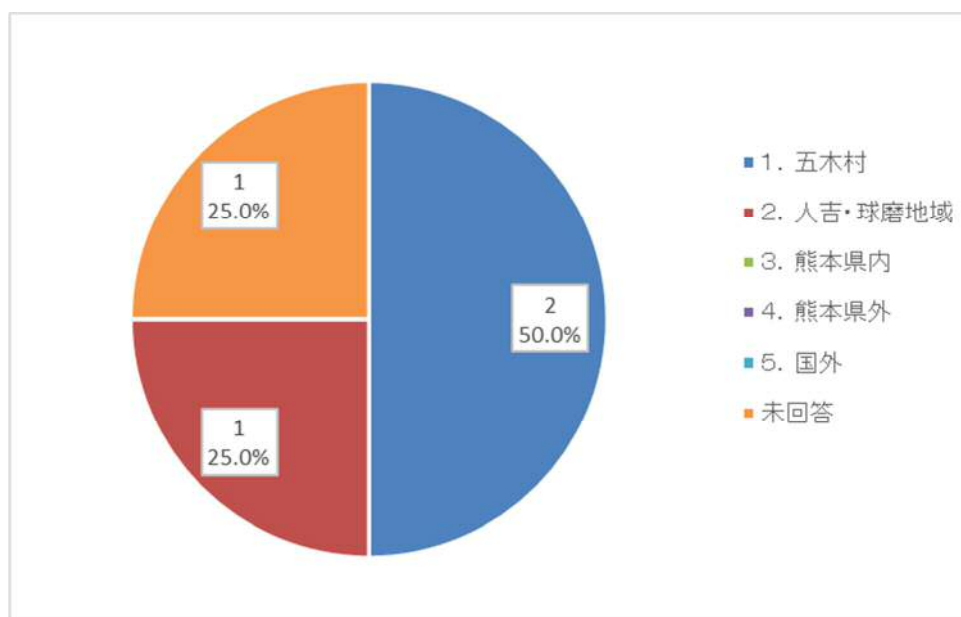
①就職予定の有無

- ・就職予定の有無を尋ねたところ、「ある」(1.4%)、「ない」(15.5%)であった。
- ・就職希望先をみると、「五木村」(50.0%)、「人吉・球磨地域、五木村を除く」(25.0%)であった。

図表 2-3 7 就職予定の有無



図表 2-3 8 就職希望先



②就職で心配すること

- ・就職の際に心配することを尋ねた結果は、以下のとおり。

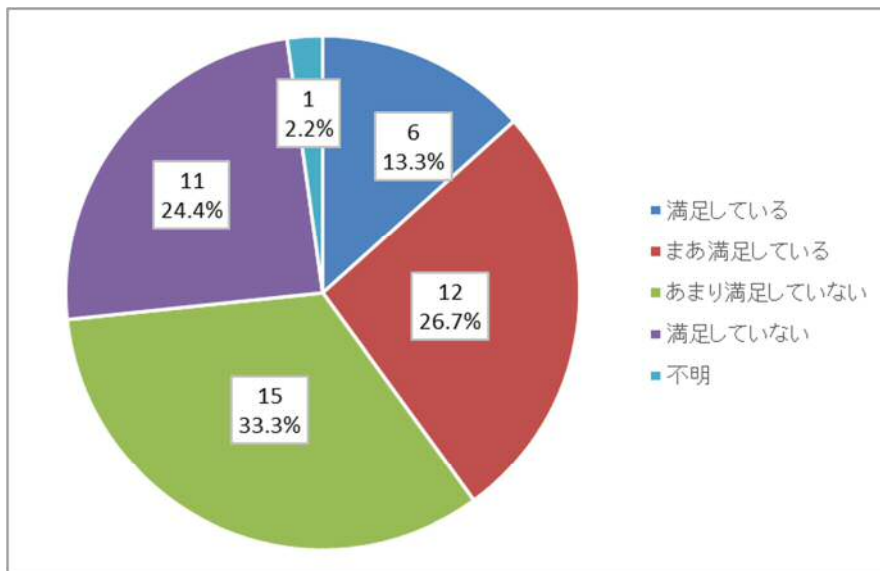
図表 2-3 9 就職の際の心配

性別	年齢	Q39自由記述
男	50代	五木を盛り上げること

③就職に関する満足度

- ・就職に関する満足度を尋ねたところ、「満足している」(1.6%)、「まあ満足している」(3.1%)と満足度が高い人が4.7%となった。一方、「あまり満足していない」(0.8%)、「満足していない」(1.9%)と満足度が低い人は2.7%となった。

図表 2-4 0 就職に関する満足度



④就職に関する自由意見、要望等

- ・就職にあたって村にどのような施策を望むかを尋ねた結果は、以下のとおり。

図表 2-4 1 就職に関する自由意見、要望等

性別	年齢	自由記述
女	50代	村からのあまくだりをなくす。行政と民間
女	70代	一年一年の臨時雇用はやめるべきである。五木村に人材を残そうと思うなら、すべて正職員として雇用すべきであると思う。
女	50代	ターンリターンで五木で働いている若い人達の意見や、要望を大事にして、頑張りを応援して欲しい。
男	50代	公務員等税金で飯かう職場より民間で生きる方が税金があるので、民間が活気づくように考えてほしい。

(8) 自由意見等について

- ・その他の村に対する意見を尋ねた結果は、以下のとおり。

図表 2-4 2 その他の自由意見、要望等

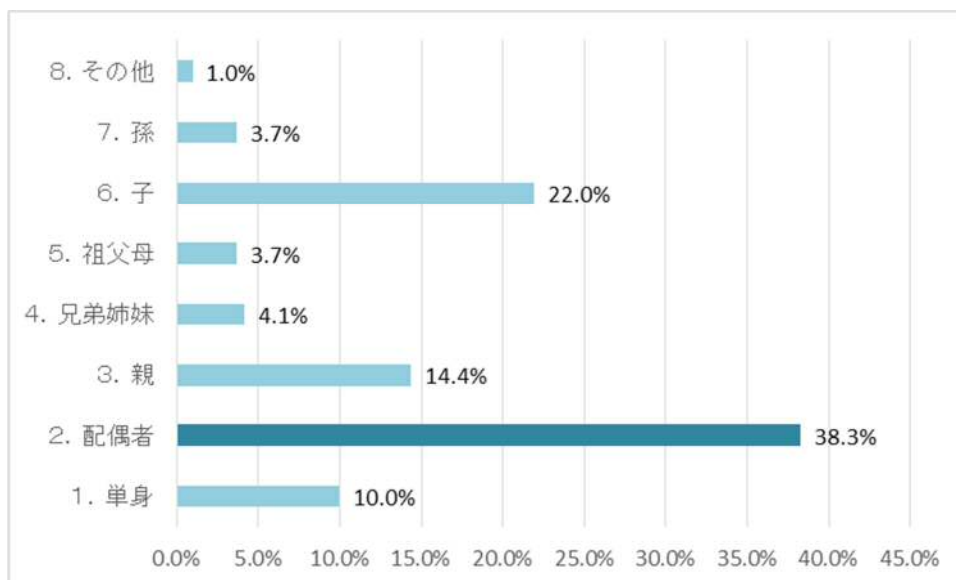
性別	年齢	自由記述
男	60代	五木村が生き残るため行政は知恵を出して人口増加などの再建築を示して下さい。必死さが、住民には全然伝わって来ません。
女	30代	・時間を割いて書かれたアンケートがたくさん集まると思うので、貴重な意見を集約して、良い計画ができればと思います。アンケートを実施した事が実績で、それで終わるパターンがよくあります。意見が反映されない場合、住民からすると余計に不満が募ります。意見を精査し、PDCAサイクルのプランを立てるだけではなく、どのように改善したか、チェック体制まで確立してもらいたいです。
女	70代	五木村の住みやすさのためのアンケートだと思うのですが、住みやすい五木村にしていけるために何が必要で、どうすればいいのか後期高齢者にとっては、このアンケートではわからなかった。
男	40代	永住対策として、現在、若い人は村営住宅に住んでいる人が多く、永住(定住)対策となっていないと思う。一戸建て等持家化を進める為の土地の確保をお願いしたい。高齢化により、地区の存続が危ぶまれる地域が、多く発生してくると思うので、その対策。
女	40代	・村営住宅についてですが、家族がいない方が家族向けの住宅に住まわれていたりしますが、単身向けに移っていただく事などはできないのでしょうか？本当に家族向けの住宅に住みたい方が住めないと思います。普段五木に住まわれていない方が住宅を借りておられるという話もききます、それが本当でしたら、村にはきちんと対応していただきたいです。
男	50代	林業従事者の賃金を上げる。安定した収入となるように施策を検討してほしい。観光に力を入れるより林業に力を入れてほしい。
女	80代	林業従事者の収入安定・賃金がやすい。
女	80代	80才の高令者ですので、自由意見となりますが若者に、魅力ある、五木村の90%を超える山林を生かした農林業の振興に力を入れてほしいです。
女	60代	ヒストリアの展示も必要であるが、さらに村のなりたちを歴史をさかのぼり、暮しを分析する必要性を思う。村の山づくりについて、今、抜さい時期で、どんどん杉の木の切り出しがされているが、村内で負荷価値をつける、製材所をつくりコストアップを計り、雇用、仕事を生み出す政策など行う、仕事のネットワークづくり行う、炭焼き、木の子栽培(しいたけでなく、種類を増やすなど)豊かな山づくりが必要である。五木の人々の流れとして、西の方は八代の方へ、生活を求めて出ていった、当時は、八代には紙の工場がある、その為、紙の原料の木の栽培をしていた。お茶も人口減少によりやる人が少なくなっている。厳しい環境で大変になっている。杉を育てるにも30-50年のスパンが必要で林業だけで生計を立てたり仕事をしていくことは、むづかしいように思う。何とかして、持続可能な循環型社会を起こしていくことが大事である。山、畑も放置しておく、野性の動物に荒され、土地もひへいしていく為、放置畑に手を入れる策をおこしていくことが大事である。菜花、レンゲ、大根でもよいので、植えて欲しい。生物多様性、豊かな自然をつくるのが大事である。道の駅でも、地産地消が少ないように思う。この、高齢化、小児化の時代を次につなげていく、政策をどうしたらよいか？先祖の墓があるので、今を住んで、生きているが、都会に住んでいたりする者に対して、その家、そのものの継続が危ぶまれます。ひいては、村自体の存続も危ぶまれるものです。
女	40代	○林業従事者の賃金が安い。五木産材のブランド化がどうなっているのか見えてこない。観光では生活していける人はほとんどいないと思うので、林業に力を入れるべき。 ○村営住宅が不足しているのに、住んでいない方が借りているのは何故？村は何故許可しているのか？ ○いつきちゃんねるの学校行事を編集してながさないで欲しい。誰目線で編集しているのでしょうか。親子で楽しみに見ているのに途中でカットされ不愉快。 ○役場に行っても職員は挨拶しない。窓口は、明るく、挨拶するのが基本ではないですか。服そろうもだらしななし、女性職員で長い髪を、束ねず伸ばし放題にしている人がいます。民間では、長い髪は束ね、清潔感を大事にしますよ。
男	40代	いつきチャンネルですが、学校行事や子守唄祭などは、発表の途中や種目を編集して放送されていますが、せっかくなので、全部放送してほしいです。編集しているポイントがよくわかりません。(理解できません)
女	60代	・村内も若者が少なく、高齢者が多いので(五木の友)の様なサービスの施設がこれからあると安心だと思ふ・ネットの時代とは言え無駄な建物を作りすぎと思ふ・人口が少なくなる中、これから先維持していけるのか村民として心配だ
女	30代	□村のために祭りやイベントの開催などありがとうございます。クリスマス会でツリーを作りケーキを食べたり、ヴィラのJAZZでピアノを聴いたり、本当に楽しかったです。ありがとうございました。大いちょう祭りでは地域の方がピザや豚汁、焼き肉を作られてとても美味しかったです。□ところで祭りやイベントの時にゴミがたくさん出ます。ゴミの分別とマイ箸やマイスプーンなどでゴミを減らしていく方が良いと思います。□ゴミを燃やすためにたくさんの二酸化炭素が排出されます。二酸化炭素排出を減らし地球温暖化を止めなければ私達の生活が厳しくなります。□なので、ゴミの分別やマイ〇〇を考えて頂きたいです。宜しくお願いします。□それから、消防団の訓練が夜9時頃まで行われています。家庭と仕事もある方には大変だと思います。訓練時間の見直しをして頂きたいです。宜しくお願い致します。

性別	年齢	自由記述
男	60代	雨が多い時期は、川の増水がいつも心配。提防をもっと高くしてほしい。観光は食堂が少ない泊る所が少ないとよく言われる。昔と違って暑い日が多いので、プールを作って子供の遊び場を作ると、観光客も増えるのでは。
女	70代	道路が一番です
-	未回答	道の整備、住民のための、住民の…、住民があるからこそ、お考え下さい。
女	60代	・思い付いた時いつでも自由に行ける交通手段・近くに店がほしい
男	60代	高齢者が安心して暮らせる村作りをしてほしい。
女	80代	一人暮らしなので、体が動かなくなった時どうなるか心配であります
女	70代	・村での集団検診について 婦人検診には女医先生を望みます。 ・部落の空屋の果樹(柿の実)村でどうにかありませんか。困っています。
女	60代	台風・大雨時の避難時、寝具等も準備しなくてはいけない。着替、食料品はともかく寝具については、常備出来ないか。荷物の運搬も大変。
男	60代	※(五木村歴史文化交流館ヒストリアテラス五木谷)※(森と溪流五木ステイ)等の観光※(村道、水道施設第、ライフライン、上記、着実な産業振興と暮らし改革より以上に繁栄を木下村長へ実現されたい。今、住んでいる地域をより以上に住みやすいように住民の希望を多いに聞かされて載きたい。1日も早く各集落を巡回されて住民の希望を取り入れられて重ねてお願い致します。
男	未回答	(1) 為政者の愛村の心構え次第？(2) 国県等の財政(補助金)財務について～※起債もふくむ※ a. 村民の目に見える(所得の向上)各種の産業は村民の財布に入るまで職員の指導 b. 莫大な資金の投資での観光事業の費用対効果？ c. 線香花火的マスコミ向けのイベントは、財源の浪費？ d. 村内のお堂、神社等五木村の品格を示す文化財である政経分離は拡大解釈を？e. 村政に若者の息吹を？以上
女	80代	村長様のスローガンの一つに高齢者に笑顔をと書いてあります。言葉をとっても嬉しく読んでおります。どうか、私達老人を、お守り下さいませ。
男	60代	・新村長が就任し、住民(特に若い人)と意見を交わす場を作してほしい。・昨今の豪雨・台風災害を考えると、防災対策を深く住民に浸透できるよう、話し合いを進めてもらいたい。・議会の放送はなくした方がいいです。議員のなり手がなくなる。村民の代表であれば、住民への報告会等実施すればいいと思う。
女	40代	☆転入後、村の地域性なのか近隣住民の方含め、役場の方などすんなりと受け入れて下さり、分からないこともすぐに回答を下さり助かっています。人が良く住みやすいので、他町村から転入されても定住しやすいと思います。
男	50代	村民みんなで村を盛り上げていこう。熊本県で人口が一番少ない村なのでがんばっていきましょう。

(9) U・I ターンについて

①同居家族の状況

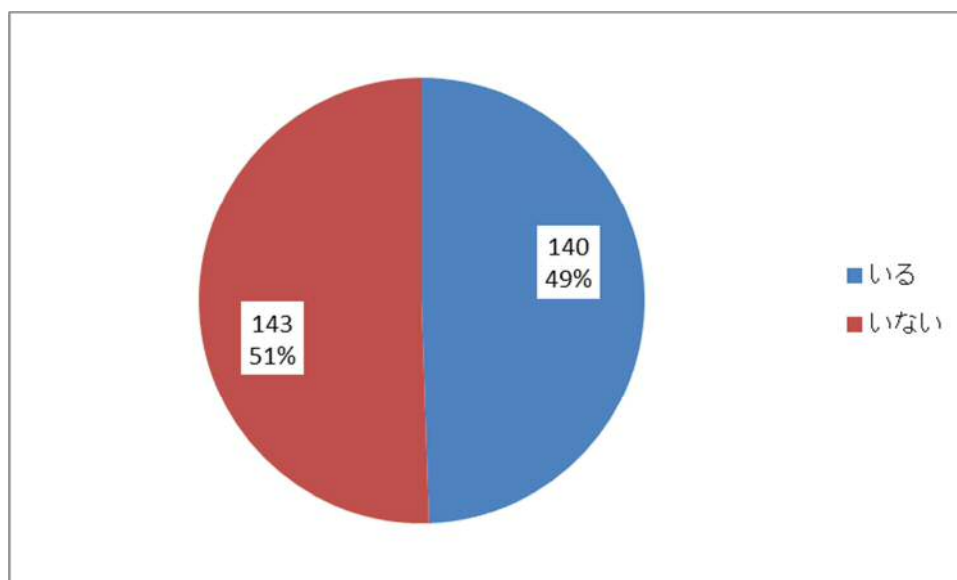
図表 2-4 3 家族との同居の状況



②非同居家族の有無

- ・同居していない家族（以下、非同居家族）の有無を尋ねた結果、「いる」（49%）、「いない」（51%）であった。

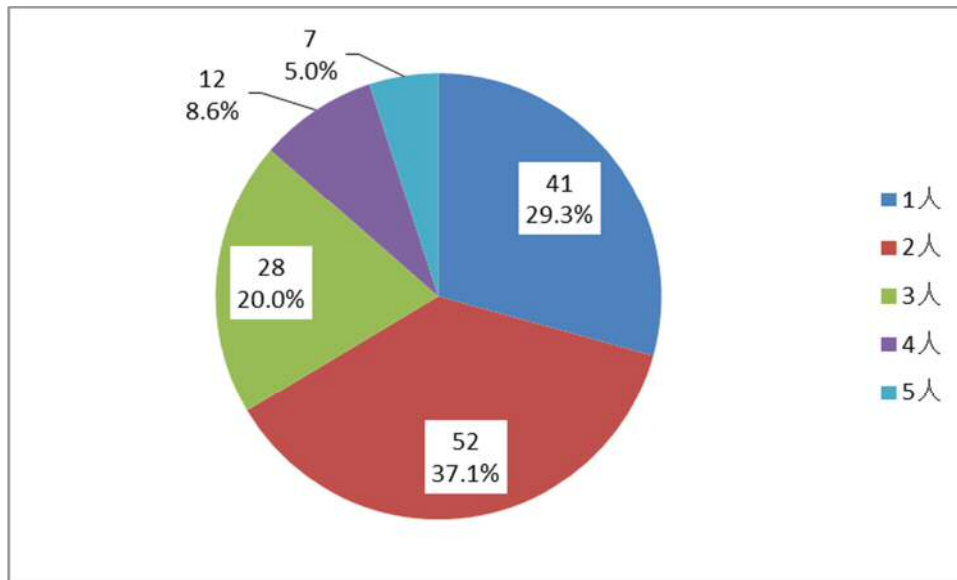
図表 2-4 4 非同居家族の有無



③非同居家族の数

- ・非同居家族の数を尋ねた結果、「1人」(29.3%)、「2人」(37.1%)、「3人」(20.0%)、「4人」(8.6%)、「5人」(5.0%)であった。

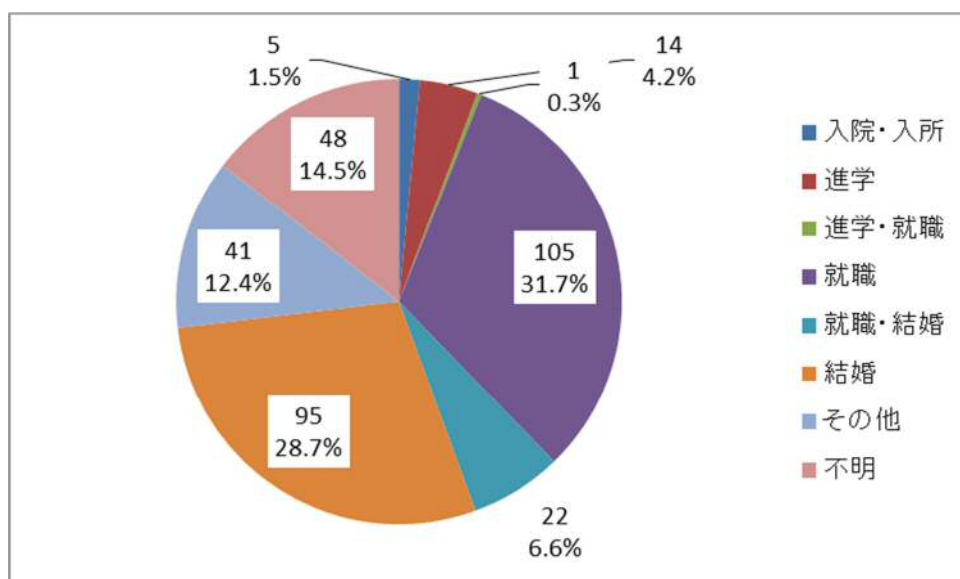
図表 2-4 5 非同居家族の数



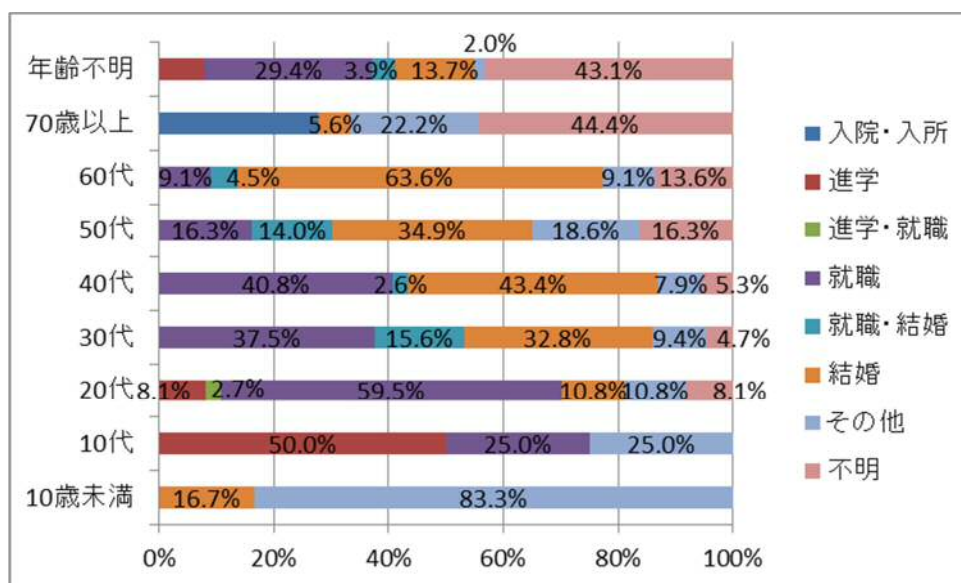
④非同居家族の別居の理由

- ・非同居家族の別居の理由を尋ねた結果、「就職」(31.7%)、「結婚」(28.7%)、「その他」(12.4%)、「進学」(4.2%)等であった。
- ・年代別にみると、「就職」は20代(59.5%)、30代(37.5%)、40代(40.8%)で高い。

図表 2-4 6 非同居家族の別居の理由



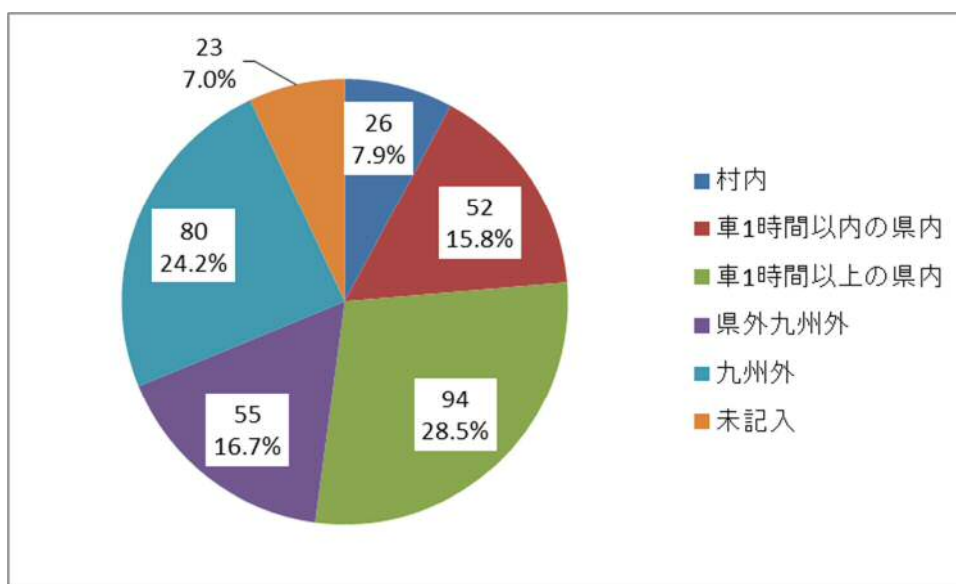
図表 2-4 7 非同居家族の別居の理由



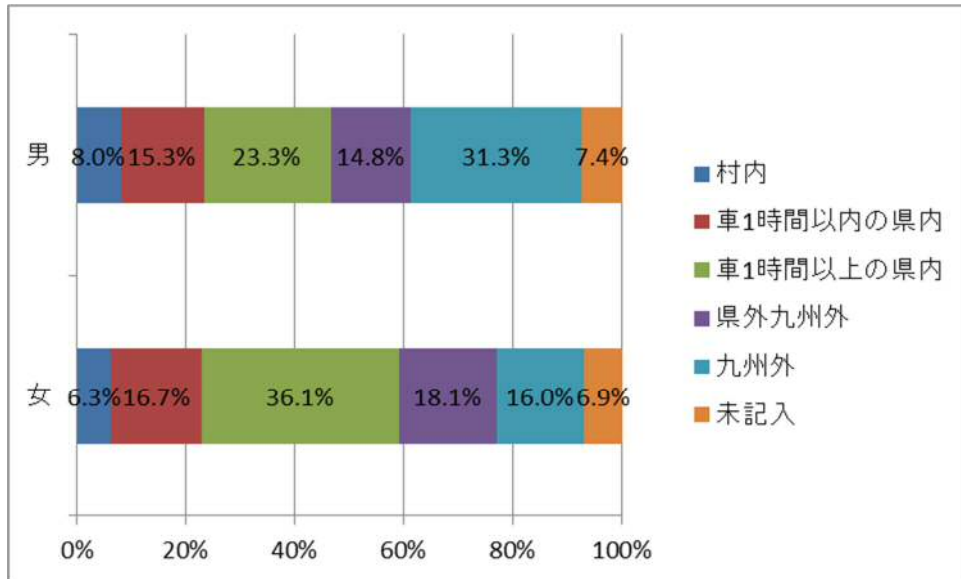
⑤非同居家族の現在居住地からの距離

- ・非同居家族の現在居住地からの距離を尋ねた結果、「県内 車で1時間未満」(15.8%)、「県内 車で1時間以上」(28.5%)、「県外 九州外」(16.7%)、「九州外」(24.2%)等であった。
- ・性別でみると、「県内」(村内、車で1時間未満、車で1時間以上の合計)は男性が46.6%、女性が59.1%であった。

図表 2-4 8 非同居家族の現在居住地からの距離



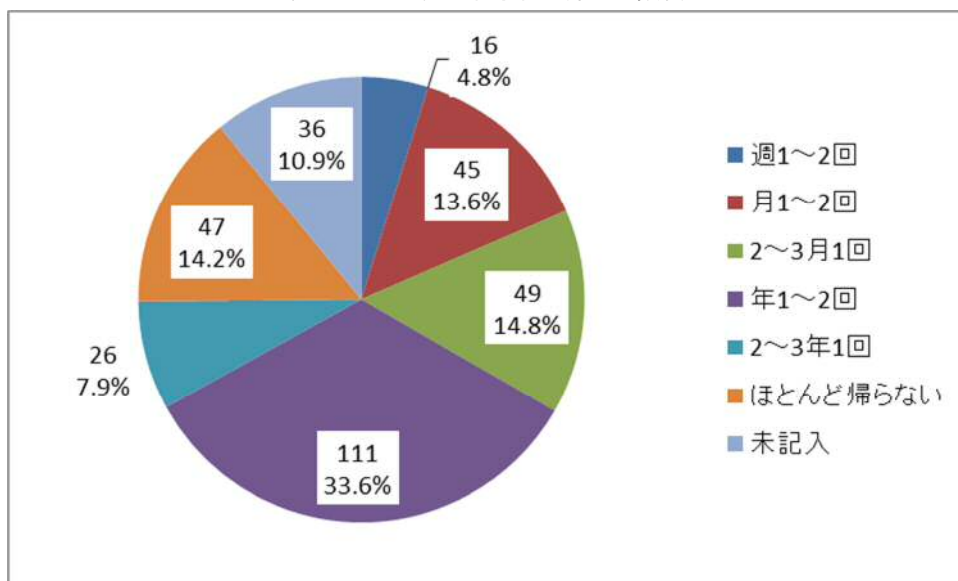
図表 2-4 9 非同居家族の現在居住地からの距離（性別）



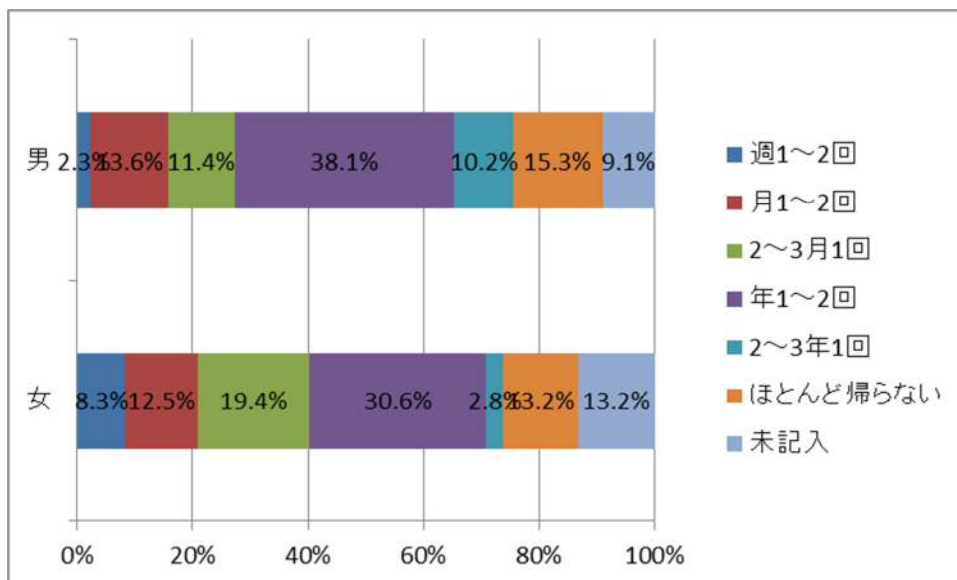
⑥非同居家族の帰省の頻度

- ・ 非同居家族の帰省の頻度を尋ねた結果、「2～3ヶ月に1回」以上が（33.2%）となり、「年1～2回」（33.6%）、「2～3年に1回」（7.9%）となった。一方、「ほとんど帰らない」は14.2%となった。
- ・ 性別でみると、「2～3ヶ月に1回」以上は、男性が27.3%、女性が40.2%となった。

図表 2-5 0 非同居家族の帰省の頻度



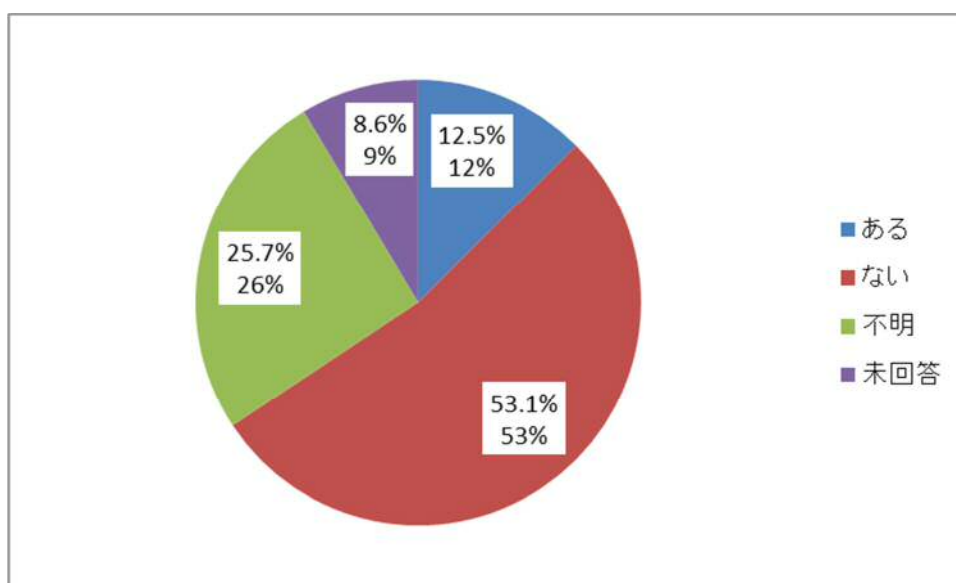
図表 2-5 1 非同居家族の帰省の頻度



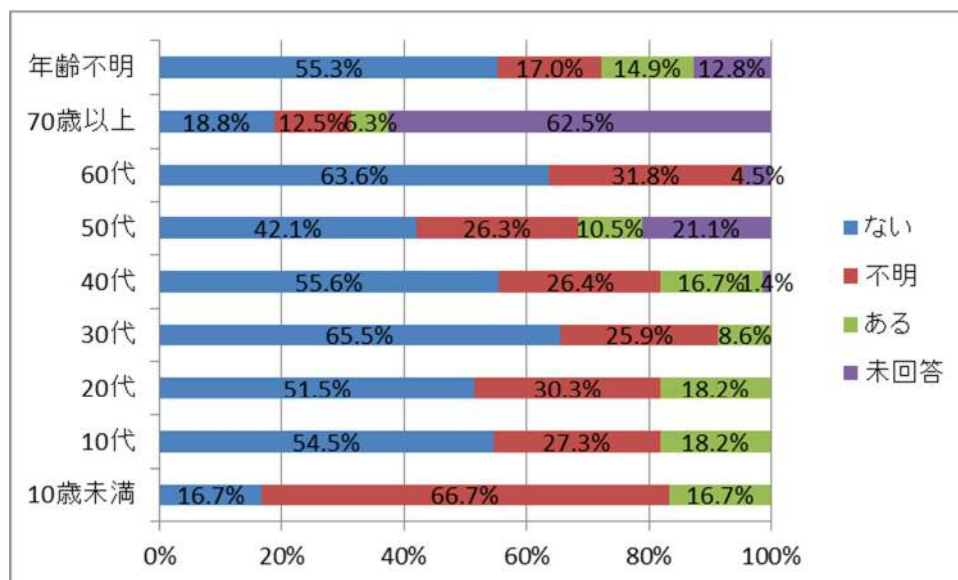
⑦非同居家族の将来のＵターン可能性

- ・非同居家族の将来のＵターン可能性を尋ねた結果、「ない」(53.1%)、「不明」(25.7%)となった一方、「ある」(12.5%)となった。
- ・年代別にみると、「ない」は10代(54.5%)、20代(51.5%)、30代(65.5%) 40代(55.6%)、50代(42.1%)、60代(63.6%)が高くなった。

図表 2-5 2 非同居家族の将来のＵターン可能性



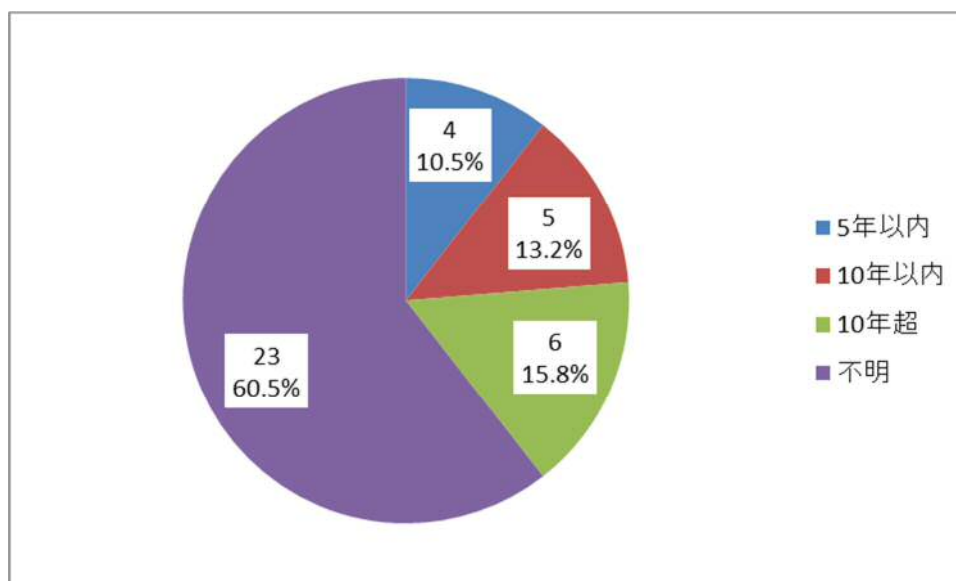
図表 2-5 3 非同居家族の将来のＵターン可能性（年代別）



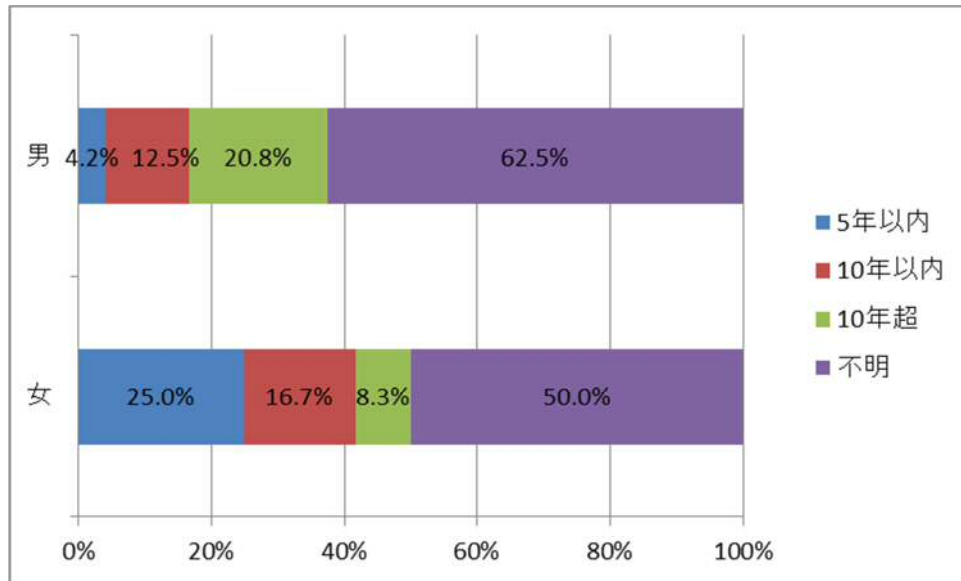
⑧非同居家族の将来のＵターン可能性の時期

- ・ 将来のＵターン可能性が「ある」と回答した人に、将来のＵターン可能性の時期を尋ねた結果、「5年以内」（10.5%）、「10年以内」（13.2%）、「10年超」（15.8%）となった一方、「不明」（60.5%）となった。
- ・ 性別にみると、「5年以内」は男性が4.2%、女性が25.0%となった。

図表 2-5 4 非同居家族の将来のＵターン可能性の時期



図表 2-5 5 非同居家族の将来のＵターン可能性の時期（性別）



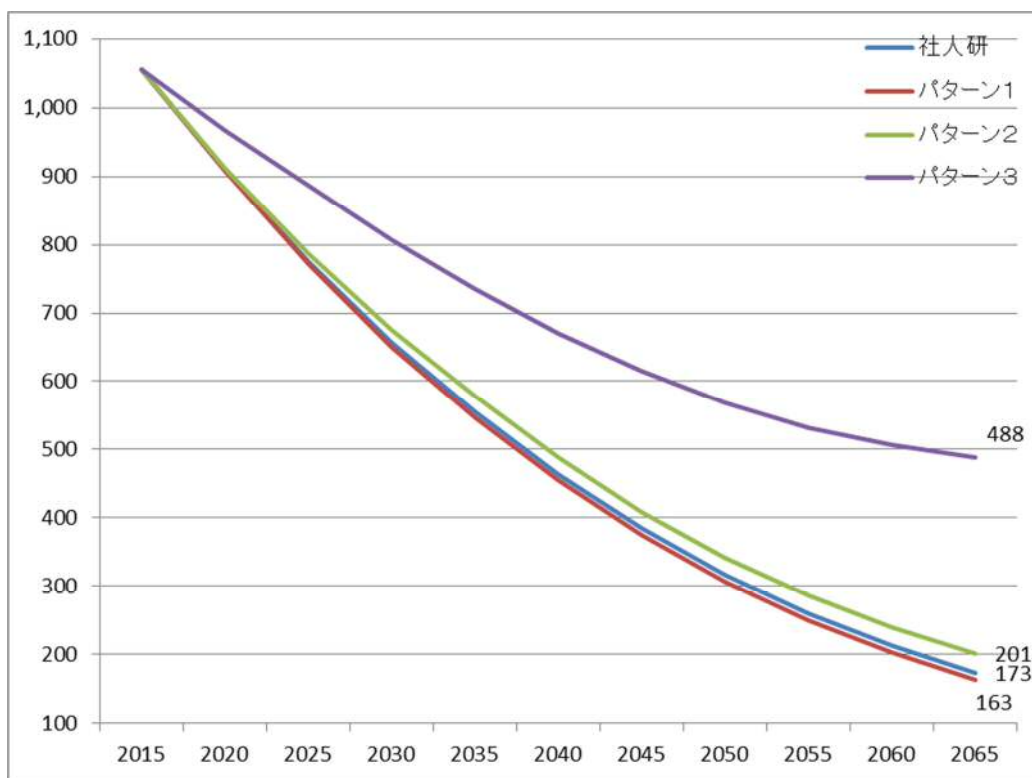
2. アンケート調査結果に基づく人口の将来推計

(1) 人口変動要素の将来の方向に基づく人口推計

①将来推計

- ・ 村民アンケート調査結果を反映した人口変動要素の将来の方向性に基づく推計を行った結果は、以下のとおりとなった。
- ・ パターン1は、社人研推計を下回って推移し、2065年(令和42年)に163人となる。
- ・ パターン2は、社人研推計を上回って推移し、2065年(令和42年)に201人となる。
- ・ パターン3は、社人研推計を上回って推移し、2065年(令和42年)に488人となる。

図表2-56 五木村の総人口の長期的推計



単位: 人

	社人研	パターン1	パターン2	パターン3
2015	1,055	1,055	1,055	1,055
2020	909	909	911	968
2025	774	771	786	887
2030	657	651	675	807
2035	555	546	578	735
2040	464	455	488	670
2045	384	375	409	614
2050	316	306	342	568
2055	259	250	286	532
2060	213	203	240	506
2065	173	163	201	488

②計算条件

- ・将来推計の計算条件は、以下のとおり。

図表 2-5 7 五木村の総人口の長期的推計の計算条件

	パターン1	パターン2	パターン3
合計特殊出生率※	・2020年まで1.49 ・2025年以降1.10	・2020年まで1.49 ・2025年から2.2 ・2040年以降2.39	・2020年まで1.49 ・2025年から2.2 ・2040年以降2.39
生存率	変更しない	変更しない	変更しない
純移動率	社人研推計	社人研推計を見直し ・20～40歳の転出超過(マイナス)を12.1%減少 ・20～40歳の転入超過(プラス)を12.1%増加	設定しない
移動数	設定しない	設定しない	設定しない
0～4歳の性比	変更しない	設定しない	設定しない

※合計特殊出生率について

- ・2013年以降の数値が公表されていないため、2013年～2018年の合計特殊出生率の平均値を算定。期間平均値 1.49
- ・パターン1の2025年以降の1.10の計算根拠は「出生率（ver.1）」（P. 77）参照。熊本県人口ビジョン【概要版】を参考に作成。
- ・パターン2の2025～2065年までの計算根拠は「出生率（ver.2）」、「純移動率（ver.1）」参照（P. 78～83）。「村民アンケート調査」より作成。
- ・パターン3の2025～2065年までの計算根拠は「出生率（ver.2）」参照。社会増減を想定しないパターンで純移動率を設定しない。

(2) 村民アンケート調査結果に基づく人口変動要素の検討

①出生率 (ver. 1)

- ・国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」で示された国民希望出生率の考え方に準じて、有配偶者及び独身者の割合は国勢調査（2015年）の五木村のデータを用いた。
- ・予定の子供の人数と独身者の希望子供数、独身者のうちの結婚希望者割合は、村民アンケート調査結果を用いて、独自に算定した。

(i) 熊本県人口ビジョン【概要版】を参考に作成した出生率

1.10

※計算式＝（（有配偶者割合×予定の子供の人数）＋独身者割合（五木村・女性20～39歳）×独身者のうち結婚希望者割合×独身者の希望子供数）×0.938

(ii) 計算条件

有配偶者割合（五木村・女性20歳～39歳	55 %
予定の子供の人数	1.15 人
有配偶者割合（五木村・女性20歳～39歳 （1－有配偶者割合）	45 %
独身者のうち結婚希望割合※	66.7 %
独身者の希望子供数	1.67 人
離死別再婚効果係数(全国)	0.938

※村民アンケート結果より（「今後結婚しようと思っている」＋「わからない」）／「未婚女性20～39歳」

(iii) 村民アンケート

理想とする子供の数 (20～39歳未婚女性)	カテゴリ	n	子供の数
	1人	1	1
	2人	2	4
		3	5

②出生率 (ver. 2)

- ・村民アンケート調査結果を用いて、前提条件を設定し、出生率を独自算出した。

(i) 村民アンケート調査結果に基づく出生率（独自算出）

2035年までの村民予定出生数	2.20	人
2035年以降の村民希望出生数	2.39	人

(ii) 計算条件

回答数 (20代～40代)	45人
うち理想とする子供の人数回答者	36人

合計特殊出生率(2013～2018平均値)	1.49
子供の人数	1.73人
予定する子供の人数	1.15人
理想とする子供の人数	2.39人

計算式: $69 \text{ 人} / (45 \text{ 人} - 5 \text{ 人})$ 計算式: $45 \text{ 人} / (45 \text{ 人} - 6 \text{ 人})$ 計算式: $86 \text{ 人} / (45 \text{ 人} - 9 \text{ 人})$

出産満足度からの実現率	0.778
修正希望人数	1.86人
修正希望人数-予定の子供の人数	0.71人
2035年までの村民出生数	2.20人
2035年以降の村民理想出生数	2.39人

計算式: 実現人数 28 人 / 理想とする子供の人数回答者 36 人

計算式: $0.778 \times \text{理想とする子供の人数 } 2.39 \text{ 人}$

計算式:

計算式:

(iii) 村民アンケート調査結果

現在の子供の数

カテゴリー	n	子供の数
0人	7	0
1人	10	10
2人	10	20
3人	13	39
4人以上	0	0
不明	5	0
	45	69

今後の子供の数

カテゴリー	n	予定子供数
0人	16	0
1人	10	10
2人	5	10
3人	7	21
4人以上	1	4
不明	6	0
	45	45

理想とする子供の数

カテゴリー	n	理想子供数
0人	2	0
1人	3	3
2人	14	28
3人	13	39
4人以上	4	16
不明	9	0
	45	86

出産に関する満足度

カテゴリー	n	点数化	実現人数
満足している	22	0.75	16.5
まあ満足している	22	0.5	11
あまり満足していない	2	0.25	0.5
満足していない	4	0	0
不明	25	0	0
	75		28

③純移動率（ver.1）

- ・村民アンケート調査結果を用いて、前提条件を設定し、社人研の純移動率を見直した。

（i）アンケート調査結果に基づく社人研の純移動率の見直し

- ・20～40代の社人研推計の転出超過（マイナス）について、12.1%減少させる。
- ・20～40代の社人研推計の転入超過（プラス）について、12.1%増加させる。

※社人研の純移動率の見直しの根拠

14.1	%	・非同居家族（20～40代）の将来Uターン可能性が「ある」とした回答割合→14.1%
▲1.8	%	・アンケート結果が国勢調査の減少率より低く影響すると仮定する→▲1.8%影響
12.3	%	・20～40代の見直し率→14.1%-1.8%

（ii）社人研の純移動率の見直し

- ・社人研推計

・社人研推計

純移動率・男	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年	→2050年	→2055年	→2060年	→2065年
20～24歳→25～29歳	0.38658	0.42968	0.43559	0.45493	0.47772	0.4853	0.4853	0.4853	0.4853	0.4853
25～29歳→30～34歳	-0.1298	-0.12883	-0.12807	-0.12684	-0.12193	-0.11656	-0.11656	-0.11656	-0.11656	-0.11656
30～34歳→35～39歳	-0.05951	-0.01073	-0.01139	-0.01124	-0.0102	-0.00492	-0.00492	-0.00492	-0.00492	-0.00492
35～39歳→40～44歳	-0.01028	-0.0054	-0.00374	-0.00446	-0.00445	-0.00383	-0.00383	-0.00383	-0.00383	-0.00383
40～44歳→45～49歳	-0.03787	-0.00782	-0.01067	0.0157	0.01445	0.01426	0.01426	0.01426	0.01426	0.01426
45～49歳→50～54歳	0.04681	0.04839	0.05438	0.05919	0.06096	0.06035	0.06035	0.06035	0.06035	0.06035

純移動率・女	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年	→2050年	→2055年	→2060年	→2065年
20～24歳→25～29歳	0.27365	0.27529	0.28349	0.30806	0.32741	0.33598	0.33598	0.33598	0.33598	0.33598
25～29歳→30～34歳	-0.17265	-0.05757	-0.05789	-0.0552	-0.04676	-0.03952	-0.03952	-0.03952	-0.03952	-0.03952
30～34歳→35～39歳	0.0267	-0.03761	0.03639	0.0351	0.03788	0.04773	0.04773	0.04773	0.04773	0.04773
35～39歳→40～44歳	-0.0607	-0.05478	-0.05383	-0.05303	-0.05377	-0.05278	-0.05278	-0.05278	-0.05278	-0.05278
40～44歳→45～49歳	-0.05916	-0.05874	-0.05844	-0.05834	-0.05838	-0.05843	-0.05843	-0.05843	-0.05843	-0.05843
45～49歳→50～54歳	-0.00917	-0.00935	-0.00774	-0.0063	-0.00574	-0.00576	-0.00576	-0.00576	-0.00576	-0.00576

- ・見直し後

転出超過（マイナス）	0.877
転入超過（プラス）	1.123

純移動率・男	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年	→2050年	→2055年	→2060年	→2065年
20～24歳→25～29歳	0.433356	0.481671	0.488296	0.509977	0.535524	0.544021	0.544021	0.544021	0.544021	0.544021
25～29歳→30～34歳	-0.11409	-0.11324	-0.11257	-0.11149	-0.10718	-0.10246	-0.10246	-0.10246	-0.10246	-0.10246
30～34歳→35～39歳	-0.05231	-0.00943	-0.01001	-0.00988	-0.00897	-0.00432	-0.00432	-0.00432	-0.00432	-0.00432
35～39歳→40～44歳	-0.00904	-0.00475	-0.00329	-0.00391	-0.00391	-0.00337	-0.00337	-0.00337	-0.00337	-0.00337
40～44歳→45～49歳	-0.03329	-0.00687	-0.00938	0.0176	0.016198	0.015985	0.015985	0.015985	0.015985	0.015985
45～49歳→50～54歳	0.052474	0.054245	0.06096	0.066352	0.068336	0.067652	0.067652	0.067652	0.067652	0.067652

純移動率・女	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年	→2050年	→2055年	→2060年	→2065年
20～24歳→25～29歳	0.306762	0.3086	0.317792	0.345335	0.367027	0.376634	0.376634	0.376634	0.376634	0.376634
25～29歳→30～34歳	-0.15176	-0.0506	-0.05089	-0.04852	-0.0411	-0.03474	-0.03474	-0.03474	-0.03474	-0.03474
30～34歳→35～39歳	0.029931	-0.03306	0.040793	0.039347	0.042463	0.053505	0.053505	0.053505	0.053505	0.053505
35～39歳→40～44歳	-0.05336	-0.04815	-0.04732	-0.04661	-0.04726	-0.04639	-0.04639	-0.04639	-0.04639	-0.04639
40～44歳→45～49歳	-0.052	-0.05163	-0.05137	-0.05128	-0.05132	-0.05136	-0.05136	-0.05136	-0.05136	-0.05136
45～49歳→50～54歳	-0.00806	-0.00822	-0.0068	-0.00554	-0.00505	-0.00506	-0.00506	-0.00506	-0.00506	-0.00506

(iii) 村民アンケート調査結果

○村民アンケート

- ・非同居家族（20～40代）の将来Uターン可能性「ある」との回答割合14.1％を純移動率の見直しに使用

非同居家族のUターンの可能性

	ない	不明	ある	未回答	合計
20～40代	95	44	23	1	163
	58.3%	27.0%	14.1%	0.6%	100.0%

	ない	不明	ある	未回答	合計
10歳未満	1	4	1	0	6
	16.7%	66.7%	16.7%	0.0%	100.0%
10代	6	3	2	0	11
	54.5%	27.3%	18.2%	0.0%	100.0%
20代	17	10	6	0	33
	51.5%	30.3%	18.2%	0.0%	100.0%
30代	38	15	5	0	58
	65.5%	25.9%	8.6%	0.0%	100.0%
40代	40	19	12	1	72
	55.6%	26.4%	16.7%	1.4%	100.0%
50代	16	10	4	8	38
	42.1%	26.3%	10.5%	21.1%	100.0%
60代	14	7	0	1	22
	63.6%	31.8%	0.0%	4.5%	100.0%
70歳以上	3	2	1	10	16
	18.8%	12.5%	6.3%	62.5%	100.0%
年齢不明	26	8	7	6	47
	55.3%	17.0%	14.9%	12.8%	100.0%

○村民アンケート

- ・アンケート結果が国勢調査の減少率より改善すると仮定する（A/B）

→ 1.8% マイナスに影響

A…今後の居留意向（20～40代）の「できれば村外に転出したい」と「村外に転出」以外の割合 86.6%

	1. 住み続けたい	2. できれば住み続けたい	3. できれば村外に転出したい	4. 村外に転出予定	不明	未回答	合計
20～40代	13 28.9%	19 42.2%	3 6.7%	3 6.7%	7 15.6%	0 0.0%	45

「できれば村外に転出したい」と「村外に転出」以外の割合（不明・未回答を含む）

B…国勢調査（2015）の20～40代の2010年比 88.4%

国勢調査（2010→2015）

	2010	2015	2010/2015
総数（年齢）	1205	1,055	87.6
0～4歳	31	16	51.6
5～9歳	32	35	109.4
10～14歳	47	30	63.8
15～19歳	33	21	63.6
20～24歳	28	17	60.7
25～29歳	33	36	109.1
30～34歳	33	33	100.0
35～39歳	52	41	78.8
40～44歳	45	50	111.1
45～49歳	59	44	74.6
50～54歳	91	66	72.5
55～59歳	106	88	83.0
60～64歳	108	93	86.1
65～69歳	96	100	104.2
70～74歳	123	91	74.0
75～79歳	120	105	87.5
80～84歳	81	92	113.6
85～89歳	57	54	94.7
90～94歳	26	32	123.1
95～99歳	4	10	250.0
100歳以上	0	1	

	2010	2015	2010/2015
総数（年齢）	250	221	88.4
20～24歳	28	17	60.7
25～29歳	33	36	109.1
30～34歳	33	33	100.0
35～39歳	52	41	78.8
40～44歳	45	50	111.1
45～49歳	59	44	74.6



Ⅲ. 「基本目標」策定に向けて

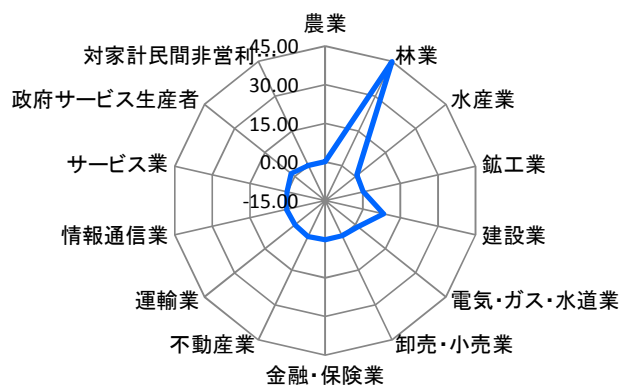
Ⅲ.「基本目標の策定」に向けて

1. 産業の特徴

(1) 産業別特化係数

- ・五木村の産業別特化係数（五木村内の構成比÷熊本県の構成比）をみると、林業が44.85と突出しており、成長エンジンとして位置づけられる。
- ・次いで、建設業（8.35）となっているが、他産業では1（＝熊本県）を下回るものが多い。

図表 3-1 五木村の産業別特化係数

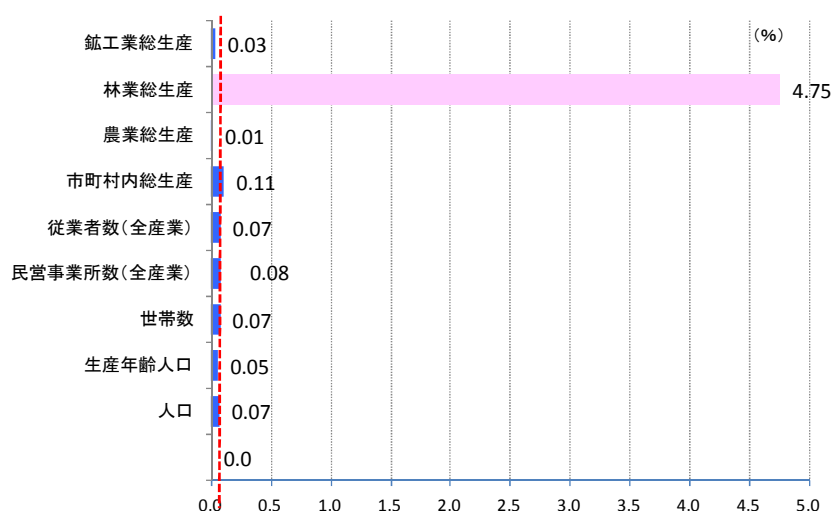


資料：熊本県「2012年度市町村民所得推計」

(2) 人口規模との比較

- ・五木村の熊本県に占める人口比率（0.07％）を基準とした各指標をみると、林業が4.75％と突出している一方で農業総生産（0.01％）、鉱工業総生産（0.03％）が低い。
- ・市町村内総生産は0.11％と人口規模と比較して大きいですが、従業者数（0.07％）、民営事業者数（0.08％）、世帯数（0.07％）は人口規模とほぼ同水準である。ただ、生産年齢人口（0.05％）は若干下回る。

図表 3-2 五木村の人口規模との比較



資料：国勢調査、経済センサス（総務省）、市町村民所得推計、熊本県観光統計（熊本県）、工業統計（経済産業省）、生産農業所得統計（農林水産省）

2. 課題の整理

(1) GDPに与える影響

- ・五木村のGDPは1991年頃ピークアウトし、2000年代半ばから人口と同じトレンドで減少し続けている。労働生産性でも、1,200千円前後の水準で推移している。
- ・今後のマイナス成長の定着を回避するために、以下のような対策を含めた総合的な政策の展開が求められる。

○労働生産性の向上

➢付加価値を高め、域内での資金循環を促進

○就業率の向上

➢女性と高齢者の社会進出支援

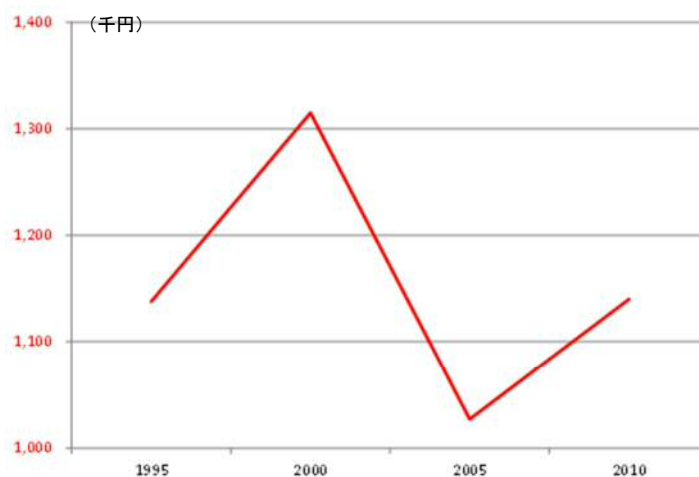
○労働力人口の減少の抑制

➢社会流出を抑制し、雇用機会を確保 など

図表3-3 五木村の人口とGDPの推移（再掲）



図表3-4 五木村の労働生産性（GDP÷就業人口）



(2) 集落への影響

- ・五木村全体のGDPが将来にわたり減少傾向で推移することが見込まれる中、各集落を構成する人口も減少し、集落の小規模化や高齢化が進んでいる。
- ・集落の小規模化、高齢化によって、これまで構築されてきた社会インフラや施設等の維持管理や、寄合の開催や作業などの共同機能が低下する。
- ・集落への影響を最小限にとどめるための方策が求められる。

①新しい人の流れをつくる

○社会増への転換

- 将来的な地方移住にもつながる「関係人口」の創出・拡大。

U・Iターンにより新たな居住者を迎え入れることで社会増へ転換。

- 「五木村基本構想」で掲げる「経済の活性化」による働く場づくり、「人の活性化」によるひとづくりの促進。

○自然減の抑制

- 村民が希望する数の子どもを産み、安心して子育てができる環境の整った村づくりによる人口の自然減の抑制。

- 「五木村基本構想」で掲げる「経済の活性化」による「生活環境の整備」の促進。

②人口減少を踏まえた公共施設等の選択と集中

○利用者ニーズとサービス機能のバランス

- 集落における利用実態を把握したうえで、公共施設配置の方向性や拠点形成の検討。

③周辺自治体との連携

○周辺自治体間での役割分担やネットワークの形成

- 人吉球磨定住自立圏共生ビジョンの実践。

等

(3) S W O T 分析例

- ・五木村の経済自立を図るための方策を検討するうえで想定される S W O T 分析例は以下のとおり。

○外部環境

- ・【機会】(Opportunity)
 - 情報通信基盤等の生活環境の充実
 - Society5.0等の未来技術の進展
- ・【脅威】(Thread)
 - 五木村全体の人口減少に伴う G D P のマイナス推移
 - 人吉市をはじめとする周辺自治体の人口減少
 - 生活への影響が大きい根強いデフレ、エネルギー等の高騰 等

○内部要因

- ・【強み】(Strength)
 - 新たな林業従事者の雇用確保、定住者確保の可能性が広がるなど、主要産業である林業を取り巻く環境の改善
 - 全国的に知名度の高い五木の子守唄などのコンテンツを有し、白滝公園、歴史文化資料館ヒストリアテラス、森と溪流五木ステイ等施設整備、カヤックやバンジージャンプ等の水没予定地でのアウトドアスポーツによる観光振興 等
- ・【弱み】(Weakness)
 - 森林等を除く可住地面積が少なく、U・I ターン者の受け入れに際しての住居確保や農業参入等の阻害要因
 - 人口減少と高齢化の進展に伴う労働生産性の維持が困難
 - 地域に必要な所得を地域産業から充足させる地域内経済循環の低さ 等

以上